

市民の生活等に関する調査
(ひきこもりに関する実態調査)
報告書

平成31年3月

札幌市

目 次

I 無作為抽出アンケート調査	1
1 調査の概要	2
(1) 調査目的	2
(2) 調査項目	2
(3) 調査対象	2
(4) 調査時期	2
(5) 調査方法	2
(6) 回収結果	2
2 広義のひきこもり群、親和群の定義	3
(1) 広義のひきこもり群（本人票）	3
(2) 親和群（本人票）（注1）	6
(3) 一般群（本人票）	6
(4) 過去に広義のひきこもりであったと思われる人の群（本人票）	7
3 調査の結果（本人票）	8
(1) 基本的属性について	8
(2) 学校生活に関すること	17
(3) 就労に関すること	27
(4) 普段の活動に関すること	33
(5) ひきこもりの状態に関すること	35
(6) 相談機関に関すること	41
(7) ひきこもりの状態からの立ち直りに関すること	49
(8) 自分についてにあてはまること	56
(9) 悩み事の相談に関すること	72
II 当事者向けアンケート調査	77
1 調査の概要	78
(1) 調査目的	78
(2) 調査対象	78
(3) 調査時期	78
(4) 調査方法	78
(5) 配布数内訳	78
(6) 回収結果（率）	78
(7) 調査項目	78
2 調査の結果	79
(1) 当事者の基本的属性について	79
(2) 当事者の学校生活・就労に関すること	83
(3) ひきこもりの状態に関すること	84
(4) 相談機関に関すること	88
(5) ひきこもりの状態からの立ち直りに関すること	90

III 民生委員・児童委員向けアンケート調査	93
1 調査の概要	94
(1) 調査の目的	94
(2) 調査対象	94
(3) 調査時期	94
(4) 調査方法	94
(5) 回収結果 (率)	94
(6) 調査項目	94
2 調査の結果	95
(1) ひきこもり等の状態該当者について	95
(2) ひきこもり等の方への支援策	102
IV 今後の支援に向けた3調査結果の比較	103
1 関係機関への相談意向	104

※本報告書の留意点

- ・「n」は質問に対する回答者数で、100%が何人の回答に相当するかを示す比率算出の基数である。
- ・結果数値 (%) は表章単位未満を四捨五入してあるので、内訳の合計が計に一致しないこともある。
- ・「M. T.」は、回答数の合計を回答者数 (n) で割った比率であり、通常、その値は100%を超える。
- ・回答の選択肢が長い場合は、その一部を省略して表章して集計しているものがある。

I 無作為抽出アンケート調査

1 調査の概要

(1) 調査目的

本市では、ひきこもり等の困難を抱える子ども・若者の自立支援施策の推進にあたり、15歳～39歳の子ども・若者の生活状態及び困難を抱える若者のニーズや課題を把握するため、平成23年度に「若者の意識に関する調査」（以下、前回調査）を実施した。

本調査は、昨今、ひきこもりの長期化や高年齢化が問題になっていることを踏まえ、対象を15歳～64歳に拡大し、中高年層を含む、ひきこもりの実態及び当事者の意向等を把握することを目的として行い、支援施策を検討する際の基礎資料とする。

(2) 調査項目

【本人票】

- a. 基本的属性について（Q 1～Q 7）
- b. 学校生活に関すること（Q 8～Q 1 1）
- c. 就労に関すること（Q 1 2～Q 1 5）
- d. 普段の活動に関すること（Q 1 6）
- e. ひきこもりの状態に関すること（Q 1 7～Q 2 0）
- f. 相談機関に関すること（Q 2 1～Q 2 3）
- g. ひきこもりの状態からの立ち直りに関すること（Q 2 4～Q 2 8）
- h. 自分についてあてはまること（Q 2 9）
- i. 悩み事の相談に関すること（Q 3 0～Q 3 1）

【家族票】

- a. 対象者の基本的属性について（Q 1～Q 5）
- b. 対象者の学校生活に関すること（Q 6～Q 7）
- c. 対象者の就労に関すること（Q 8）
- d. 対象者の普段の活動に関すること（Q 9）
- e. 対象者のひきこもりの状態に関すること（Q 1 0～Q 1 3）
- f. 相談機関に関すること（Q 1 4～Q 1 6）
- g. 対象者のひきこもりの状態からの立ち直りに関すること（Q 1 7～Q 1 9）
- h. 自由意見（Q 2 0）

(3) 調査対象

- a. 母 集 団 札幌市在住の15歳以上64歳以下の者
- b. 標 本 数 本人10,000人と同居する成人家族
- c. 抽出方法 等間隔無作為抽出法

(4) 調査時期

平成30年8月15日～8月31日

(5) 調査方法

郵送配布・郵送回収

(6) 回収結果

回収数（率）	本人 3,909人（39.1%）※	家族 2,836人
有効回収数（率）	本人 3,903人（39.0%）	家族 2,836人
※白票5票、本人死亡による無効票1票		
本人票+家族票（a）	2,783人	
本人票のみ（b）	1,126人	
家族票のみ（c）	53人	
どちらか一方は回収（a+b+c）	3,962人	

2 広義のひきこもり群、親和群の定義

(1) 広義のひきこもり群（本人票）

広義のひきこもり群については、平成27年に内閣府が実施した調査の定義を用いた。

本調査における広義のひきこもり群は

「Q17 ふだんどのくらい外出しますか。」について、下記の5～8に当てはまる者

5. 趣味の用事のみときだけ外出する
6. 近所のコンビニなどには出かける
7. 自室からは出るが、家からは出ない
8. 自室からほとんど出ない

かつ

「Q19 現在の状態となってどのくらい経ちますか。」について、6ヶ月以上と回答した者

であって、

「Q20 現在の状態になったきっかけは何ですか。」で、

- ①「病気（病名： ）」を選択し、病名に統合失調症又は身体的な病気を記入した者、
- ②「妊娠した」を選択した者、
- ③「その他（ ）」を選択し、（ ）に自宅で仕事をしている旨や出産・育児をしている旨を記入した者

又は

「Q12 あなたは現在働いておられますか。」で、「専業主婦・主夫又は家事手伝い」と回答した者

「Q16 ふだんご自宅にいるときによくしていることすべてに○をつけてください。」で、「家事・育児をする」と回答した者

を除いた人数であり、年代別では以下のとおり。

- ・15歳～39歳 18人（有効回収数に占める割合1.25%）
- ・40歳～59歳 28人（有効回収数に占める割合1.45%）
- ・60歳～64歳 21人（有効回収数に占める割合4.09%）

このうち、Q17で6、7又は8に該当する者を「狭義のひきこもり」と、Q17で5に該当する者を「準ひきこもり」とし、「狭義のひきこもり」と「準ひきこもり」の合計を「広義のひきこもり」とする。

平成30年7月1日現在の札幌市「住民基本台帳」による人口から、年代別（15歳～39歳・40歳～59歳・60歳～64歳）における広義のひきこもりの推計数、狭義のひきこもりの推計数及び準ひきこもりの推計数は以下のとおり。

a. 15歳～39歳

札幌市「住民基本台帳」15歳～39歳人口：529,793人 有効回収数：1,444人^注

	〔該当人数（人）〕	〔有効回収数に占める割合（%）〕	〔札幌市全体の推計数（人）〕	
ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事の時だけ外出する	15	1.04	5,503	} 準ひきこもり 5,503人
ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける	2	0.14	734	
自室からは出るが、家からは出ない 又は 自室からほとんど出ない	1	0.07	367	} 十 狭義のひきこもり 1,101人
計	18	1.25		
				広義のひきこもり 6,604人

※表中の「有効回収数に占める割合」は、小数点第3位以下を四捨五入した数値であるため、当該数値を用いた推計数の算出では、表中の「札幌市全体の推計数」の数値にならない場合がある。以下同じ。

【参考. 前回調査（平成23年11月）※による推計数】

15歳～39歳人口：595,198人 有効回収数：1,003人

	〔該当人数（人）〕	〔有効回収数に占める割合（%）〕	〔札幌市全体の推計数（人）〕	
ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事の時だけ外出する	8	0.80	4,762	} 準ひきこもり 4,762人
ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける	7	0.70	4,166	
自室からは出るが、家からは出ない 又は 自室からほとんど出ない	1	0.10	595	} 十 狭義のひきこもり 4,761人
計	16	1.60		
				広義のひきこもり 9,523人

※前回調査の対象年齢は15歳～39歳

b. 40歳～59歳

札幌市「住民基本台帳」40歳～59歳人口：560,775人 有効回収数：1,932人^注

	(該当人数 (人))	(有効回収数に占める割合 (%))	(札幌市全体の推計数 (人))	
ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事の時だけ外出する	16	0.83	4,644	} 準ひきこもり 4,644人
ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける	10	0.52	2,903	
自室からは出るが、家からは出ない 又は 自室からほとんど出ない	2	0.10	581	} 狭義のひきこもり 3,484人
計	28	1.45		
				廣義のひきこもり 8,128人

c. 60歳～64歳

札幌市「住民基本台帳」60歳～64歳人口：124,605人 有効回収数：514人^注

	(該当人数 (人))	(有効回収数に占める割合 (%))	(札幌市全体の推計数 (人))	
ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事の時だけ外出する	18	3.50	4,364	} 準ひきこもり 4,364人
ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける	3	0.58	727	
自室からは出るが、家からは出ない 又は 自室からほとんど出ない	0	0.00	0	} 狭義のひきこもり 727人
計	21	4.09		
				廣義のひきこもり 5,091人

注：2ページ「(6) 回収結果」にある本人票有効回収数(3,903人)は年齢不明が含まれるため、各年代の有効回収数の合計にならない。

(2) 親和群 (本人票) (注1)

親和群については、内閣府調査の定義を用い、Q29 13～16の4項目が、すべて「1. はい」又は3項目が「1. はい」かつ1項目のみ「2. どちらかといえばはい」と答えた者から「ひきこもり群」を除いた者とした。

Q29 次にあげられたことについて、あなた自身にあてはまる数字に○をつけてください。
(○は各項目につきひとつ)

13. 家や自室に閉じこもっていて外に出ない人たちの気持ちがわかる

1. はい 2. どちらかといえばはい 3. どちらかといえばいいえ 4. いいえ

14. 自分も、家や自室に閉じこもりたいと思うことがある

1. はい 2. どちらかといえばはい 3. どちらかといえばいいえ 4. いいえ

15. 嫌な出来事があると、外に出たくなくなる

1. はい 2. どちらかといえばはい 3. どちらかといえばいいえ 4. いいえ

16. 理由があるなら家や自室に閉じこもるのも仕方がないと思う

1. はい 2. どちらかといえばはい 3. どちらかといえばいいえ 4. いいえ

(注1) 「ひきこもりを共感・理解し、ともすると閉じこもりたいと思うことがある人たち」を抽出し、親和群とした。

親和群の年代別推計値は以下のとおり。

年代別	15歳～39歳	529,793人	× 5.96%	=	31,553人
	40歳～59歳	560,775人	× 2.59%	=	14,513人
	60歳～64歳	124,605人	× 0.78%	=	970人
前回	15歳～39歳	595,198人	× 4.69%	=	27,915人

※上記の有効回収数に占める割合は、小数点第3位以下を四捨五入した数値であるため、当該数値を用いた算出では、上記の推計数の数値にならない場合がある。

(3) 一般群 (本人票)

回答者全体から「広義のひきこもり群」「親和群」を除いた者でQ29 13～16の項目にすべて回答している者。

(4) 過去に広義のひきこもりであったと思われる人の群 (本人票)

今回の調査では、以下のように定義する。

本人票「Q24 あなたは今までに6ヶ月以上連続して以下のような状態になったことはありますか。」について、下記の1～4に当てはまる者

1. 趣味の用事の時だけ外出する
2. 近所のコンビニなどには出かける
3. 自室からは出るが、家からは出ない
4. 自室からほとんど出ない

であって、

「Q27 その状態になったきっかけは何ですか。」で、

- ①「病気(病名:)」を選択し、病名に統合失調症又は身体的な病気を記入した者、
- ②「妊娠した」を選択した者、
- ③「その他()」を選択し、()に自宅で仕事をしている旨や出産・育児をしている旨を記入した者

を除いた人数であり、年代別では以下のとおり。

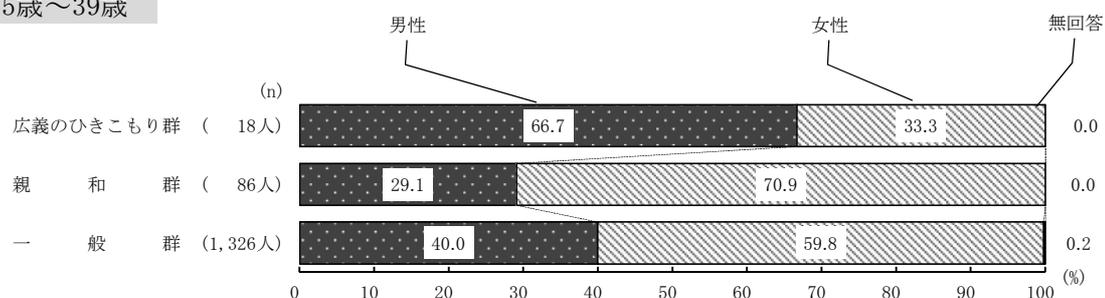
- ・15歳～39歳 85人
- ・40歳～59歳 79人
- ・60歳～64歳 16人

3 調査の結果（本人票）

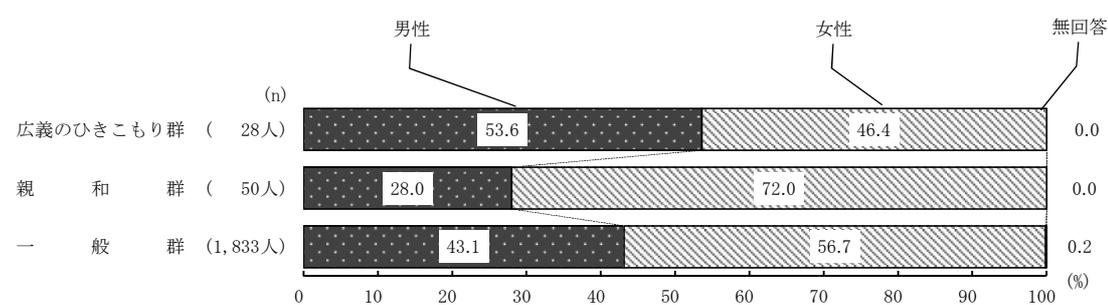
（1）基本的属性について

Q1 あなたの性別をお答えください。

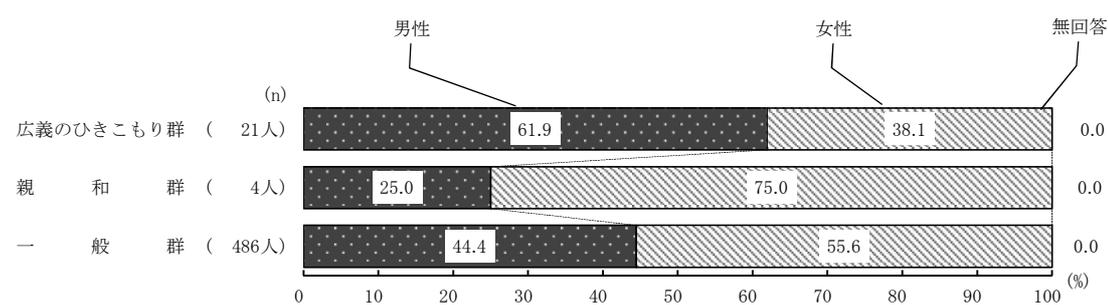
15歳～39歳



40歳～59歳

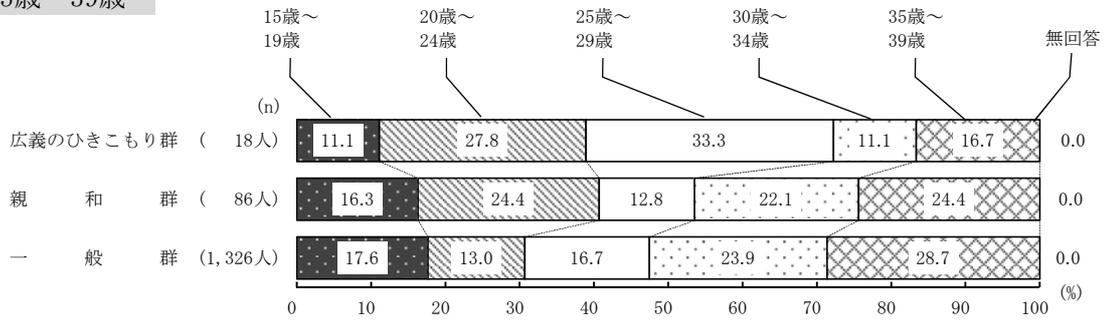


60歳～64歳

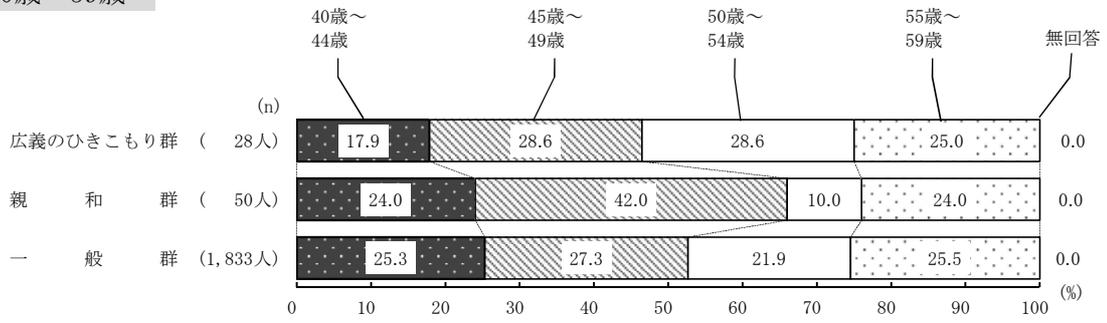


Q2 あなたの年齢をお答えください。

15歳～39歳

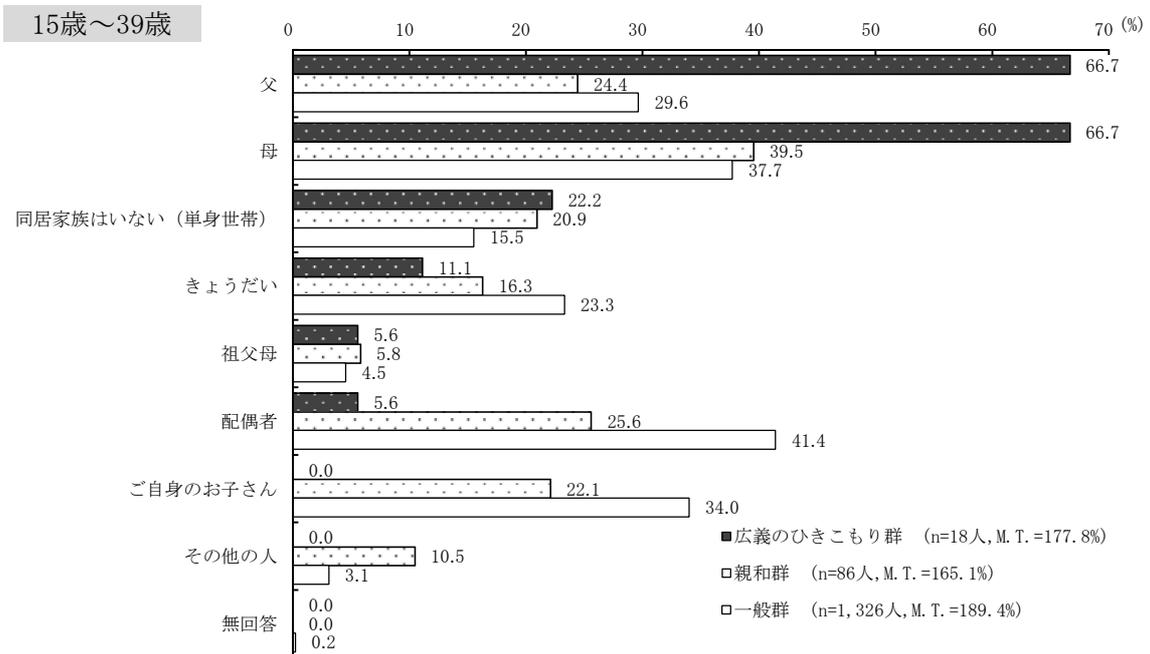


40歳～59歳



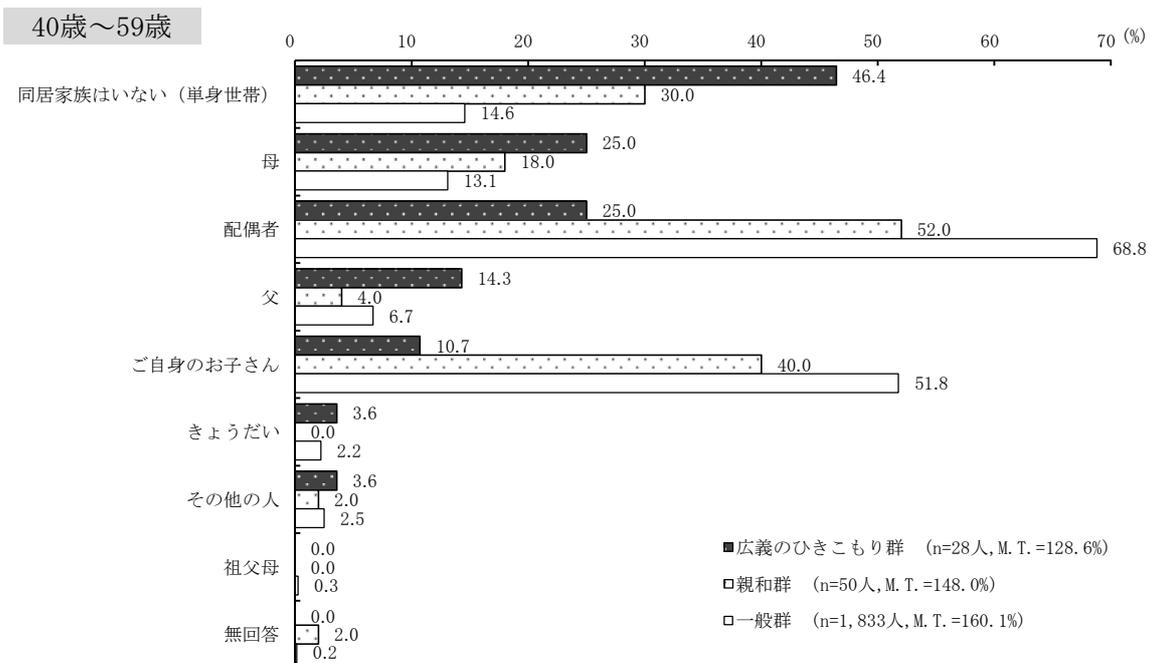
※60歳～64歳は、回答選択肢が「60歳～64歳」の1つとなるため省略した。

Q3 現在あなたと同居しているご家族に○をつけてください。(○はいくつでも)



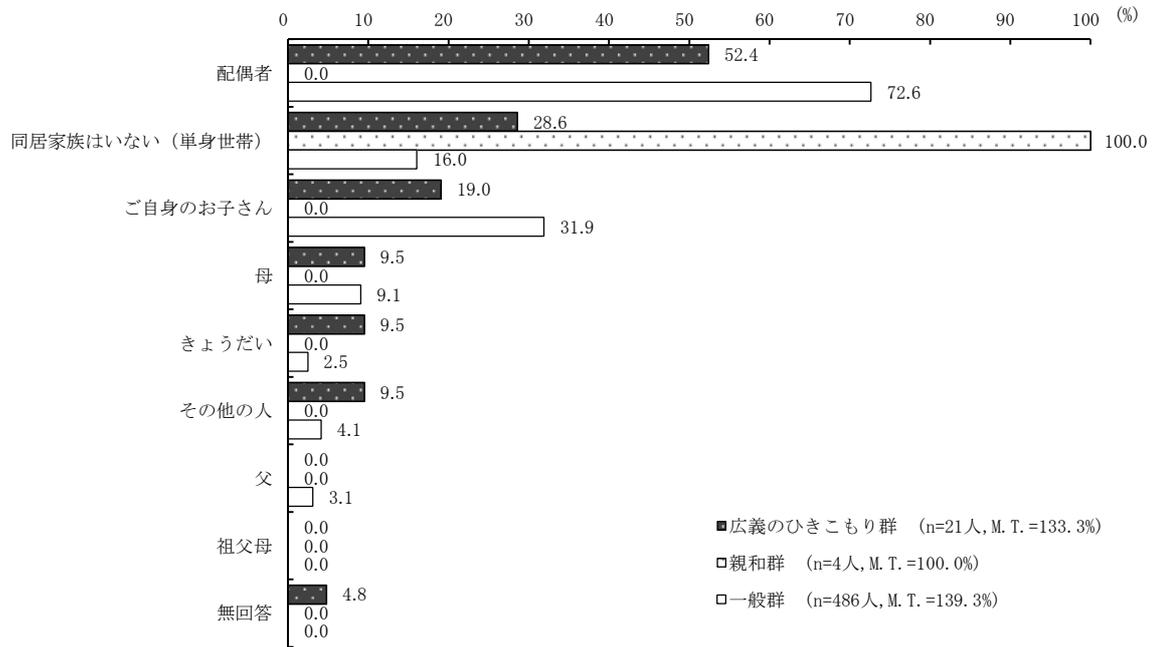
同居家族は、広義のひきこもり群では、「父」及び「母」がともに66.7%で他の2群に比べて多く、「配偶者」が5.6%、「ご自身のお子さん」が0.0%で他の2群に比べて少ない傾向がみられた。

親和群では、「母」が39.5%で最も多く、「配偶者」が25.6%、「ご自身のお子さん」が22.1%で一般群に比べて少ない傾向がみられた。



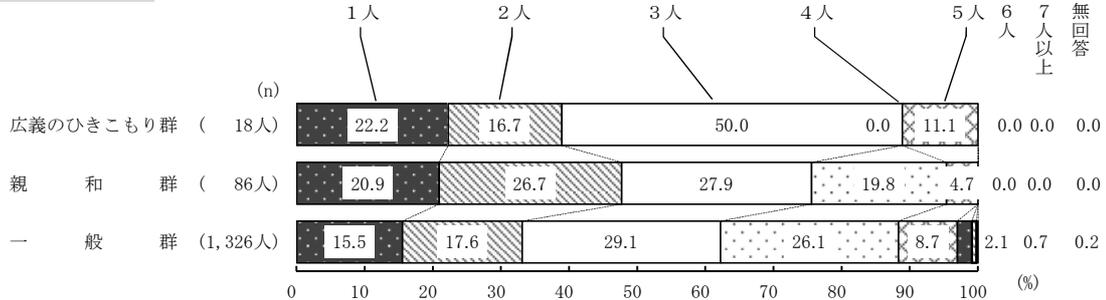
40歳～59歳で見ると、広義のひきこもり群では、「同居家族はいない (単身世帯)」が46.4%で他の2群に比べて多い傾向がみられた。

60歳～64歳



**Q 4 現在同居している人は合計で何人ですか。あなたも含めた人数を記入してください。
(数字で具体的に)**

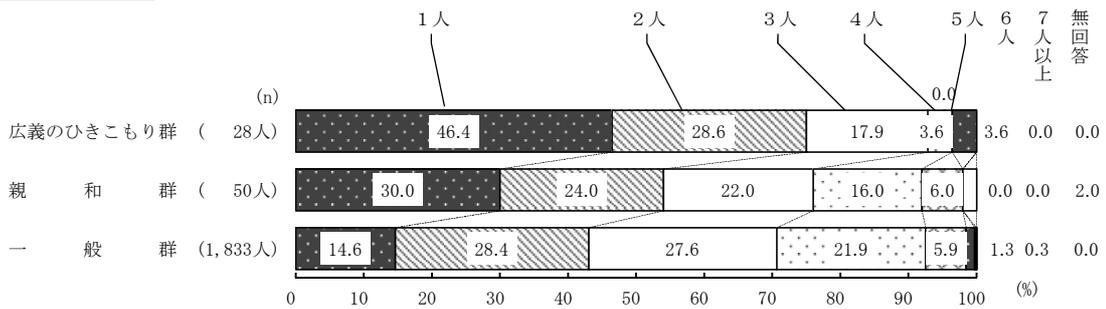
15歳～39歳



同居人数は、広義のひきこもり群では、「3人」が50.0%で他の2群に比べて多い傾向がみられた。

親和群では、「2人」が26.7%で他の2群に比べて多い傾向がみられた。

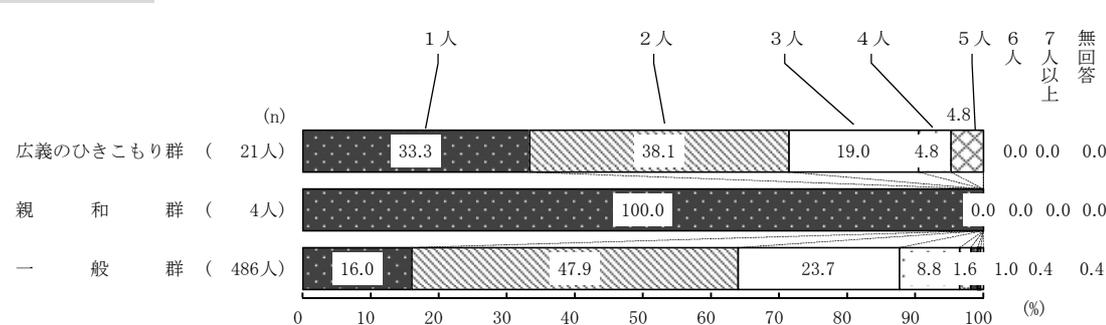
40歳～59歳



40歳～59歳でみると、広義のひきこもり群では、「1人」が46.4%で他の2群に比べて多い傾向がみられた。

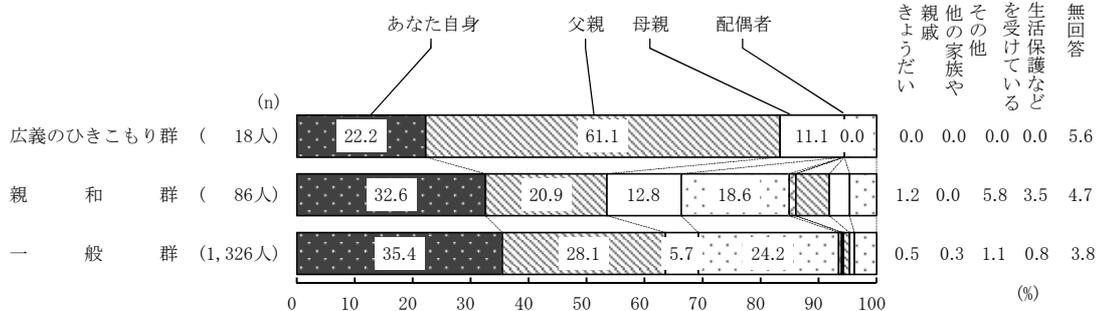
親和群では、「1人」が30.0%で一般群に比べて多い傾向がみられた。

60歳～64歳



Q 5 あなたの家の生計を立てているのは主にどなたですか。生計を立てている方が複数いる場合は、もっとも多く家計を負担している人をお答えください。また、主に仕送りで生計を立てている方は、その仕送りを主にしてくれている人をお答えください。

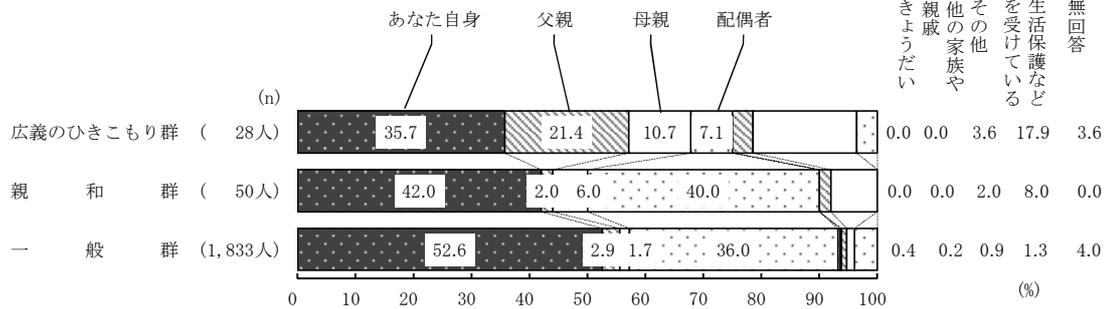
15歳～39歳



主な生計維持者を聞いたところ、広義のひきこもり群では、「父親」が61.1%で他の2群に比べて多く、「あなた自身」が22.2%、「配偶者」が0.0%で他の2群に比べて少ない傾向がみられた。

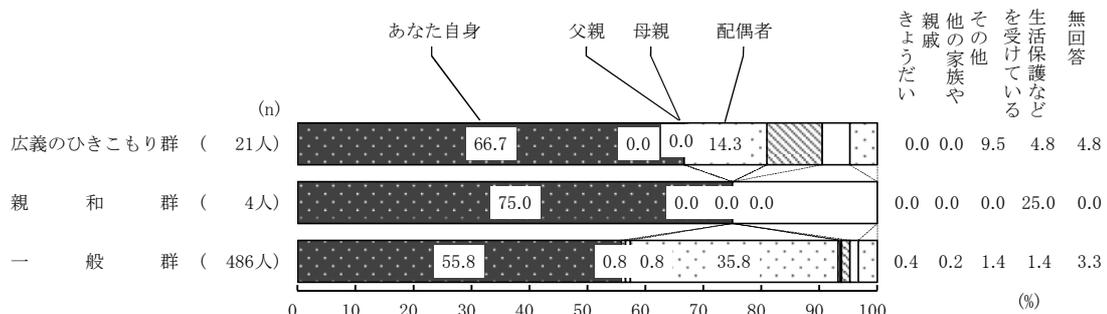
親和群では、「あなた自身」が32.6%で最も多かった。

40歳～59歳



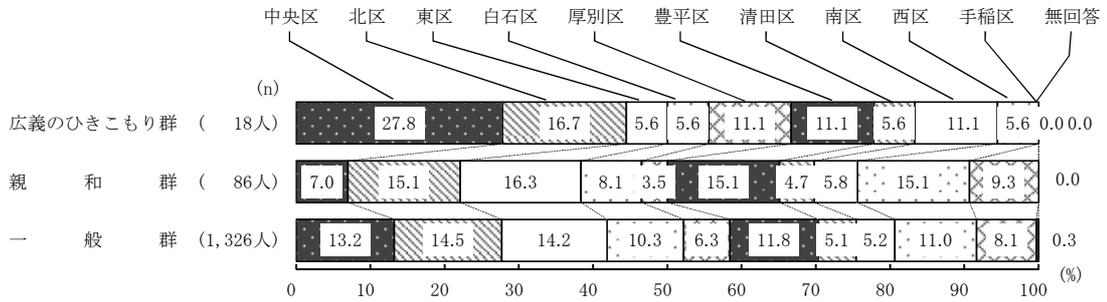
40歳～59歳でみると、広義のひきこもり群では、「生活保護などを受けている」が17.9%で他の2群や15歳～39歳の広義のひきこもり群に比べて多い傾向がみられた。また、「父親」は21.4%で他の2群に比べて多い傾向がみられた。

60歳～64歳

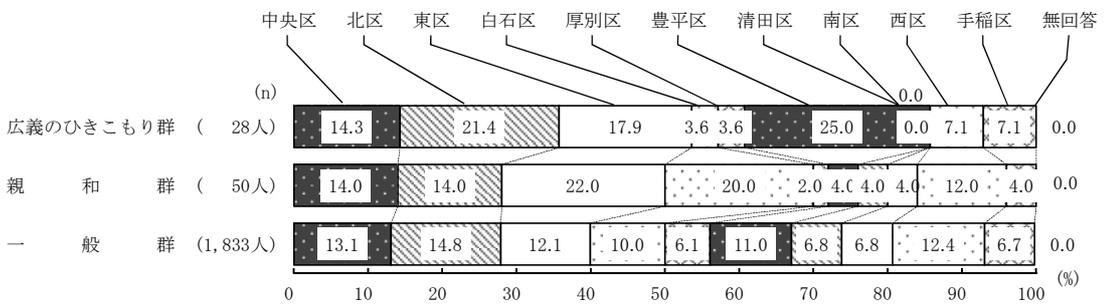


Q 6 あなたがお住まいの地域に○をつけてください。

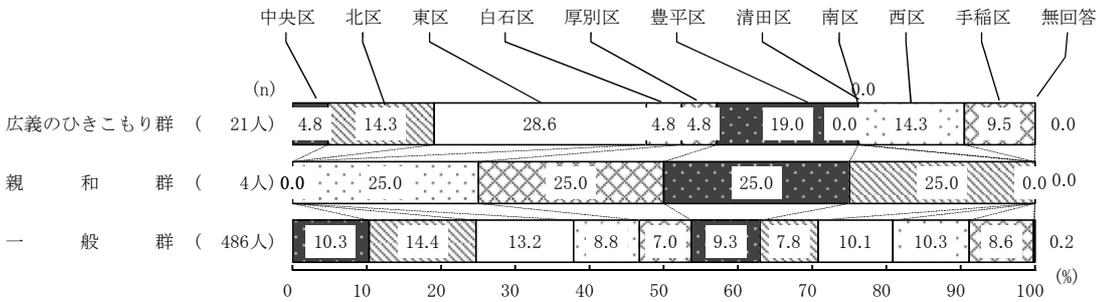
15歳～39歳



40歳～59歳

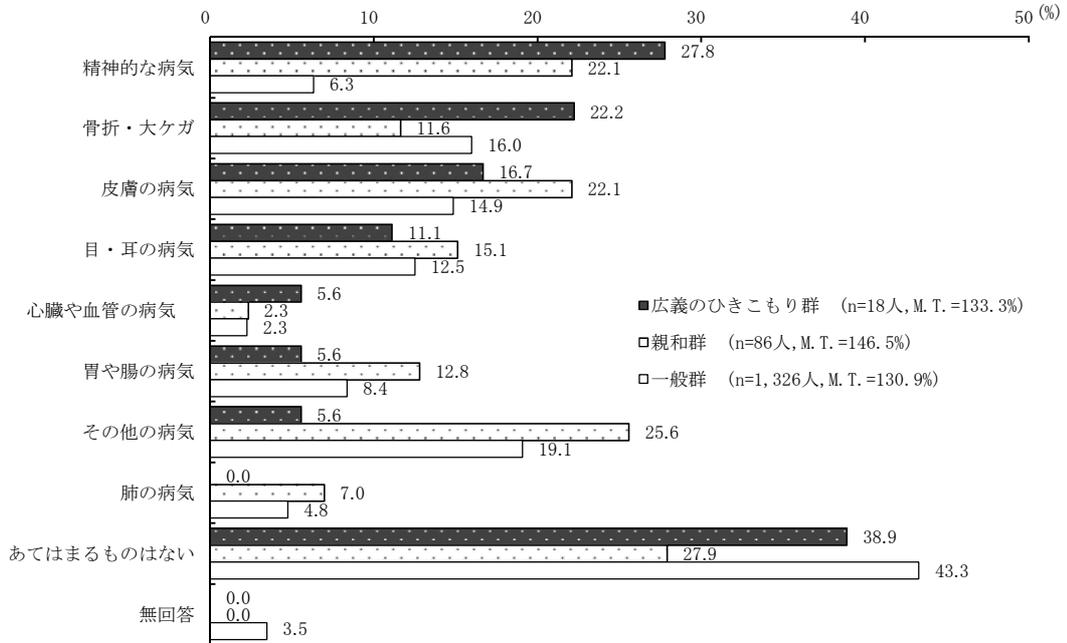


60歳～64歳



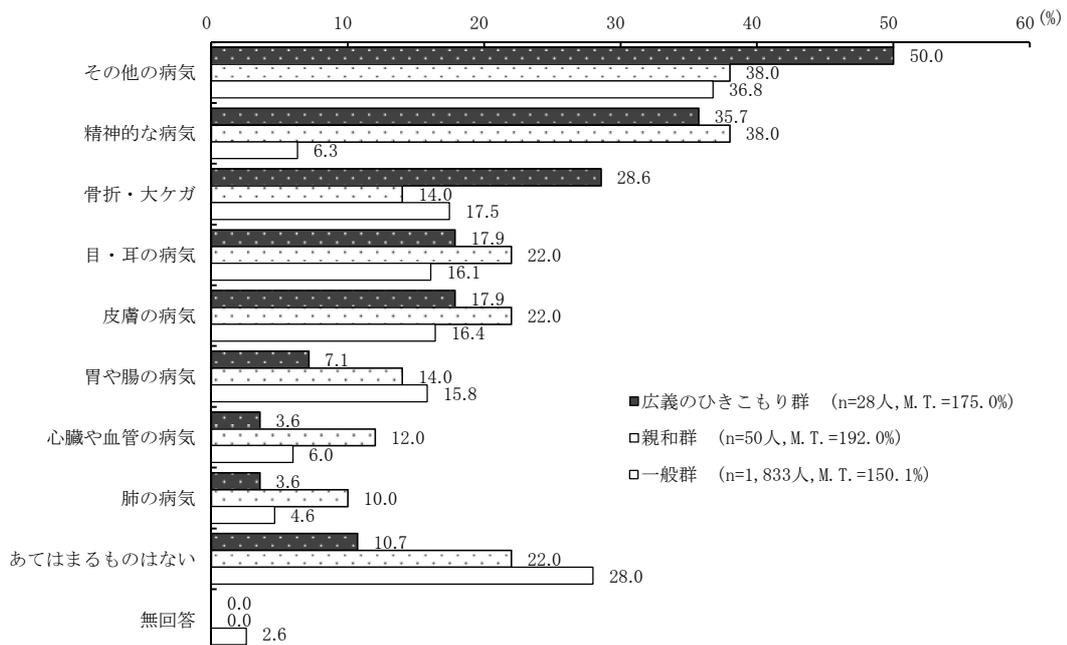
Q7 これまでに以下の病気やけがで通院や入院をしたことはありますか。通院・入院したことがある病気に○をつけてください。（○はいくつでも）

15歳～39歳

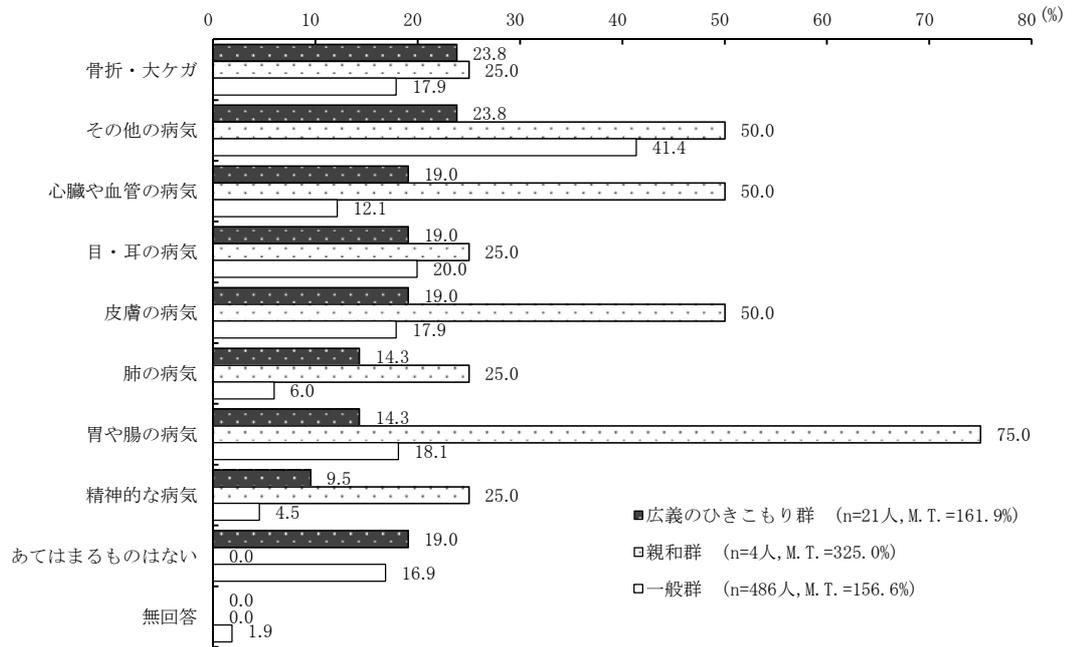


これまで通院・入院経験のある病気やけがについて聞いたところ、「精神的な病気」は、広義のひきこもり群で27.8%、親和群で22.1%、一般群で6.3%であった。広義のひきこもり群では、「精神的な病気」が病気・けがの項目の中で最も多かった。

40歳～59歳



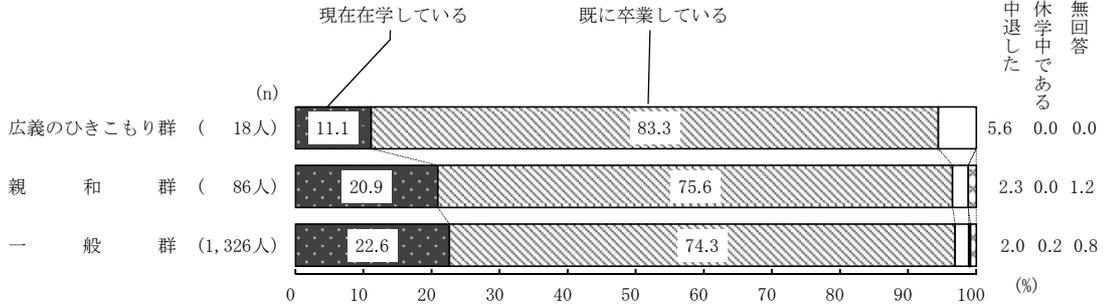
60歳～64歳



(2) 学校生活に関すること

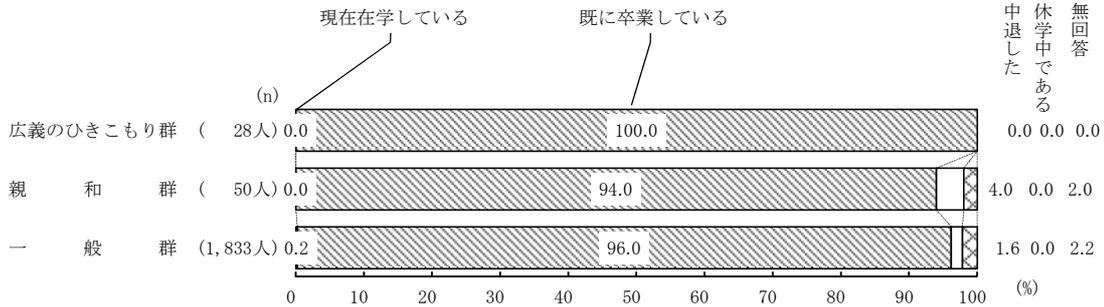
Q8 あなたは現在学校に通っていますか。

15歳～39歳



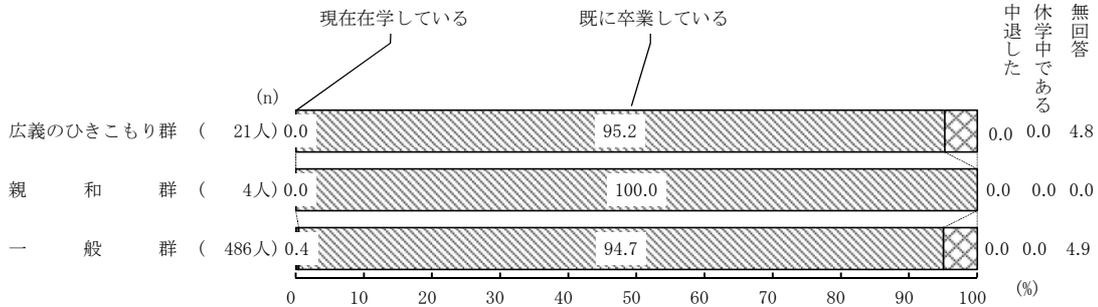
現在の通学状況については、「現在在学している」が広義のひきこもり群で11.1%、親和群で20.9%、一般群で22.6%であった。また、「中退した」が広義のひきこもり群で5.6%、親和群で2.3%、一般群で2.0%であった。

40歳～59歳



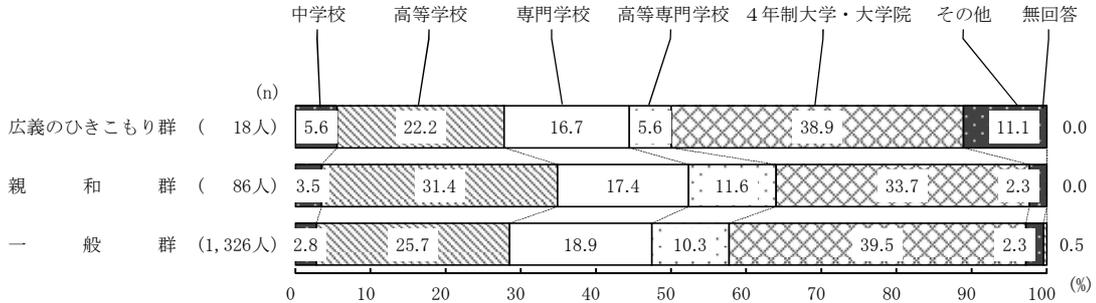
40歳～59歳で見ると、広義のひきこもり群では全員が「既に卒業している」であった。

60歳～64歳



Q9 あなたが最後に卒業（中退を含む）した、または現在在学している学校はどれですか。

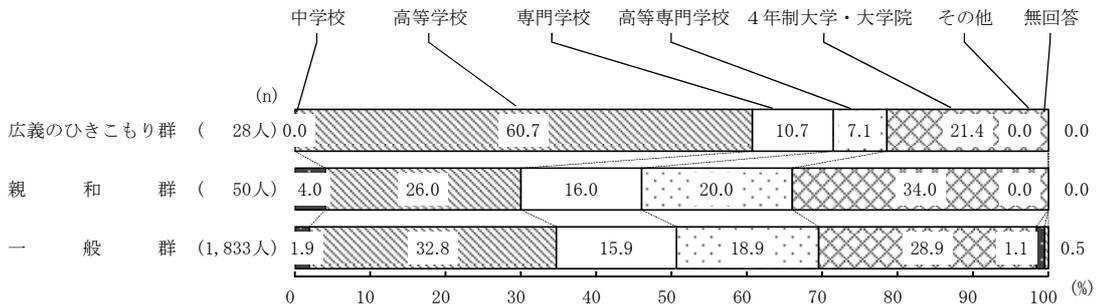
15歳～39歳



最後に卒業した、または在学中の学校については、広義のひきこもり群では、「その他」が11.1%で他の2群に比べて多く、「高等専門学校」が5.6%で他の2群に比べて少ない傾向がみられた。

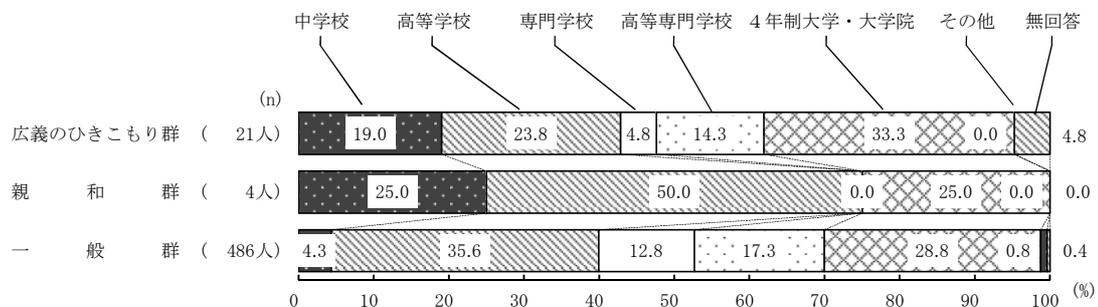
親和群では、「高等学校」が31.4%で他の2群に比べて多く、「4年生大学・大学院」が33.7%で他の2群に比べて少ない傾向がみられた。

40歳～59歳



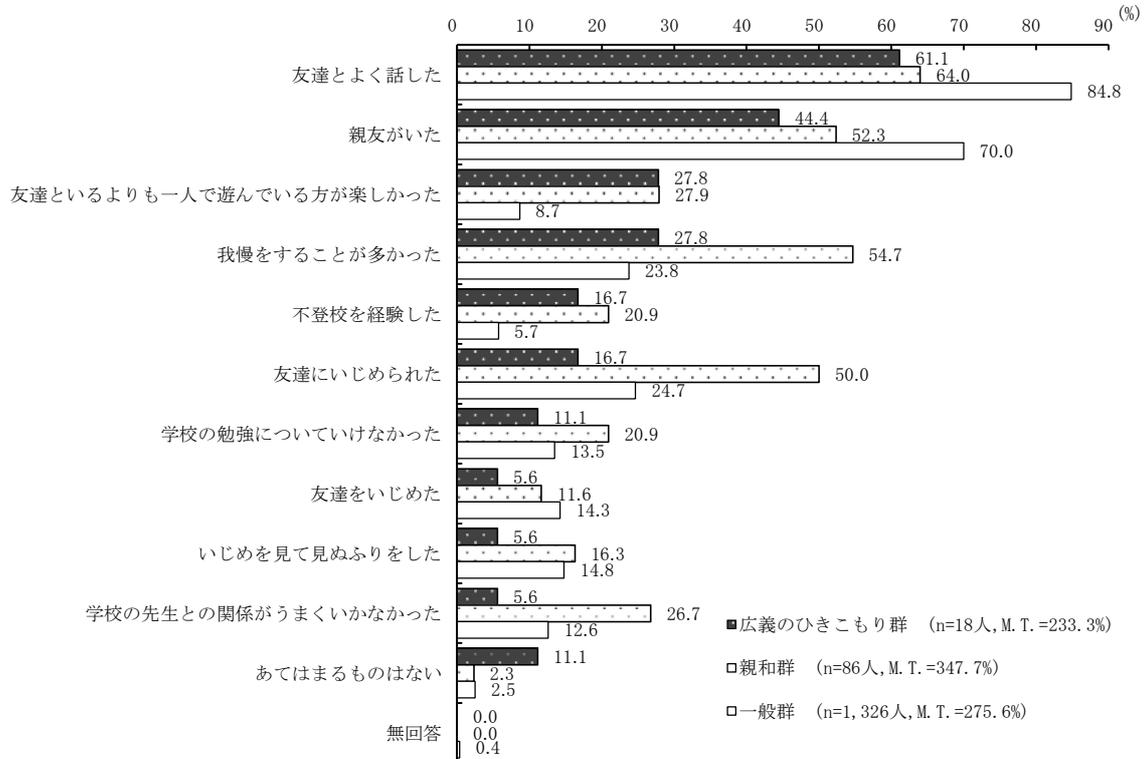
40歳～59歳で見ると、広義のひきこもり群では「高等学校」が60.7%で他の2群に比べて多い傾向がみられた。

60歳～64歳



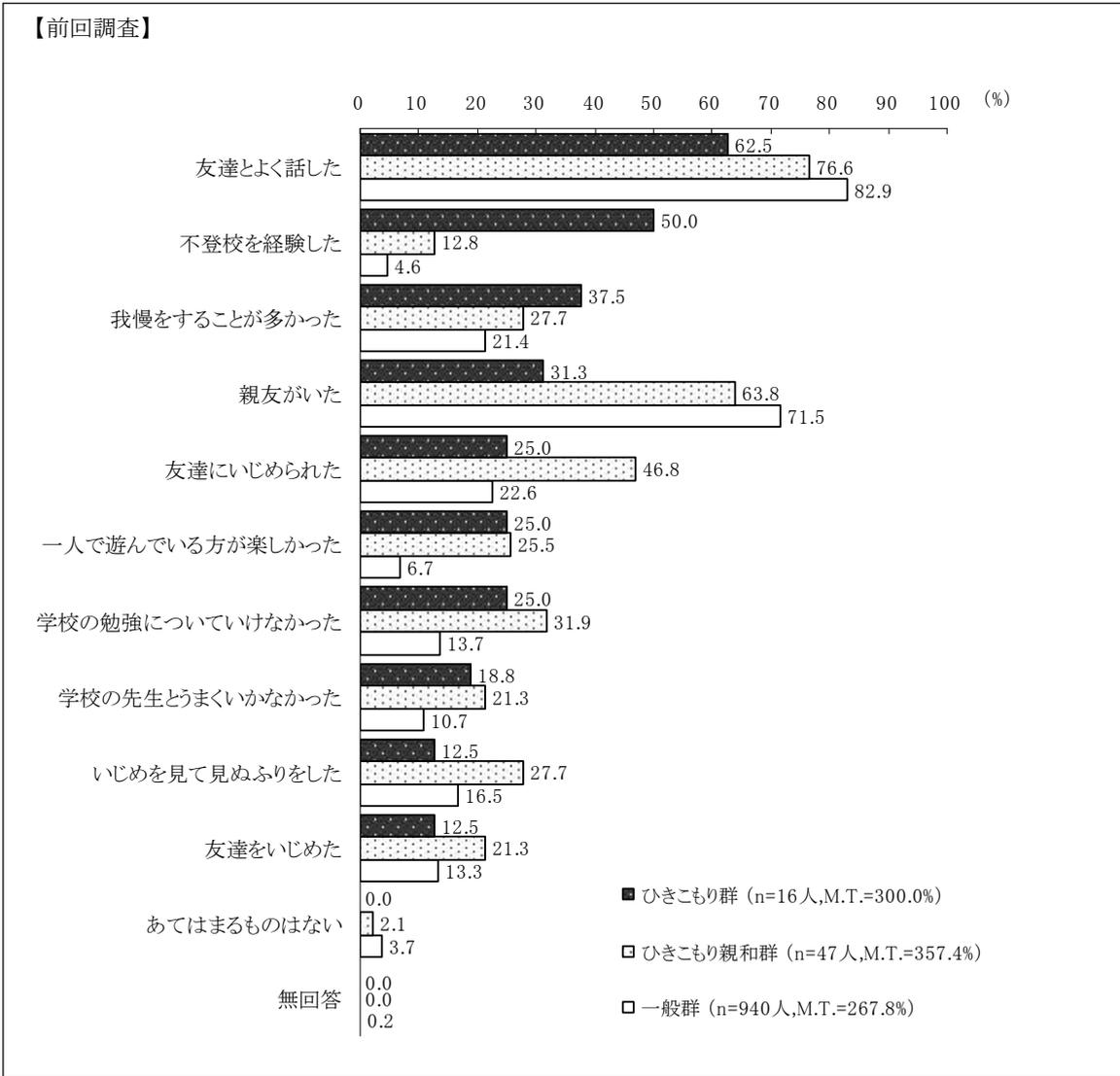
Q10 あなたは小学校や中学校の頃に、学校で次のようなことを経験したことがありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。（○はいくつでも）

15歳～39歳



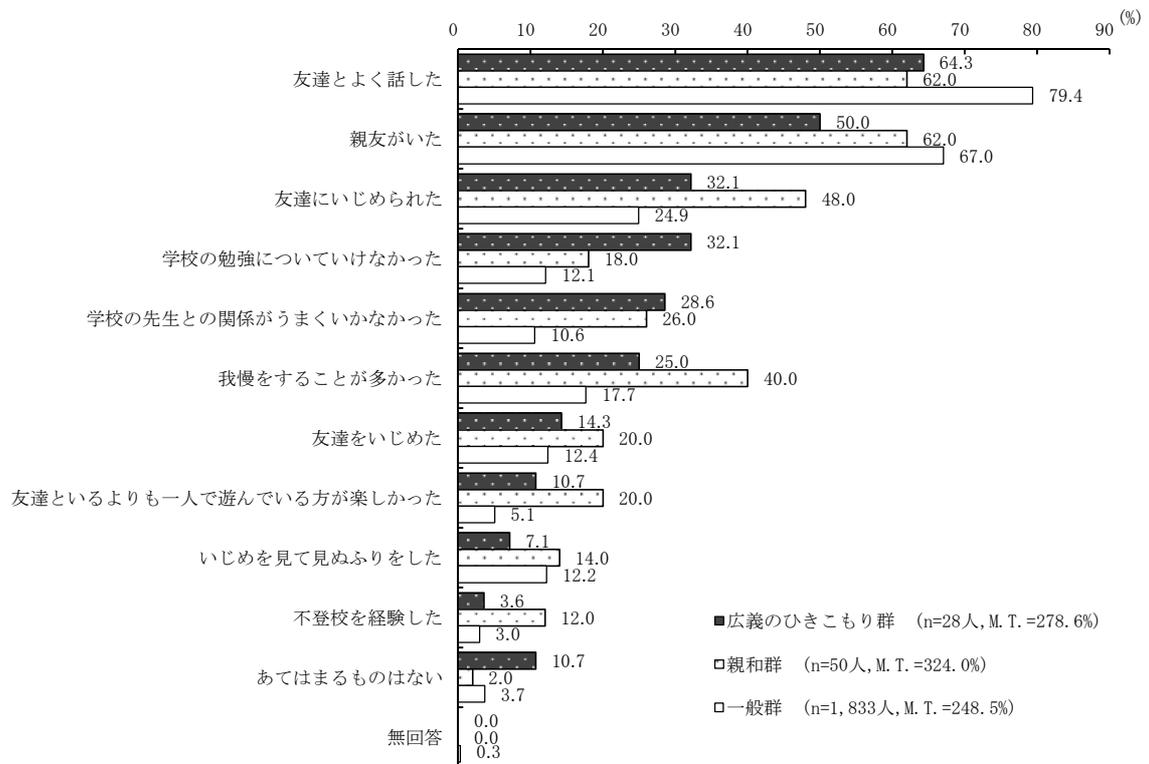
小学校や中学校の頃に学校で経験したことについて聞いたところ、広義のひきこもり群では、「友達というよりも一人で遊んでいる方が楽しかった」が27.8%、「不登校を経験した」が16.7%で一般群に比べて多く、「友達とよく話した」が61.1%、「親友がいた」が44.4%で一般群に比べて少ない傾向がみられた。

親和群では、「我慢をすることが多かった」が54.7%、「友達にいじめられた」が50.0%で他の2群に比べて多い傾向がみられた。



※前回（平成23年度）調査では、広義のひきこもり群を「ひきこもり群」、親和群を「ひきこもり親和群」と表記している。以下同じ。

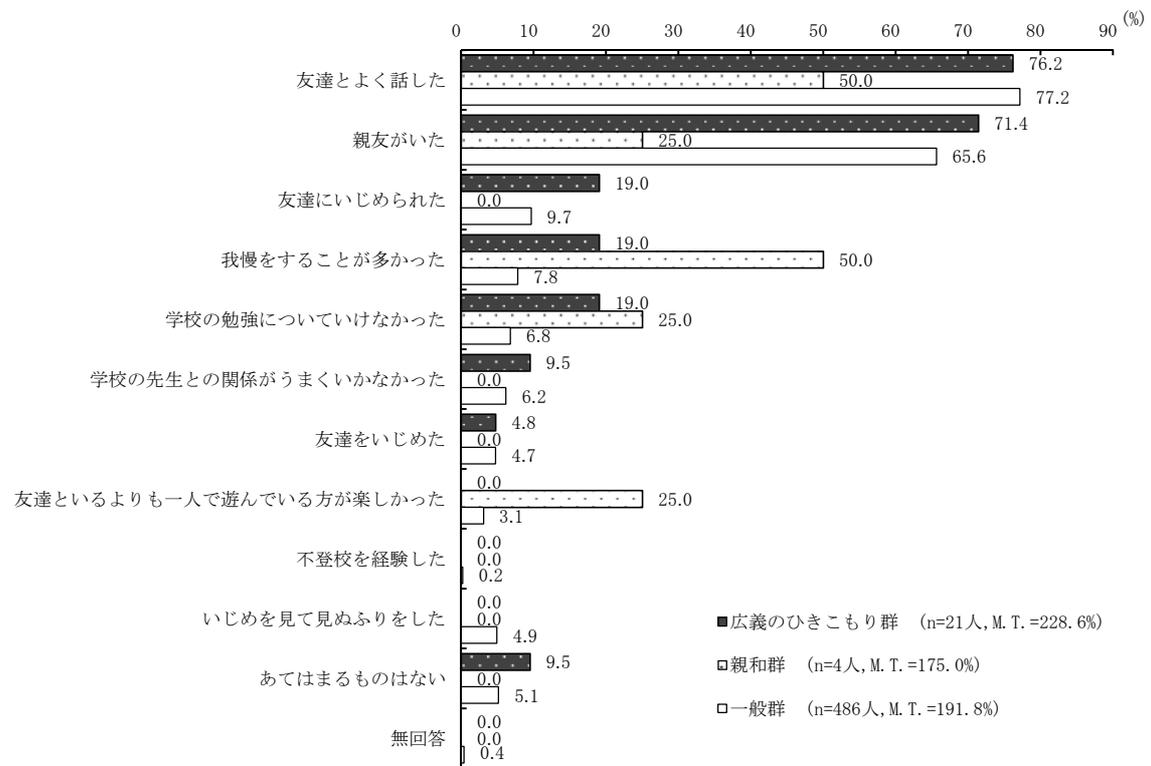
40歳～59歳



40歳～59歳でみると、広義のひきこもり群では、「友達にいじめられた」及び「学校の勉強についていけなかった」がともに32.1%、「学校の先生との関係がうまくいかなかった」が28.6%で15歳～39歳の広義のひきこもり群に比べて多く、「友達といるよりも一人で遊んでいる方が楽しかった」が10.7%、「不登校を経験した」が3.6%で15歳～39歳の広義のひきこもり群に比べて少ない傾向がみられた。

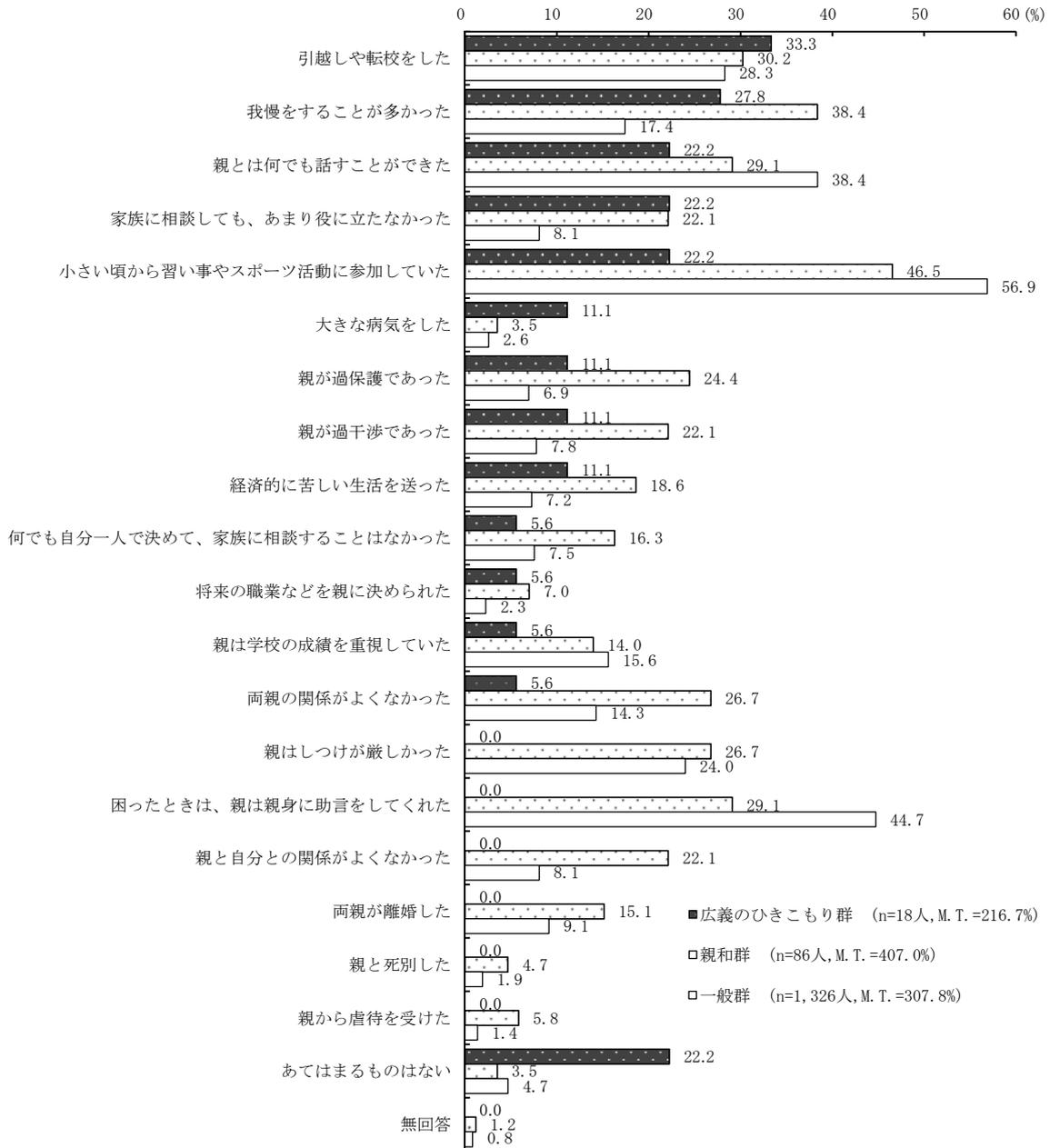
また、「学校の勉強についていけなかった」が32.1%、「学校の先生との関係がうまくいかなかった」が28.6%で一般群に比べて多い傾向がみられた。

60歳～64歳



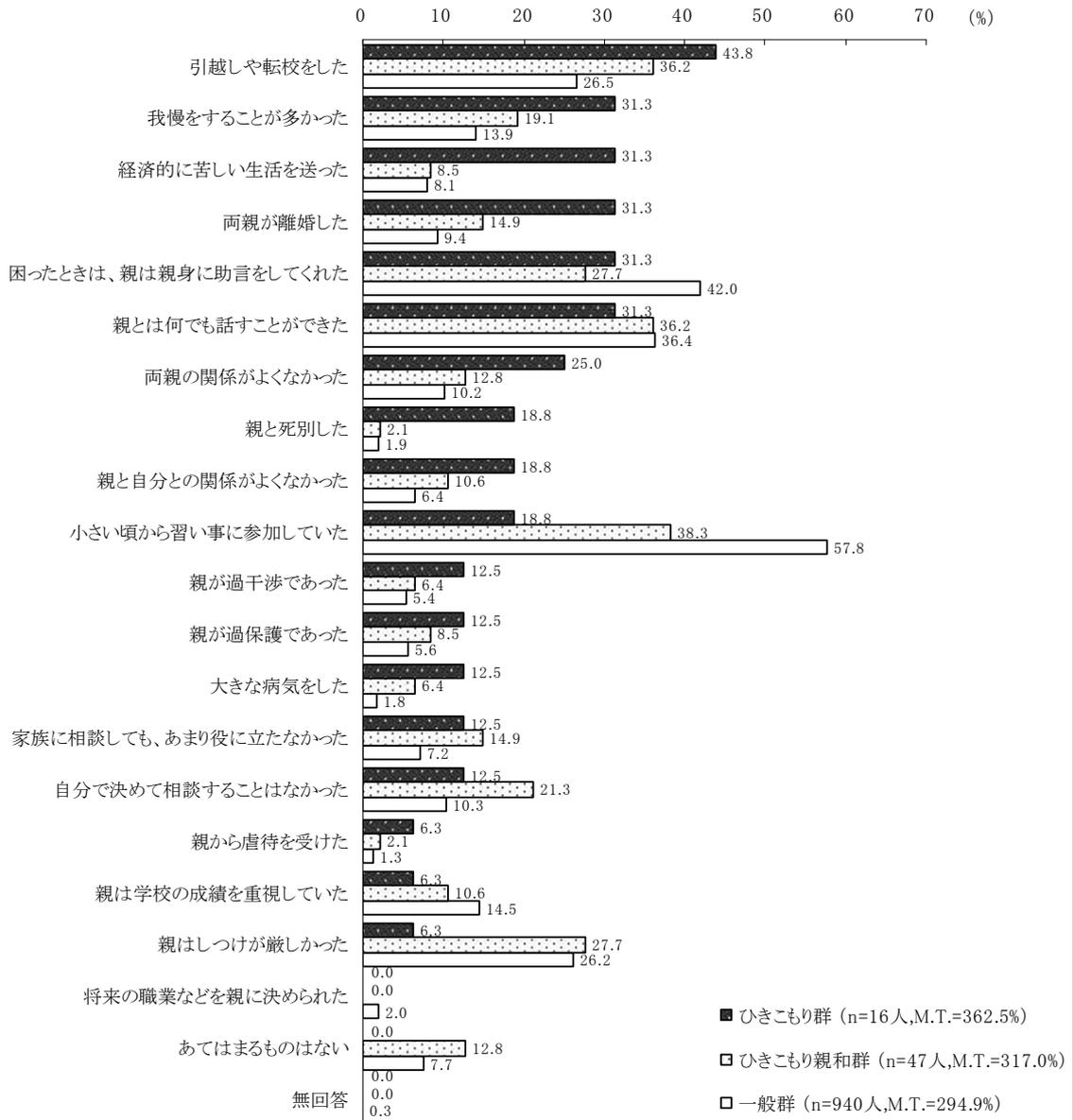
Q11 あなたは小学校や中学校の頃に、家庭で次のようなことを経験したことがありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。（○はいくつでも）

15歳～39歳

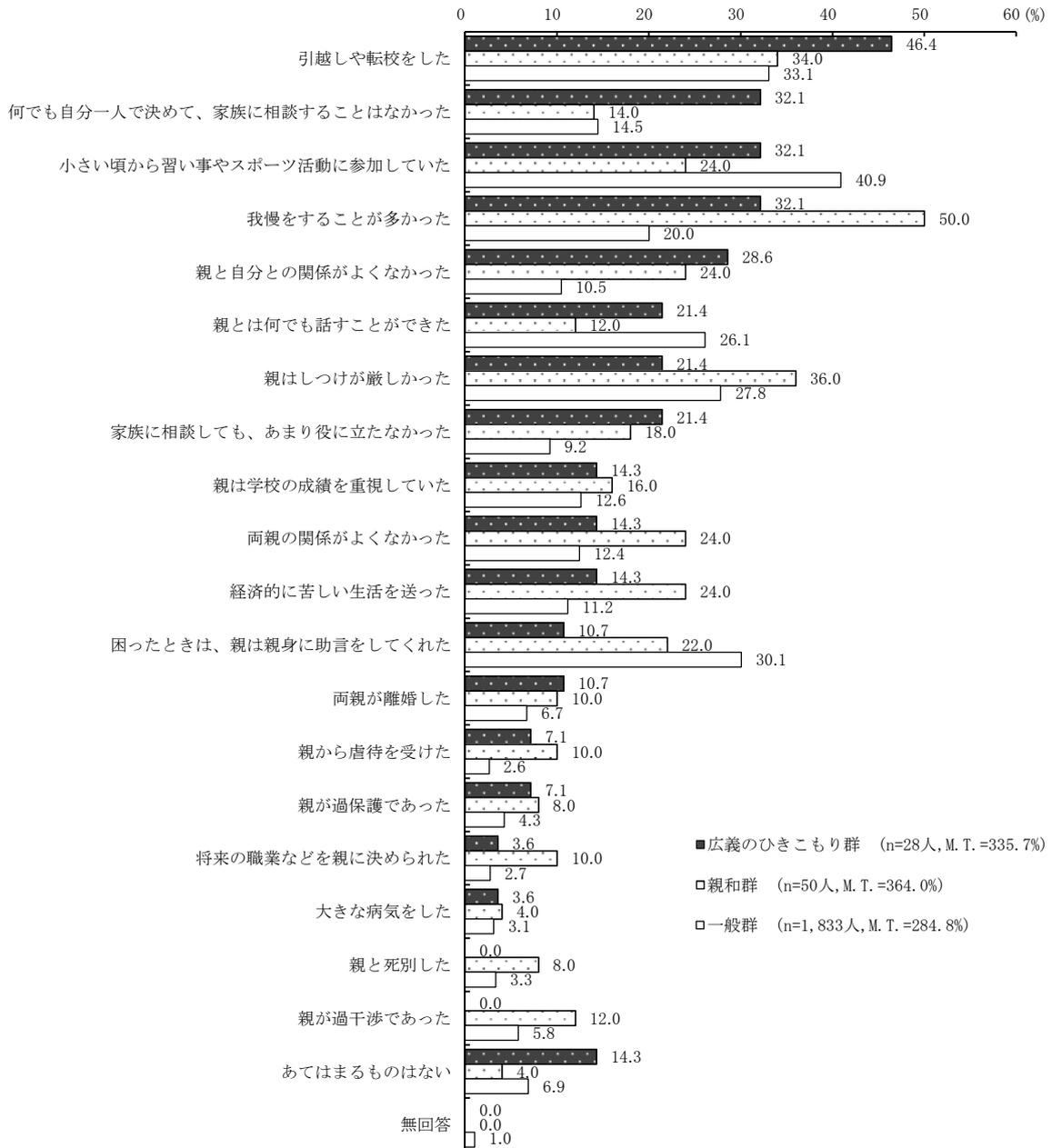


小学校や中学校の頃に家庭で経験したことについて聞いたところ、広義のひきこもり群では、「あてはまるものはない」及び「家族に相談しても、あまり役に立たなかった」がともに22.2%で一般群に比べて多く、「小さい頃から習い事やスポーツ活動に参加していた」が22.2%、「困ったときは、親は親身に助言をしてくれた」が0.0%で一般群に比べて少ない傾向がみられた。

【前回調査】

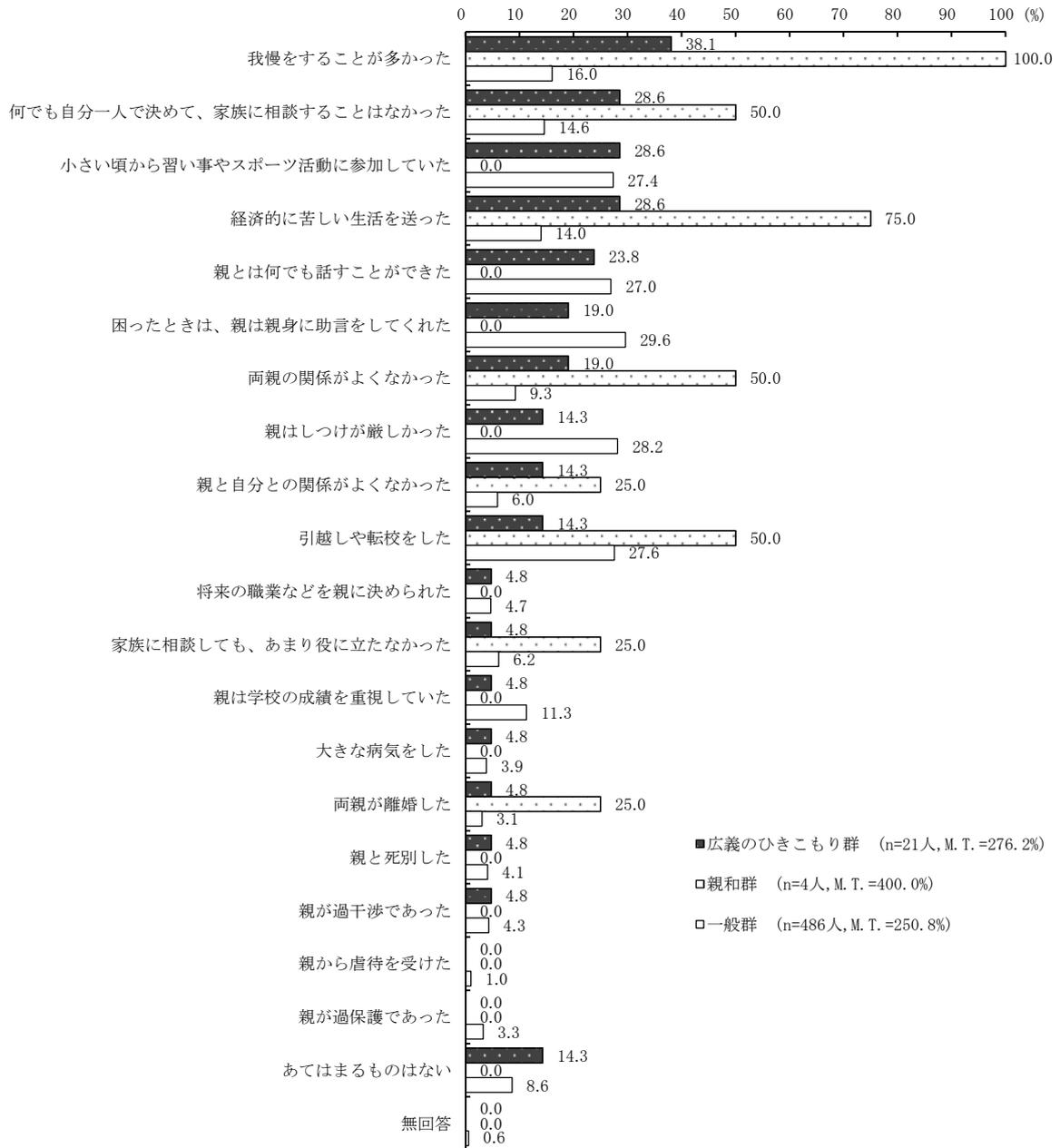


40歳～59歳



40歳～59歳でみると、広義のひきこもり群では、「何でも自分一人で決めて、家族に相談することはなかった」が32.1%、「親と自分との関係がよくなかった」が28.6%、「親はしつけが厳しかった」が21.4%で15歳～39歳の広義のひきこもり群に比べて多い傾向がみられた。

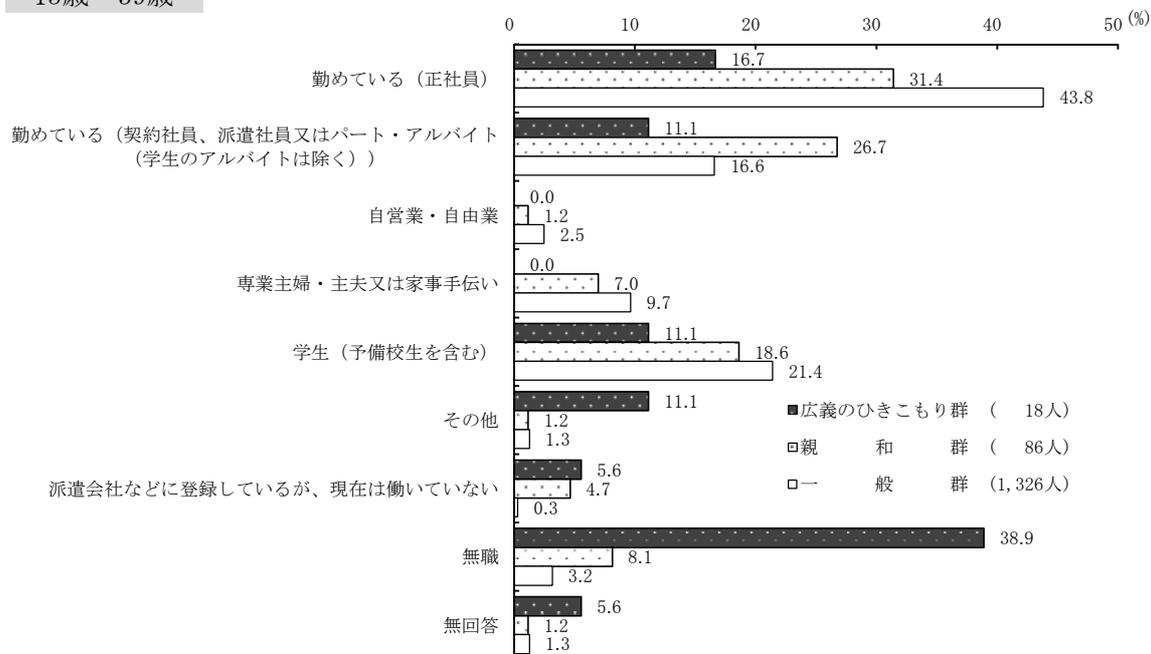
60歳～64歳



(3) 就労に関すること

Q12 あなたは現在働いておられますか。

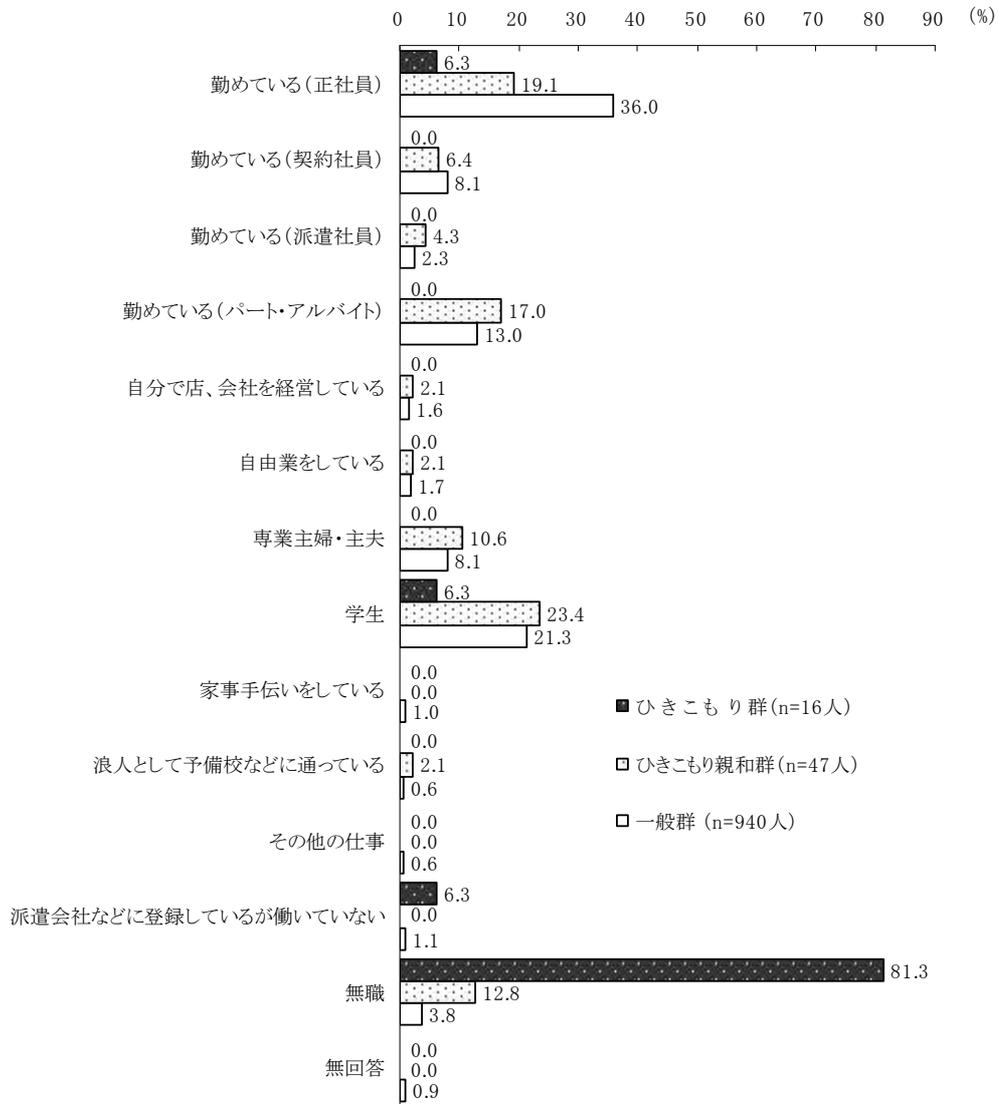
15歳～39歳



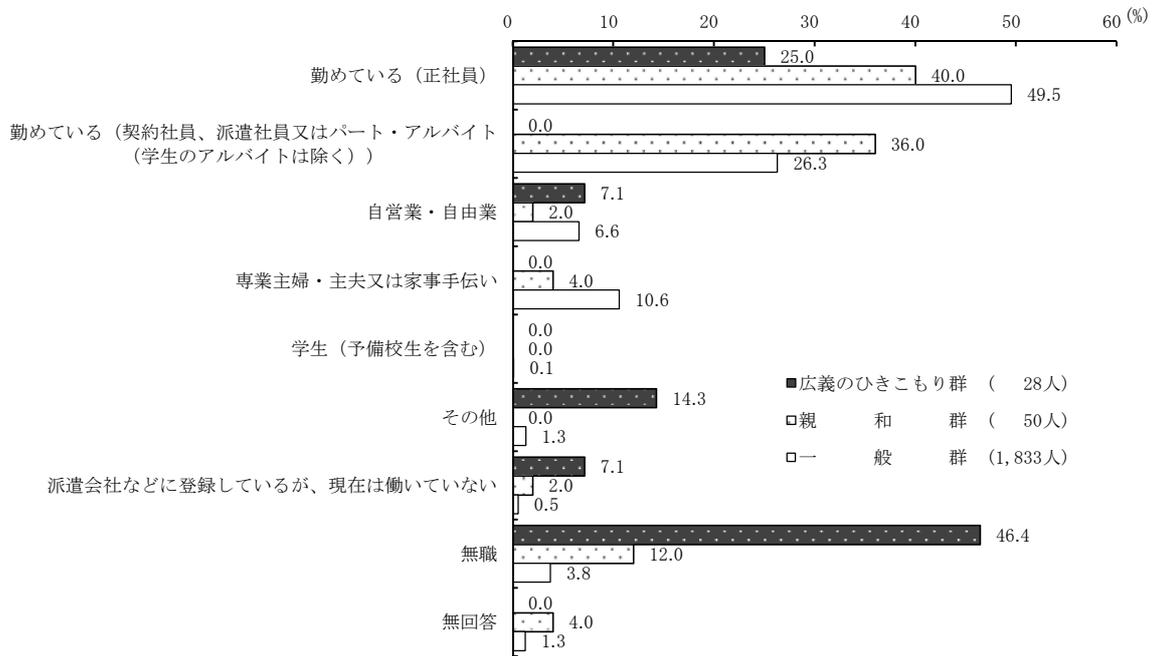
現在の就業状況を聞いたところ、広義のひきこもり群では、「無職」が38.9%で他の2群に比べて多く、「勤めている (正社員)」が16.7%、「勤めている (契約社員、派遣社員又はパート・アルバイト (学生のアルバイトは除く))」が11.1%で他の2群に比べて少ない傾向がみられた。

親和群では、「勤めている (契約社員、派遣社員又はパート・アルバイト (学生のアルバイトは除く))」が26.7%で一般群に比べて多い傾向がみられた。

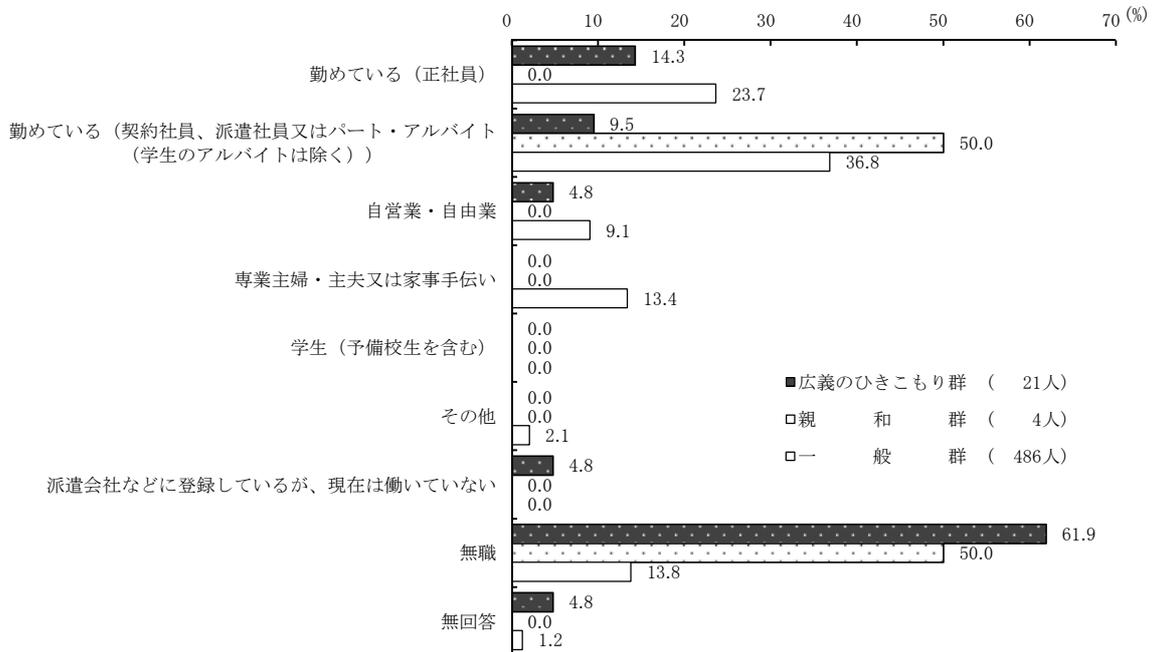
【前回調査】



40歳～59歳



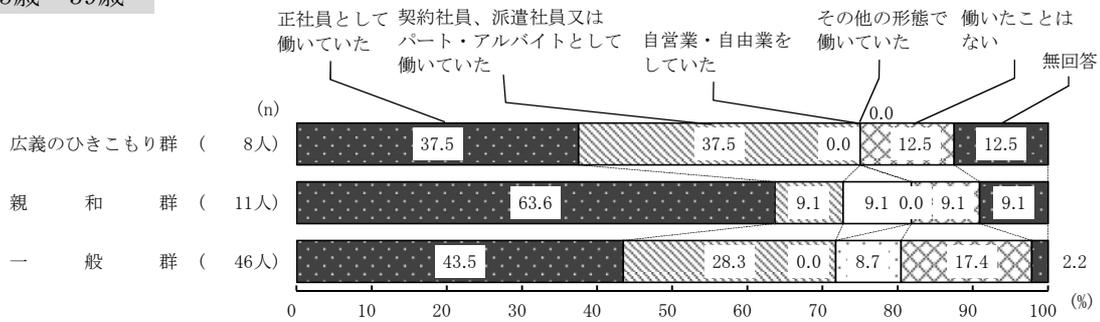
60歳～64歳



※Q13~15は、Q12で「派遣会社などに登録しているが、現在は働いていない」又は「無職」の回答者のみ回答

Q13 あなたは今までに働いていたことはありますか。

15歳～39歳

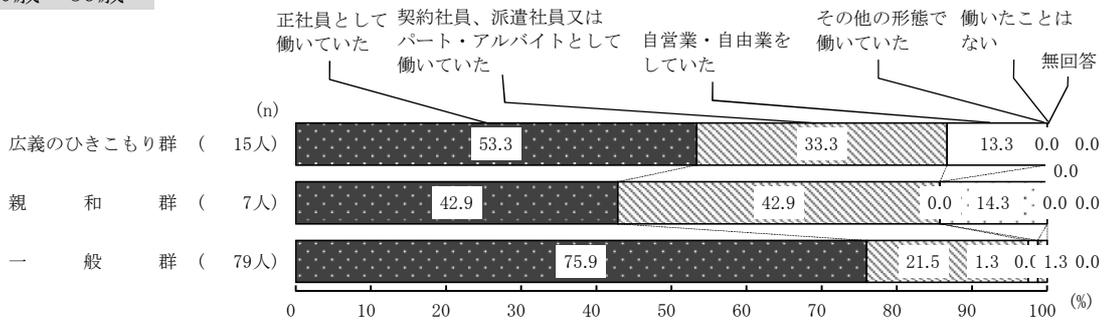


Q12で「派遣会社などに登録しているが、現在は働いていない」又は「無職」と回答した方のこれまでの働いた経験は、広義のひきこもり群では、「正社員として働いていた」及び「契約社員、派遣社員又はパート・アルバイトとして働いていた」がともに37.5%であった。

親和群では、「正社員として働いていた」が63.6%で他の2群に比べて多い傾向がみられた。

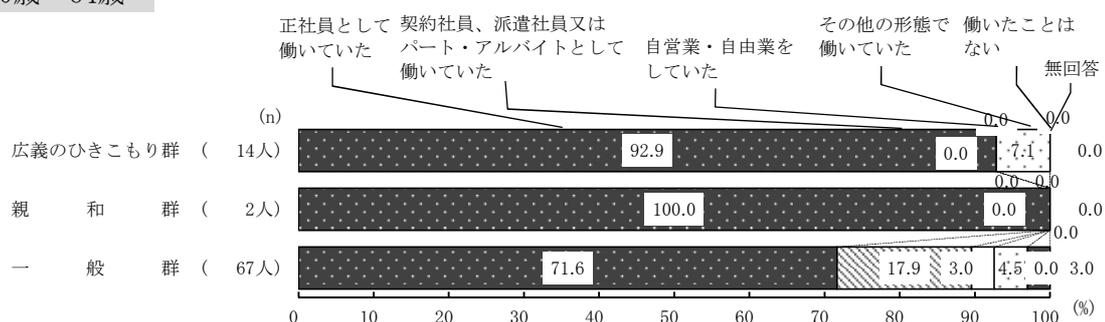
「働いたことはない」は、広義のひきこもり群で12.5%、親和群で9.1%、一般群で17.4%であった。

40歳～59歳



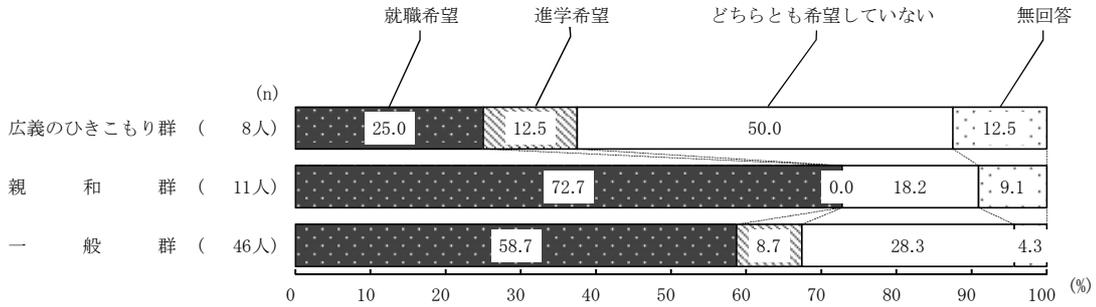
40歳～59歳でみると、広義のひきこもり群及び親和群で「働いたことはない」の回答はなかった。

60歳～64歳



Q14 現在就職または進学を希望していますか。

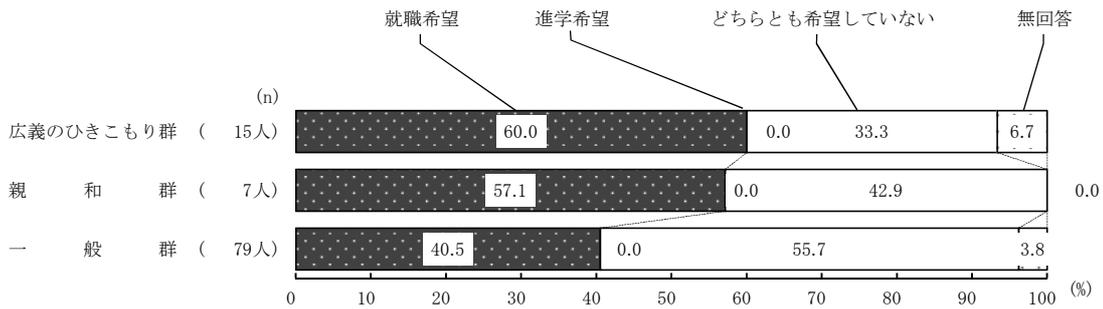
15歳～39歳



Q12で「派遣会社などに登録しているが、現在は働いていない」又は「無職」と回答した方の就職、又は進学希望意向は、広義のひきこもり群では、「どちらも希望していない」が50.0%で他の2群に比べて多い傾向がみられた。

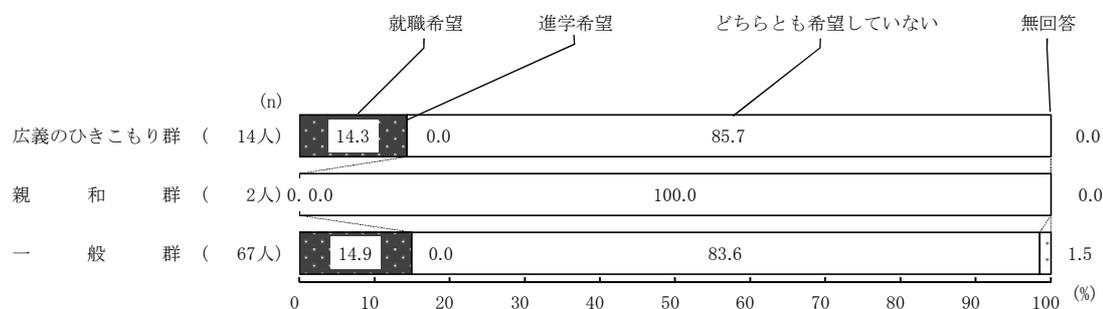
親和群では、「就職希望」が72.7%で他の2群に比べて多い傾向がみられた。

40歳～59歳



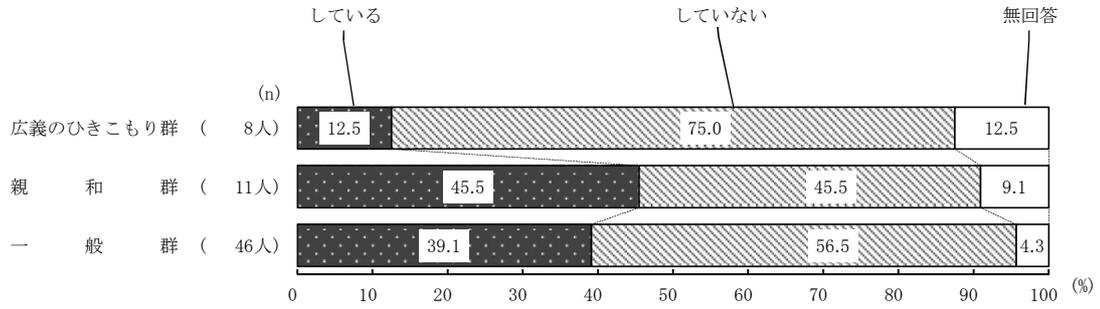
40歳～59歳でみると、「就職希望」は、広義のひきこもり群で60.0%と一般群や15歳～39歳の広義のひきこもり群に比べて多い傾向がみられた。

60歳～64歳

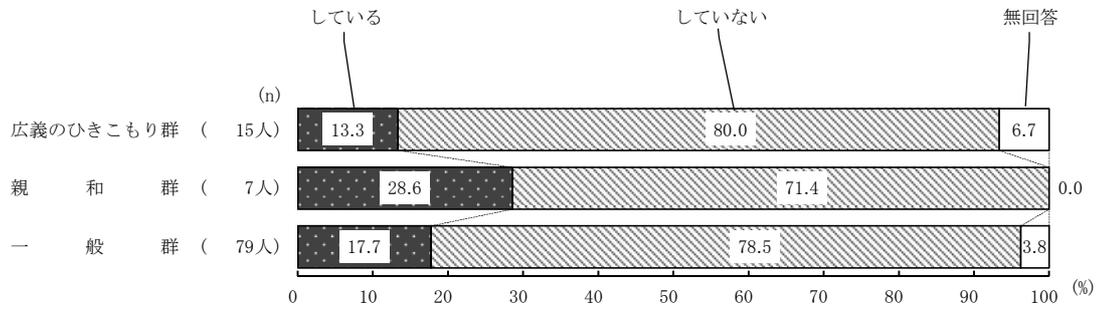


Q15 現在就職活動をしていますか。

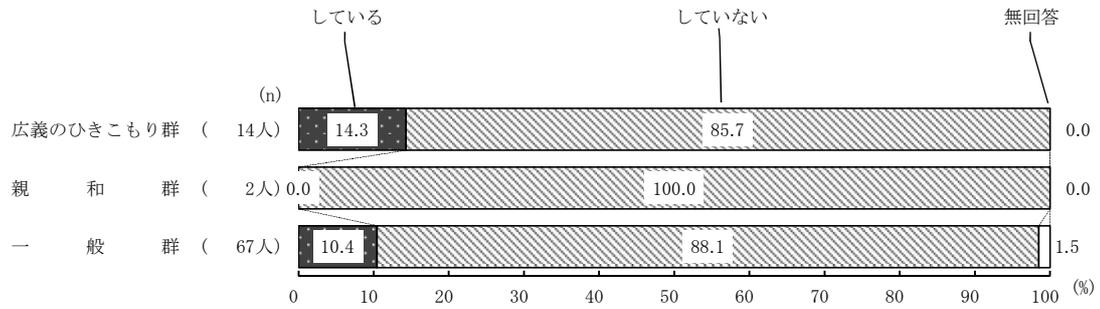
15歳～39歳



40歳～59歳



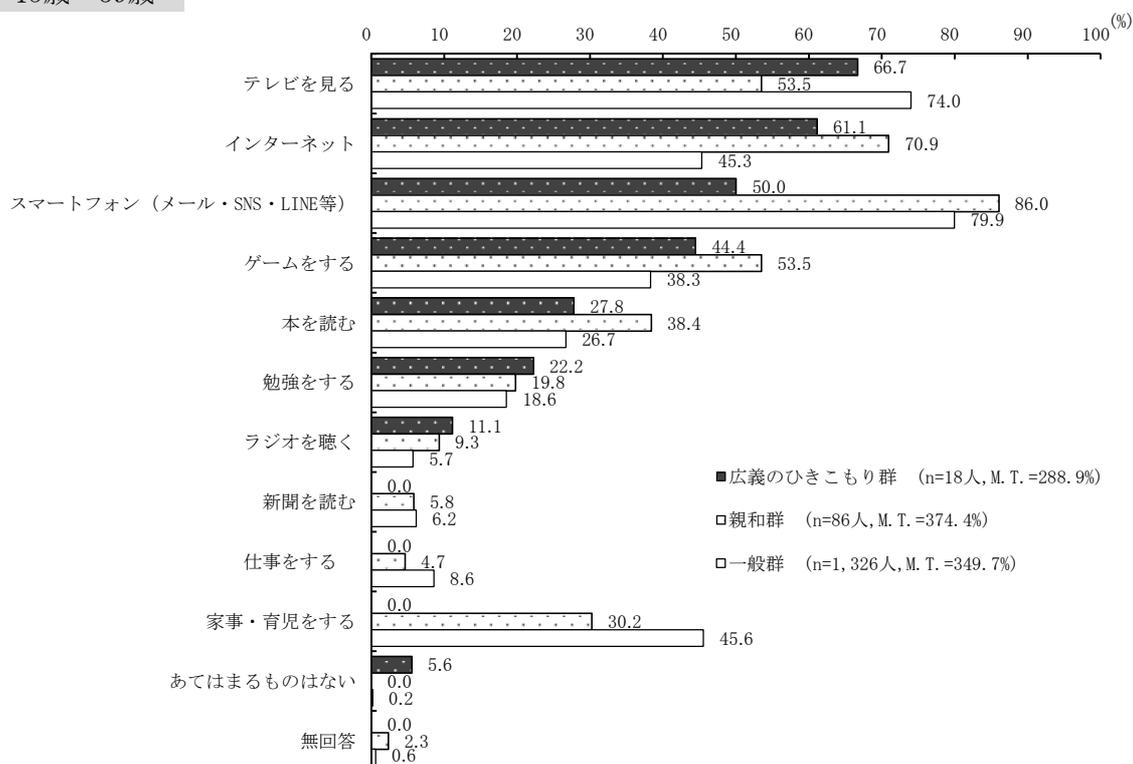
60歳～64歳



(4) 普段の活動に関すること

Q16 ふだんご自宅にいるときによくしていることすべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

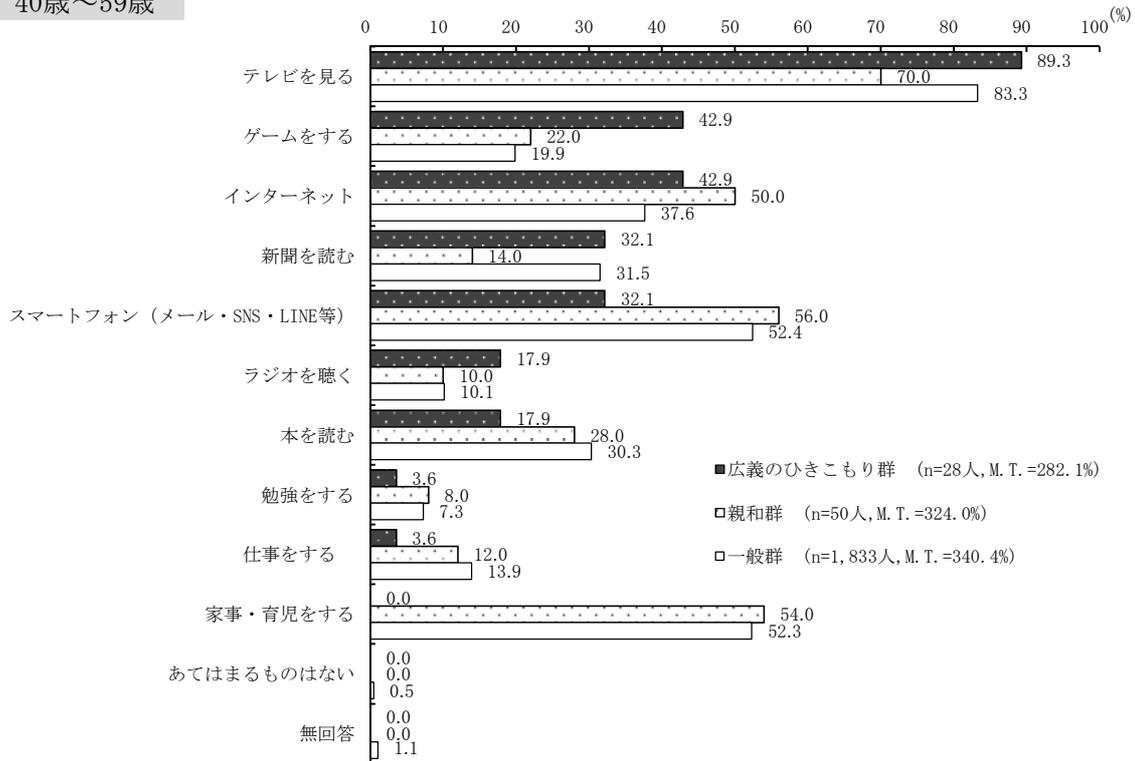
15歳～39歳



ふだん自宅にいるときによくしていることを聞いたところ、広義のひきこもり群では、「スマートフォン (メール・SNS・LINE等)」が50.0%で他の2群に比べて少ない傾向がみられた。

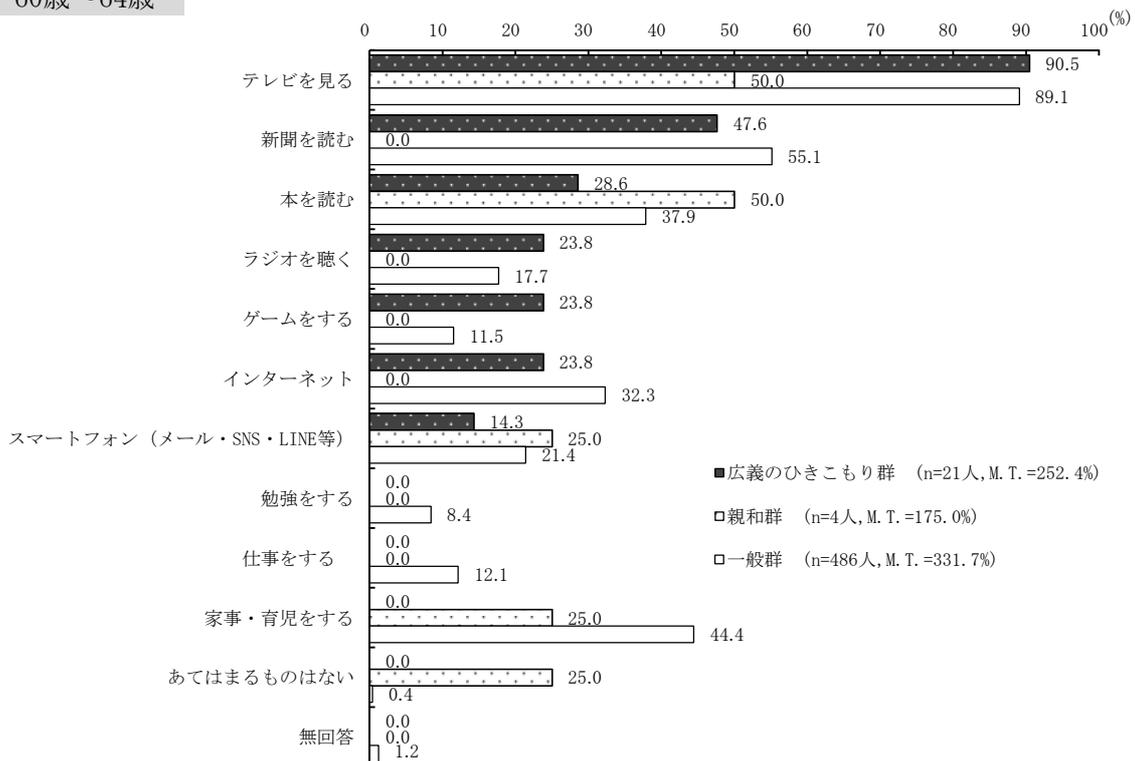
親和群では、「テレビを見る」が53.5%で他の2群に比べて少ない傾向がみられた。

40歳～59歳



40歳～59歳でみると、広義のひきこもり群では、「テレビを見る」が89.3%、「新聞を読む」が32.1%で15歳～39歳の広義のひきこもり群に比べて多く、「インターネット」が42.9%、「スマートフォン (メール・SNS・LINE等)」が32.1%、「勉強をする」が3.6%で15歳～39歳の広義のひきこもり群に比べて低い傾向がみられた。

60歳～64歳

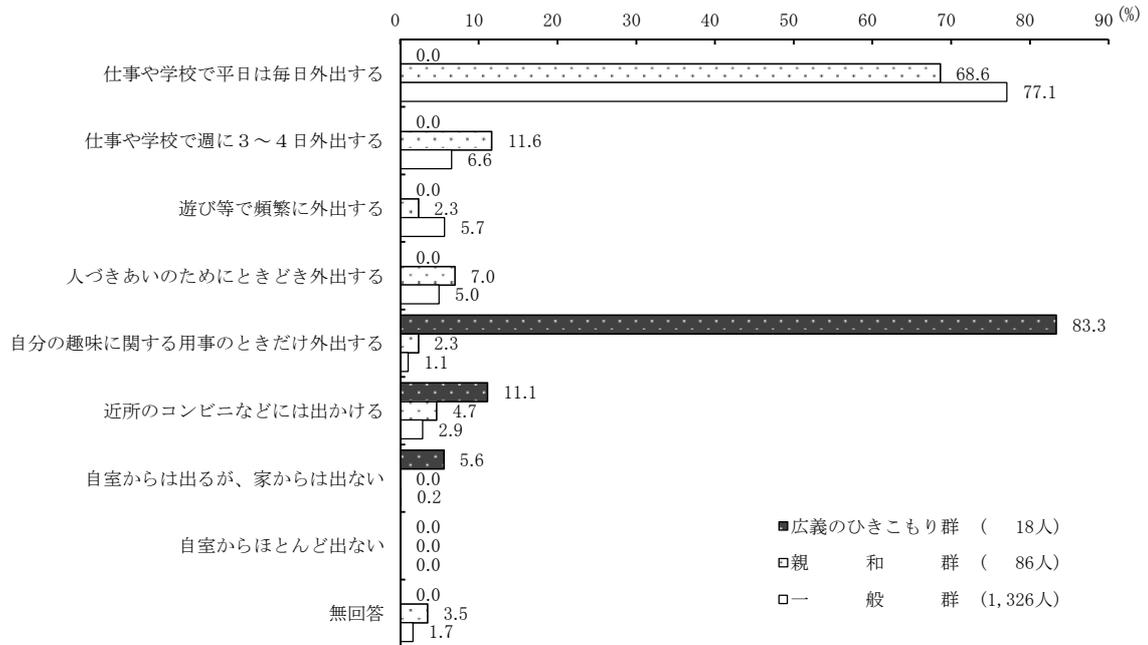


(5) ひきこもりの状態に関すること

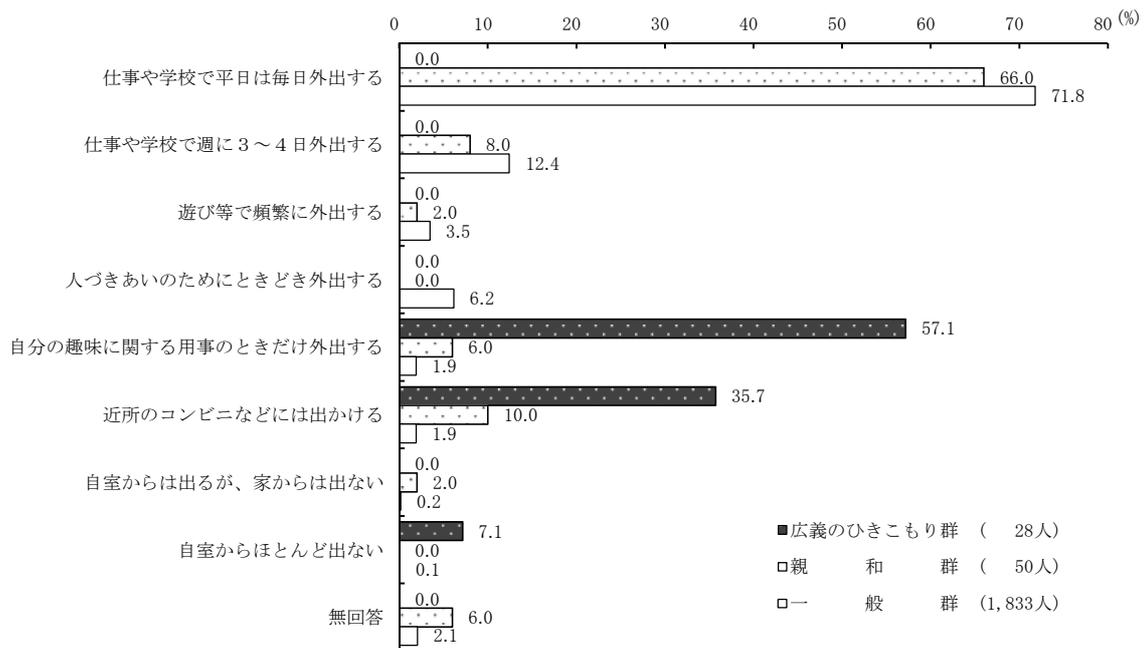
Q17 ふだんどのくらい外出しますか。

※Q17の設問は、広義のひきこもり群を定義するために使用

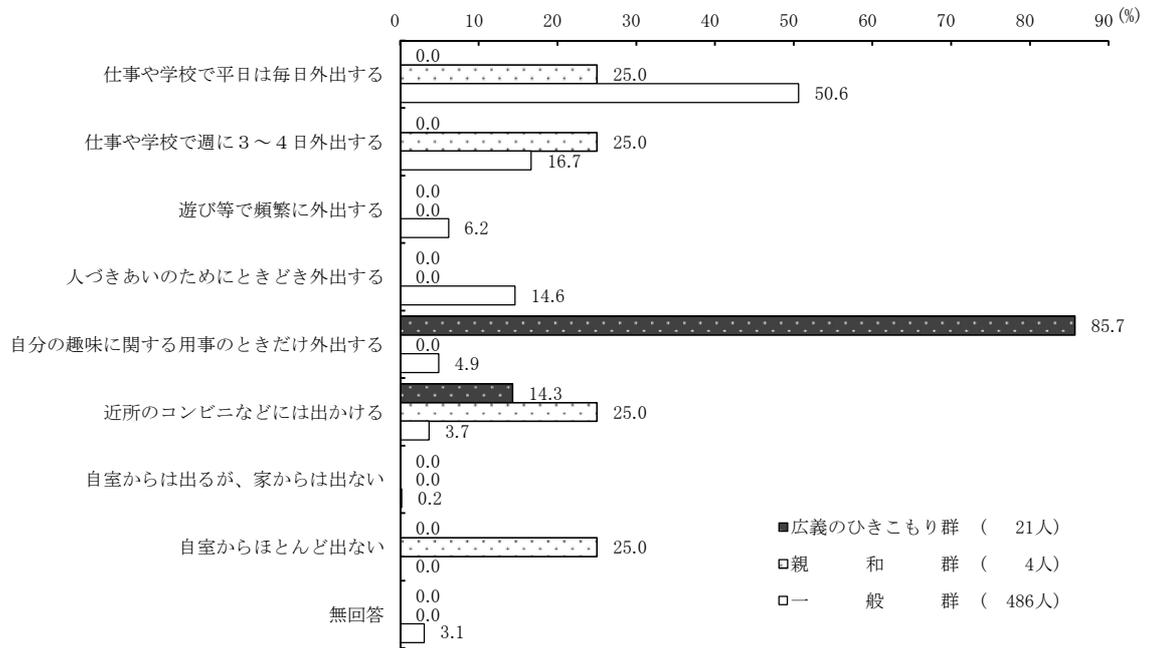
15歳～39歳



40歳～59歳



60歳～64歳

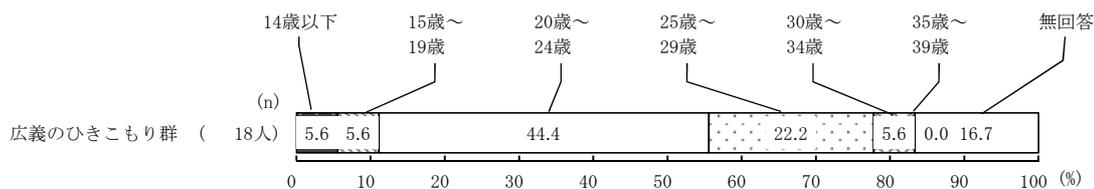


※Q18～Q23は、Q17において外出頻度が低かった回答者（「ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事の時だけ外出する」、「ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける」、「自室からは出るが、家からは出ない」又は「自室からほとんど出ない」の選択者）のみが回答する項目となっている。

※本報告書では、その中でも広義のひきこもり群に該当する者の結果について記載する。

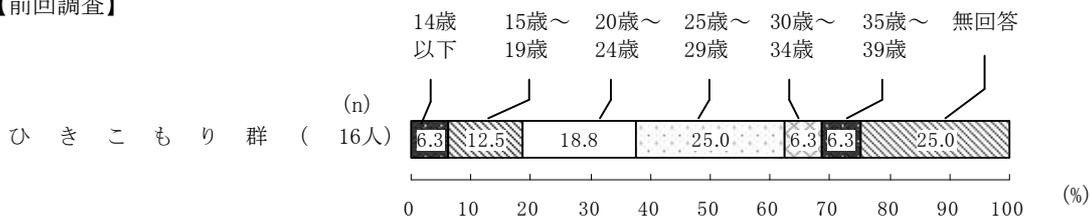
Q18 現在の状態になったのは、あなたが何歳の頃ですか。（数字で具体的に）

15歳～39歳

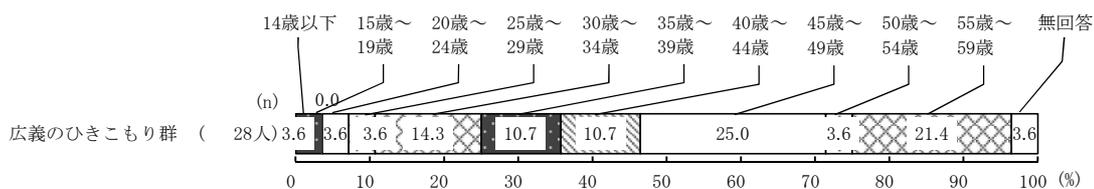


現在の状態になった年齢は、「20歳～24歳」が44.4%、「25歳～29歳」は22.2%であり、20歳代が6割以上であった。

【前回調査】

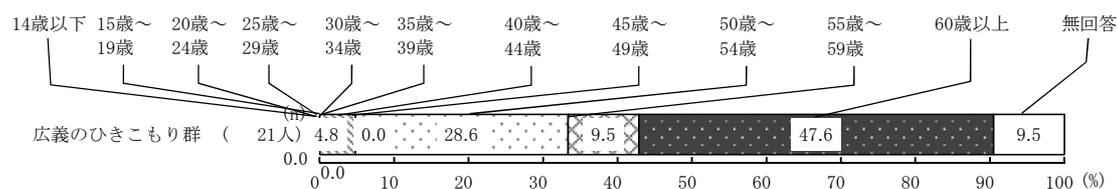


40歳～59歳



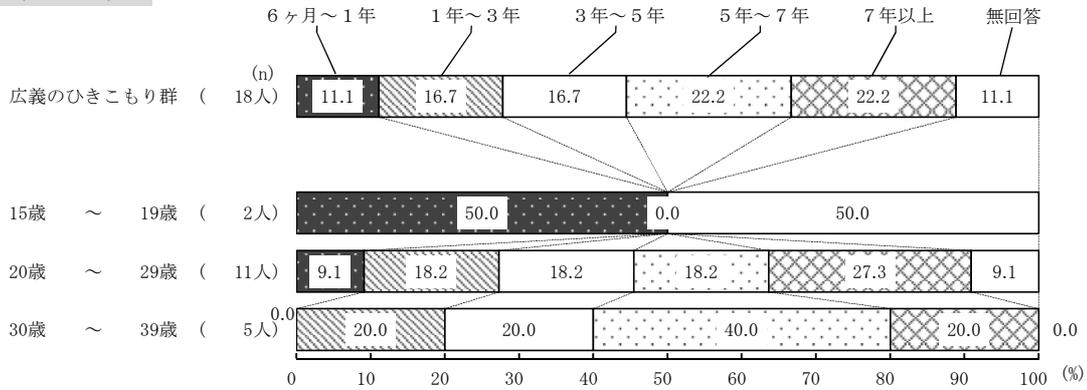
40歳～59歳で見ると、「45歳～49歳」が25.0%で最も多く、ついで「55歳～59歳」が21.4%であった。また、「14歳以下」は3.6%であった。

60歳～64歳



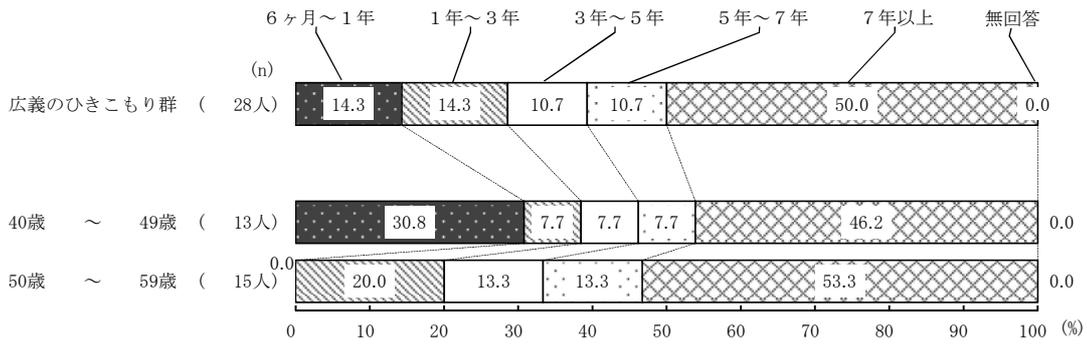
Q19 現在の状態となってどのくらい経ちますか。

15歳～39歳



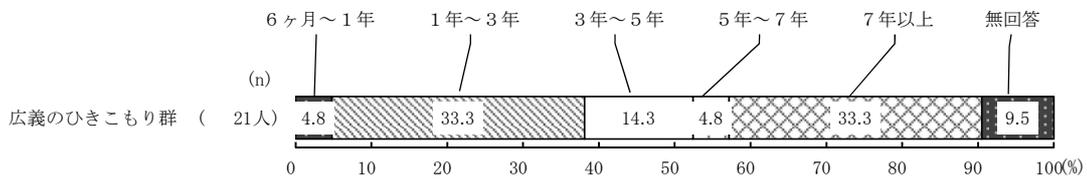
現在の状態になってからの期間は、「5年～7年」及び「7年以上」がともに22.2%で最も多かった。

40歳～59歳



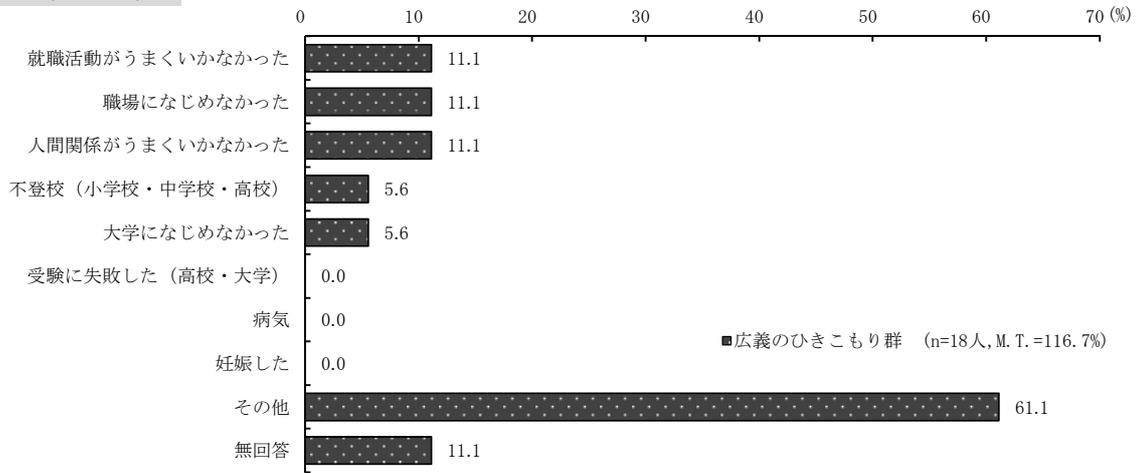
40歳～59歳で見ると、「7年以上」が50.0%を占めた。

60歳～64歳



Q20 現在の状態になったきっかけは何ですか。（〇はいくつでも）

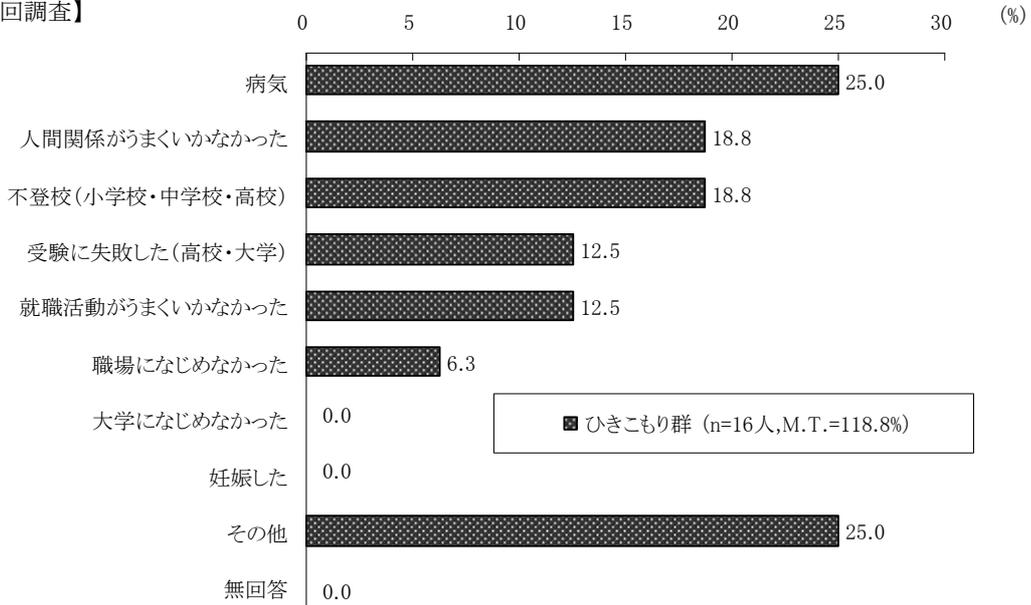
15歳～39歳



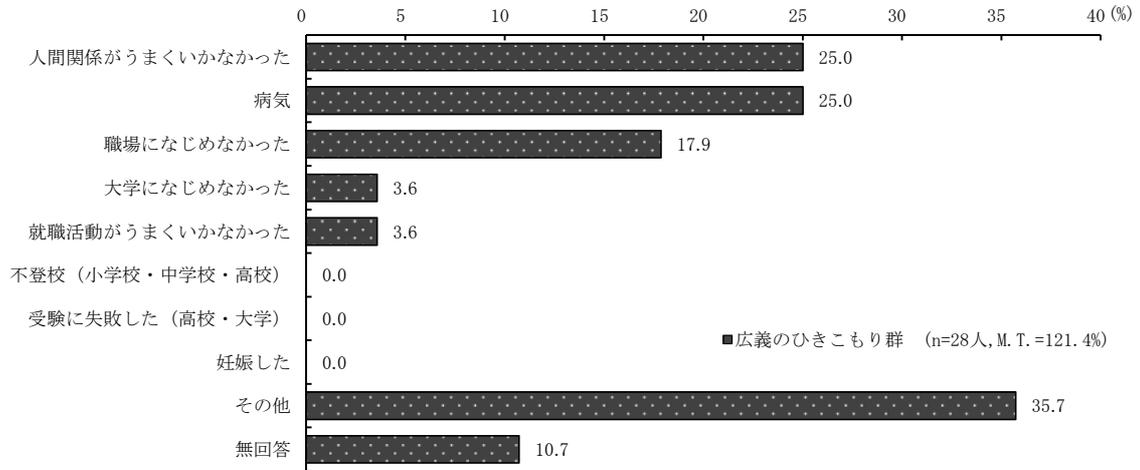
現在の状態になったきっかけを聞いたところ、「就職活動がうまくいかなかった」、「職場になじめなかった」及び「人間関係がうまくいかなかった」がともに11.1%であり、意見が分かれた。

「その他」の回答の中には、「特になし」「なんとなく」等明確なきっかけが見当たらない回答が多くみられた。

【前回調査】

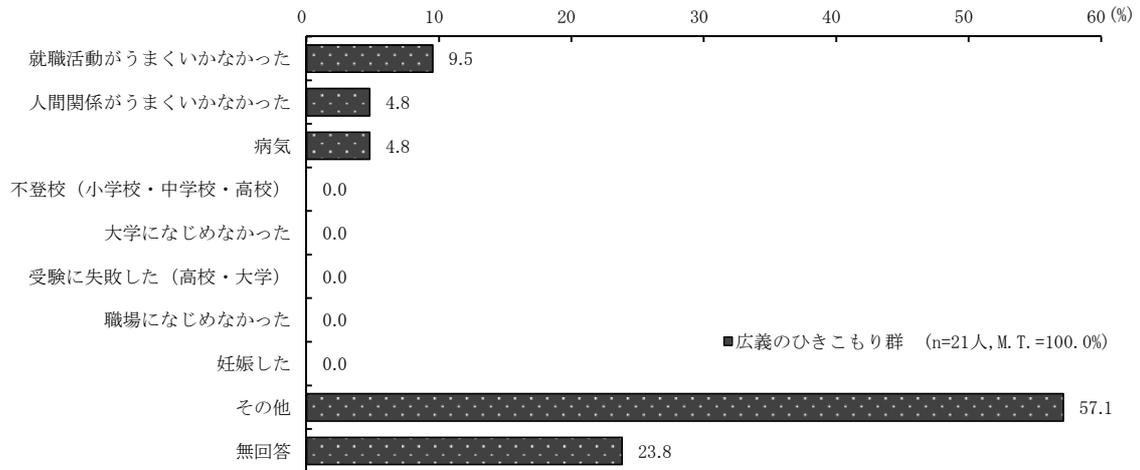


40歳～59歳



40歳～59歳で見ると、「人間関係がうまくいかなかった」及び「病気」がともに25.0%で15歳～39歳に比べて多い傾向がみられた。

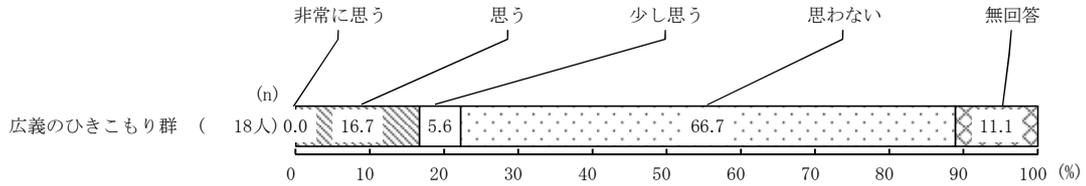
60歳～64歳



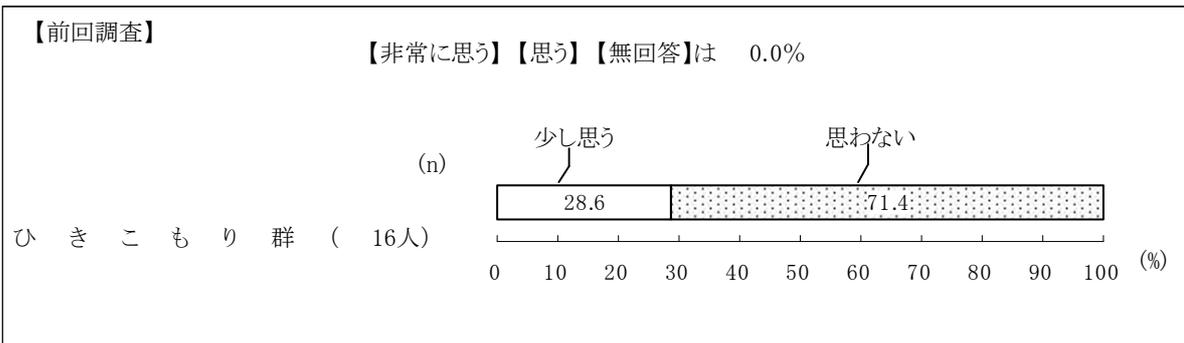
(6) 相談機関に関すること

Q21 現在の状態について、関係機関に相談したいと思いますか。

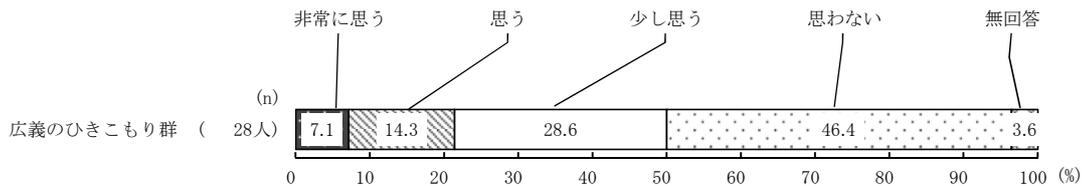
15歳～39歳



現在の状態について、関係機関に相談したいか聞いたところ、「思う」が16.7%、「少し思う」が5.6%、「思わない」が66.7%であった。また、「非常に思う」は回答がなかった。

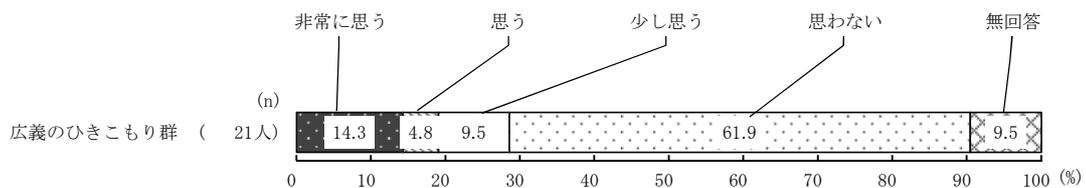


40歳～59歳



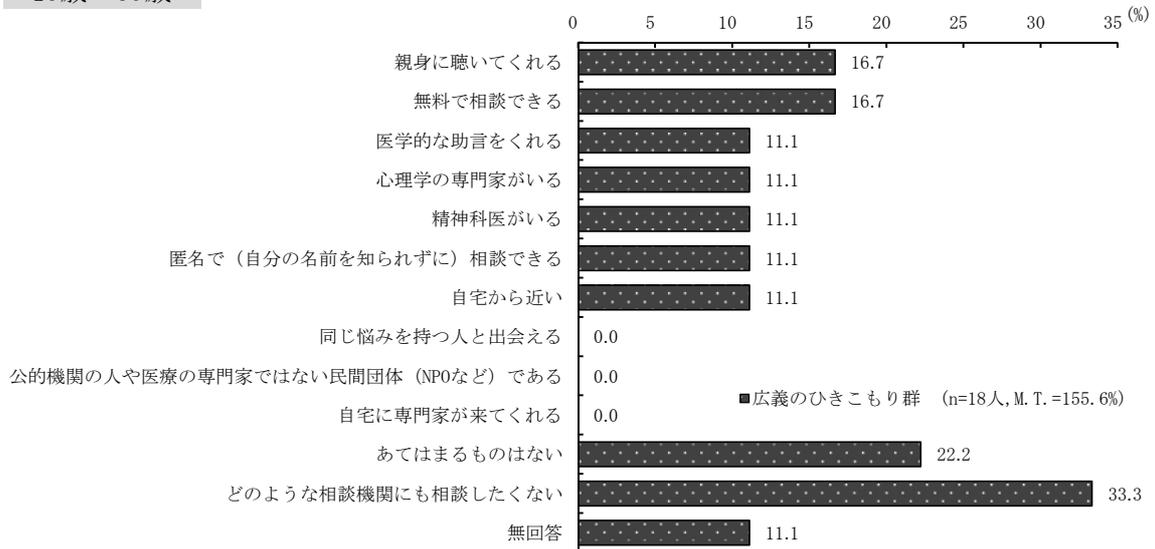
40歳～59歳で見ると、「思わない」が46.4%であり、15歳～39歳に比べて少ない傾向がみられた。

60歳～64歳



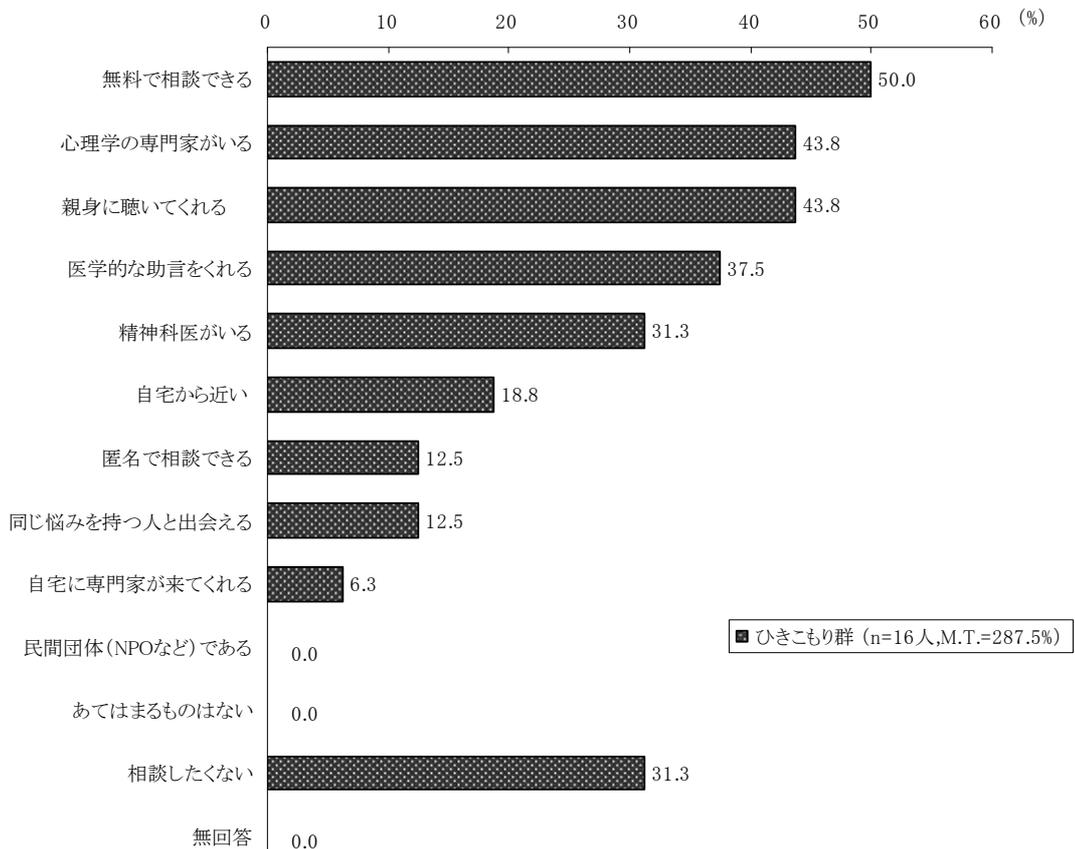
Q22 現在の状態について、どのような機関なら、相談したいと思いますか。（〇はいくつでも）

15歳～39歳

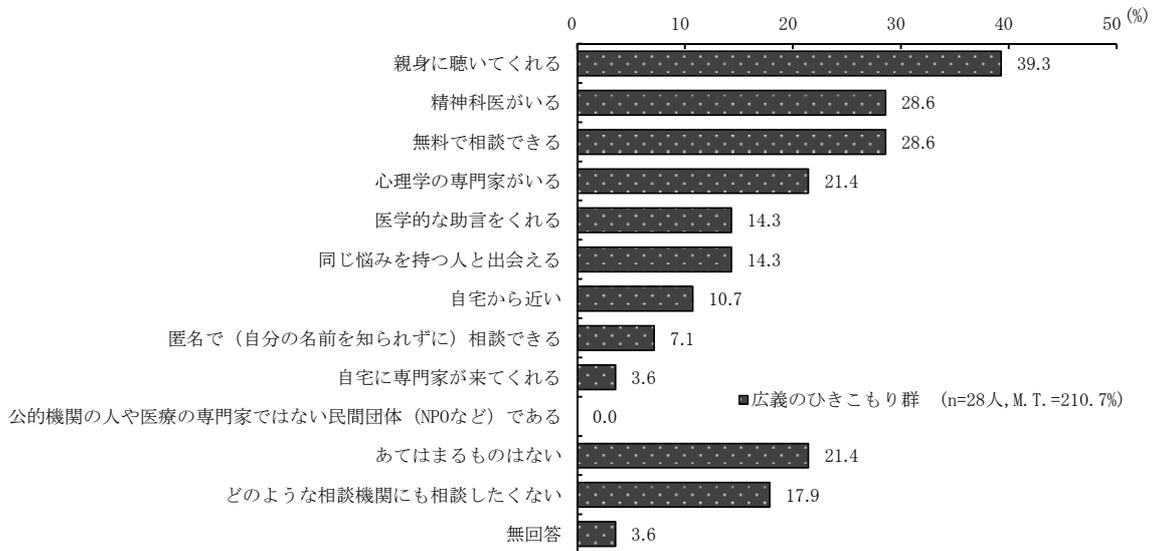


現在の状態をどのような機関に相談したいかについては、「親身に聴いてくれる」及び「無料で相談できる」がともに16.7%であった。また、「あてはまるものはない」が22.2%、「どのような相談機関にも相談したくない」が33.3%であった。

【前回調査】

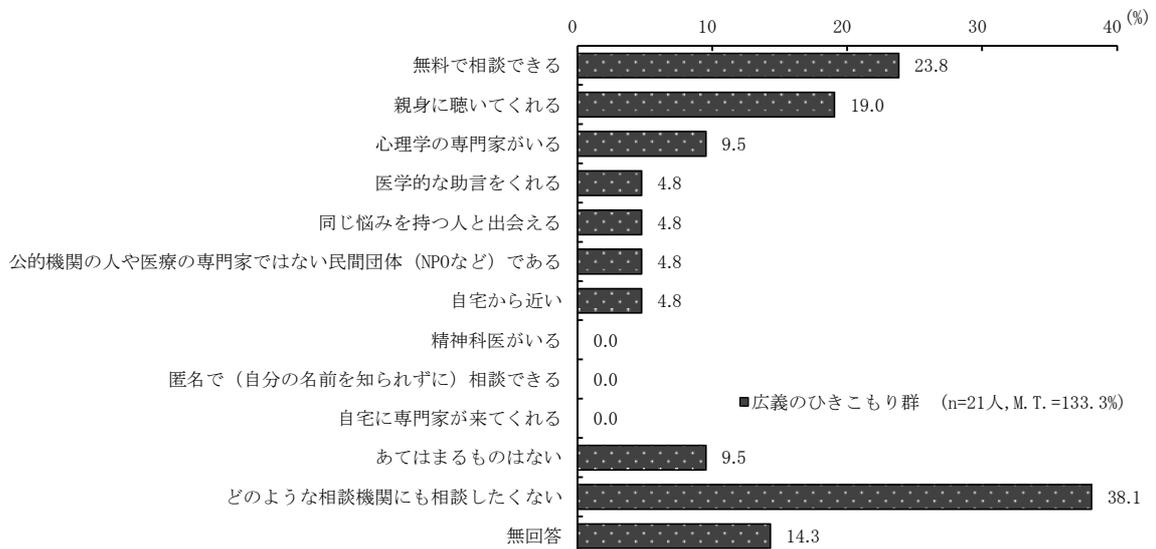


40歳～59歳



40歳～59歳で見ると、「親身に聴いてくれる」が39.3%で最も多かった。また、「どのような相談機関にも相談したくない」が17.9%で、15歳～39歳に比べて少ない傾向がみられた。

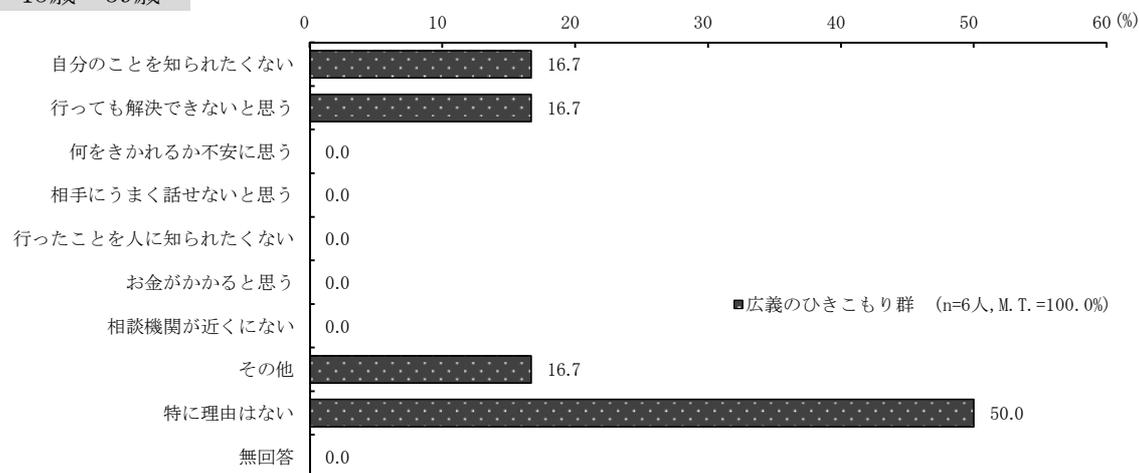
60歳～64歳



※Q22_1は、Q22で「どのような相談機関にも相談したくない」の回答者のみ回答

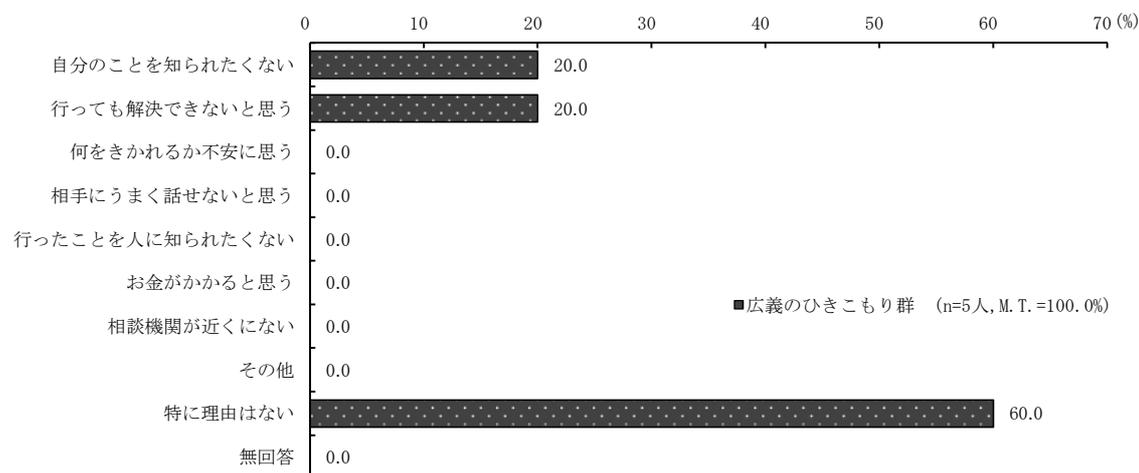
S Q22_1 相談したくないと思う理由は何ですか。(〇はいくつでも)

15歳～39歳

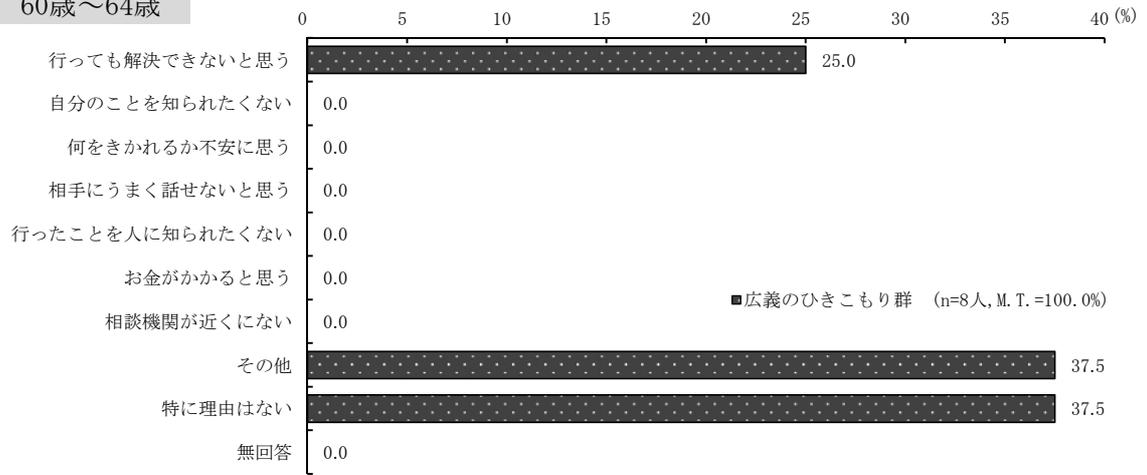


Q22で「どのような相談機関にも相談したくない」の回答者に、相談したくない理由を聞いたところ、「自分のことを知られたくない」、「行っても解決できないと思う」及び「その他」がともに16.7%、「特に理由はない」が50.0%であった。

40歳～59歳

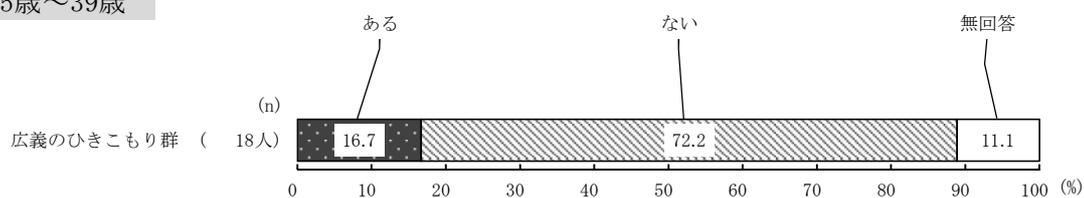


60歳～64歳



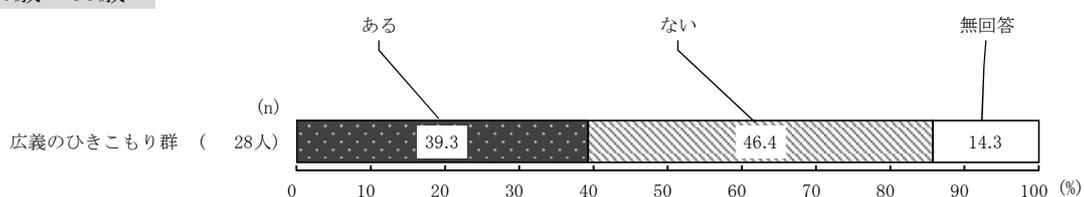
Q23 現在の状況について、関係機関に相談したことはありますか。

15歳～39歳



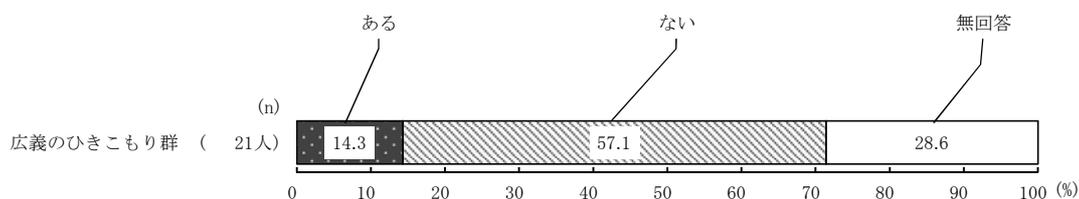
現在の状態について、関係機関への相談有無は、「ある」が16.7%、「ない」は72.2%であった。

40歳～59歳



40歳～59歳で見ると、「ある」が39.3%であり、15歳～39歳に比べて多い傾向がみられた。

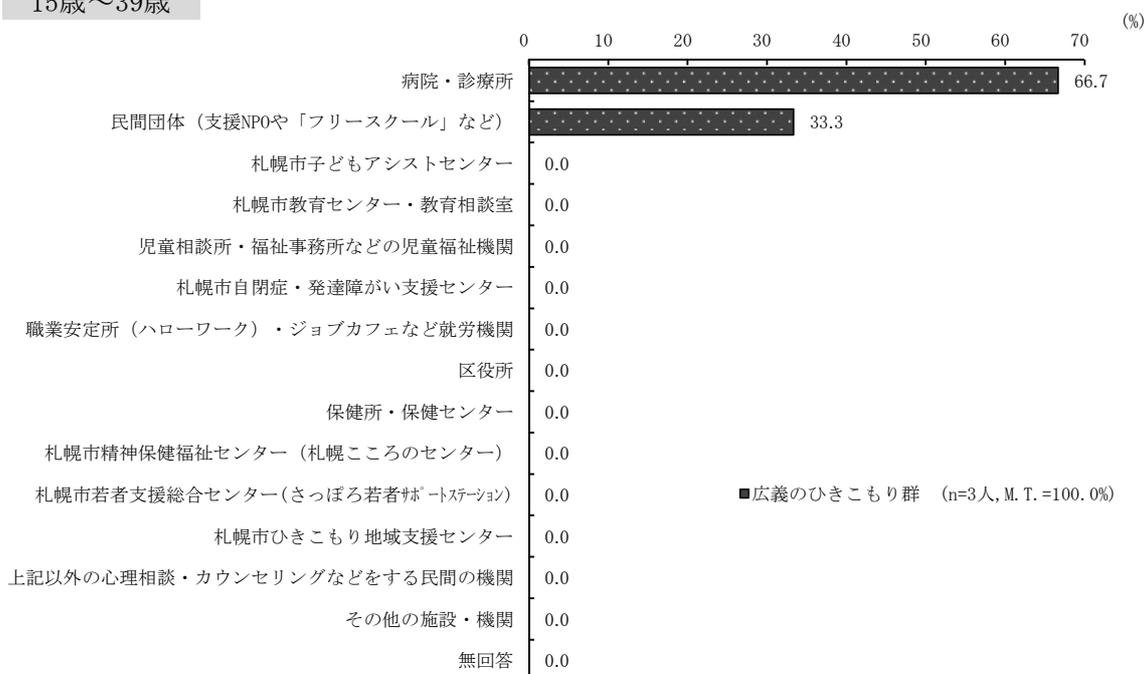
60歳～64歳



※Q23_1は、Q23で「ある」の回答者のみ回答

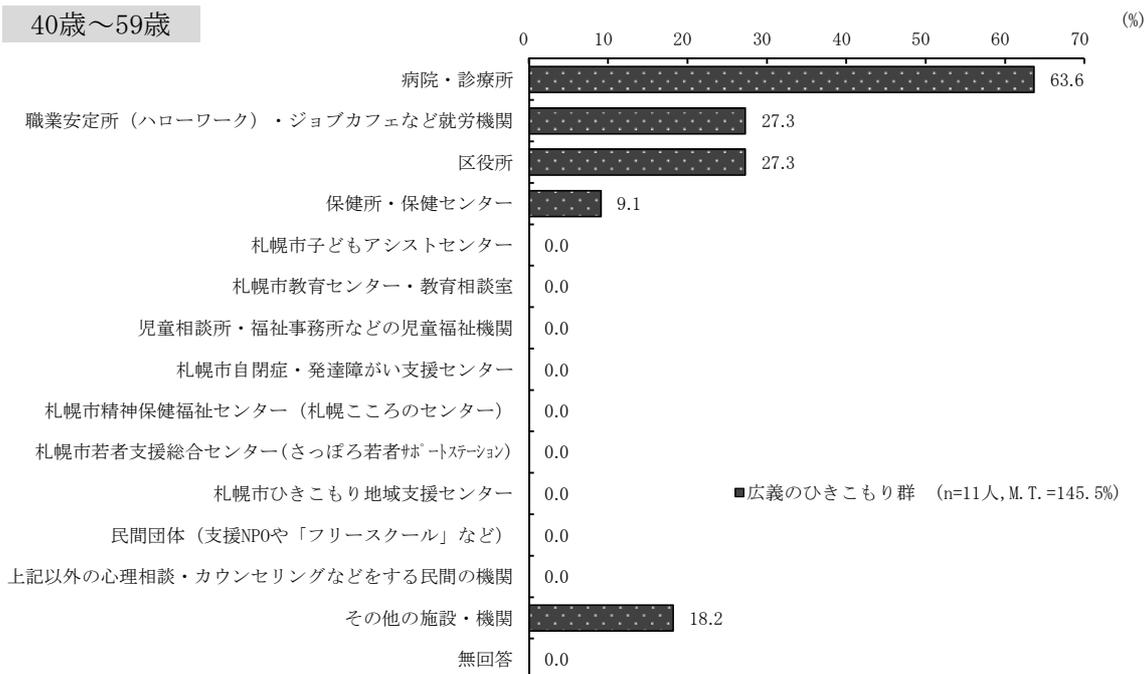
Q23_1 どのような関係機関に相談しましたか。相談したことがある機関に○をつけてください。（○はいくつでも）

15歳～39歳



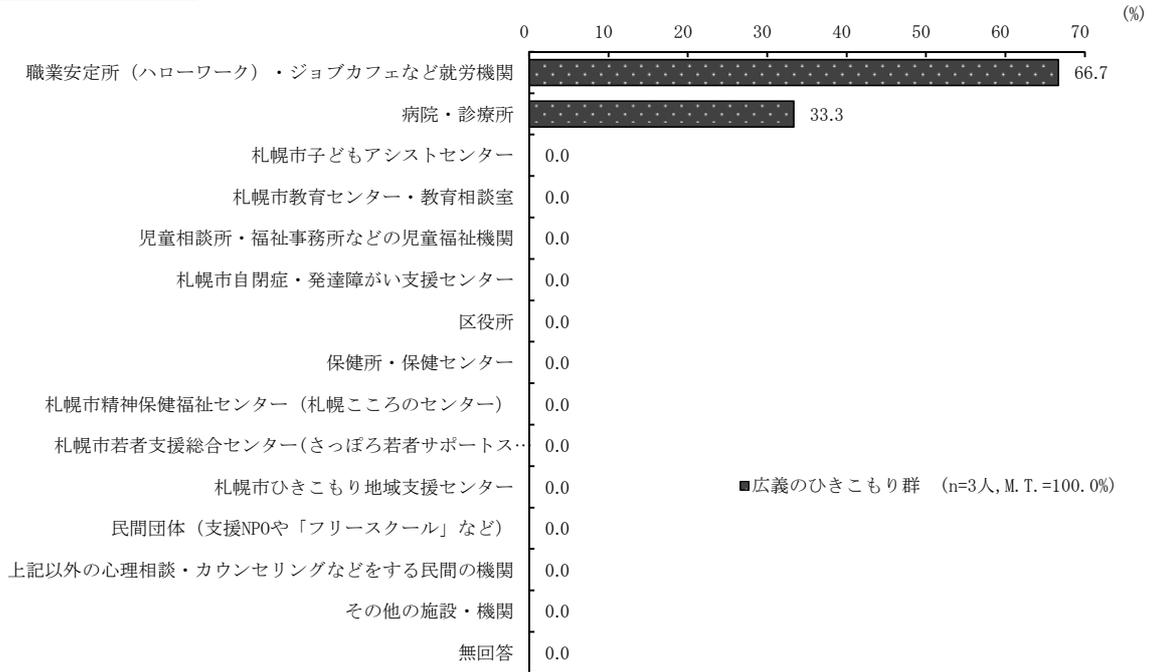
相談した相談機関は、「病院・診療所」が66.7%、「民間団体（支援NPOや「フリースクールなど）」が33.3%であり、それ以外の回答は無かった。

40歳～59歳



40歳～59歳で見ると、「職業安定所・ジョブカフェなど就労機関」及び「区役所」が27.3%で15歳～39歳に比べて多い傾向がみられた。

60歳～64歳



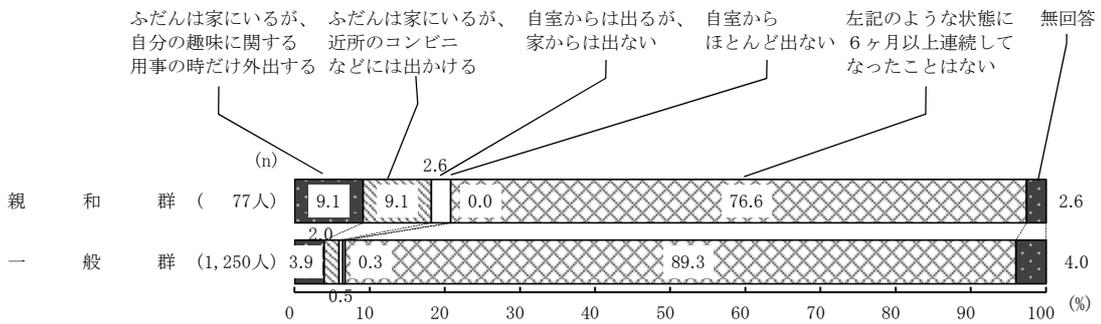
(7) ひきこもりの状態からの立ち直りに関すること

※Q24は、Q17で「仕事や学校で平日は毎日外出する」、「仕事や学校で週に3～4日外出する」、「遊び等で頻繁に外出する」又は「人づきあいのためにときどき外出する」の回答者のみ回答

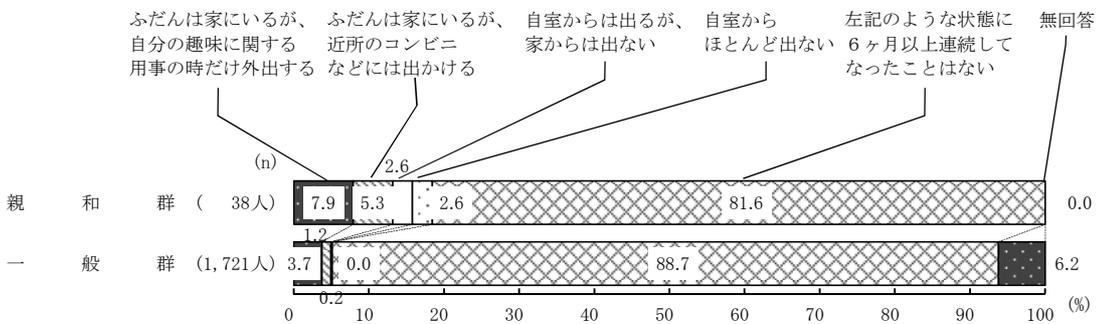
Q24 あなたは今までに6ヶ月以上連続して以下のような状態になったことはありますか。

※Q24の設問は、過去に広義のひきこもりであったと思われる人の群を定義するために使用

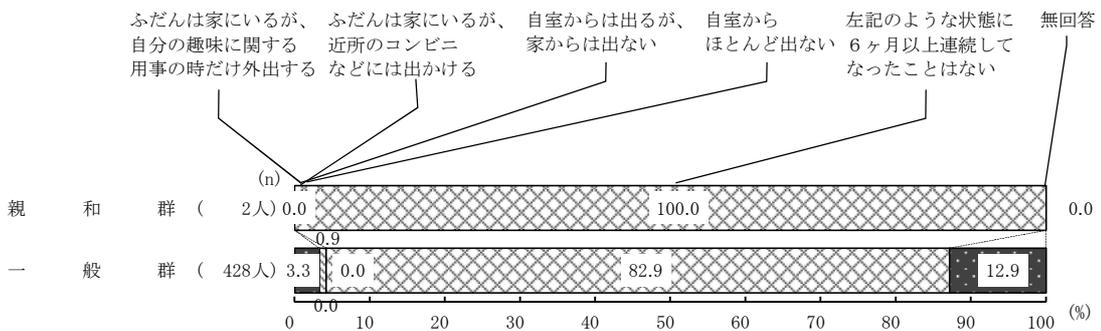
15歳～39歳



40歳～59歳



60歳～64歳

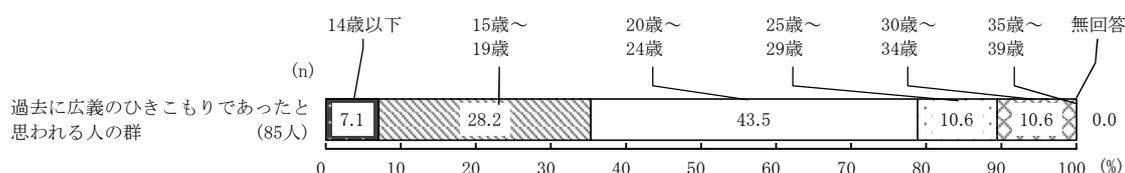


※Q25～Q27は、Q24で外出頻度が低かった回答者（「ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事の時だけ外出する」、「ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける」、「自室からは出るが、家からは出ない」又は「自室からほとんど出ない」の選択者）のみが回答する項目となっている。

※本報告書では、その中でも過去に広義のひきこもりであったと思われる人の群に該当する者の結果について記載する。

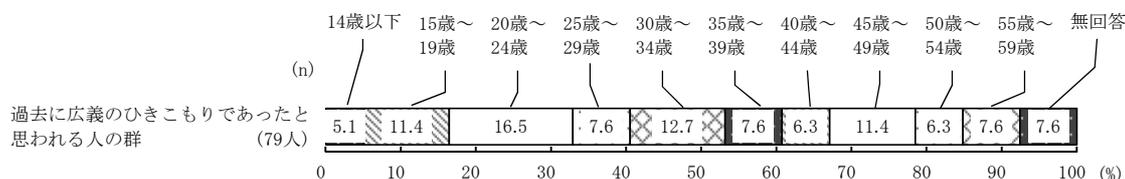
Q25 その状態になったのは、あなたが何歳の頃ですか。（数字で具体的に）

15歳～39歳



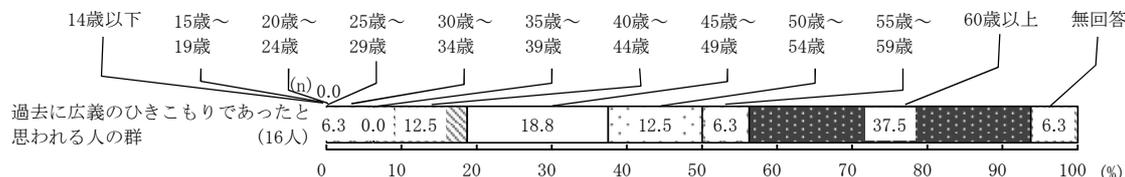
過去にひきこもりの状態となった年齢については、「20歳～24歳」が43.5%で最も多く、ついで「15歳～19歳」が28.2%であった。また、20歳代が約5割を占めた。

40歳～59歳



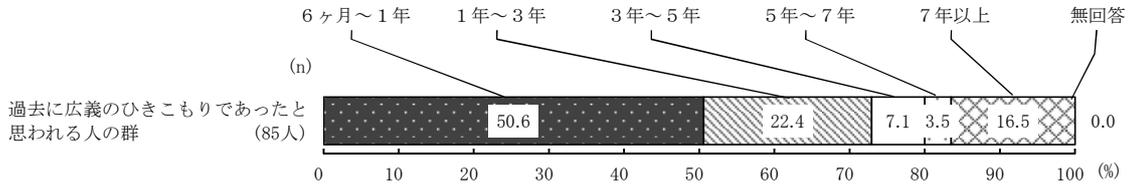
40歳～59歳でみると、「20歳～24歳」が16.5%で最も多く、ついで「30歳～34歳」が12.7%であった。各年代に回答が分かれた。

60歳～64歳



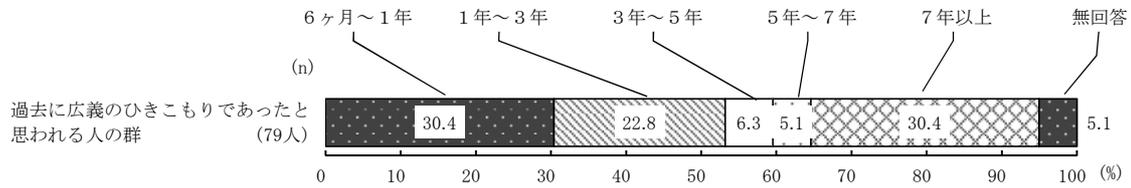
Q26 その状態はどれくらい続きましたか。

15歳～39歳



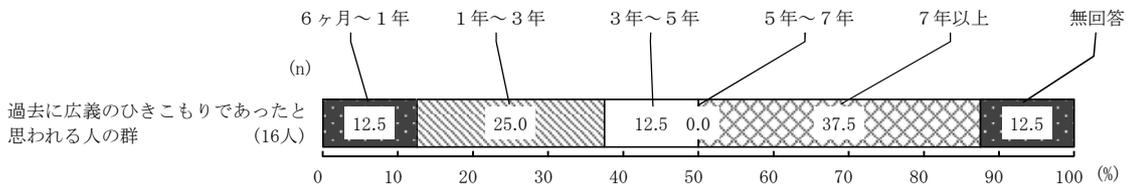
過去にひきこもり状態となった時の継続期間は、「6ヶ月～1年」が50.6%で最も多く、ついで「1年～3年」が22.4%であった。また、「7年以上」は16.5%であった。

40歳～59歳



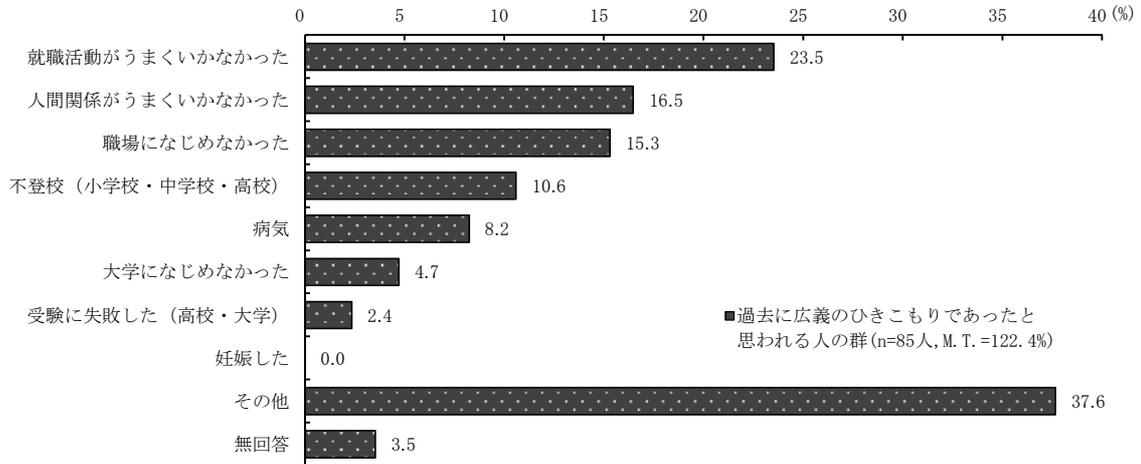
40歳～59歳でみると、「7年以上」が30.4%であり、15歳～39歳に比べて多い傾向がみられた。

60歳～64歳



Q27 その状態になったきっかけは何でしたか。(〇はいくつでも)

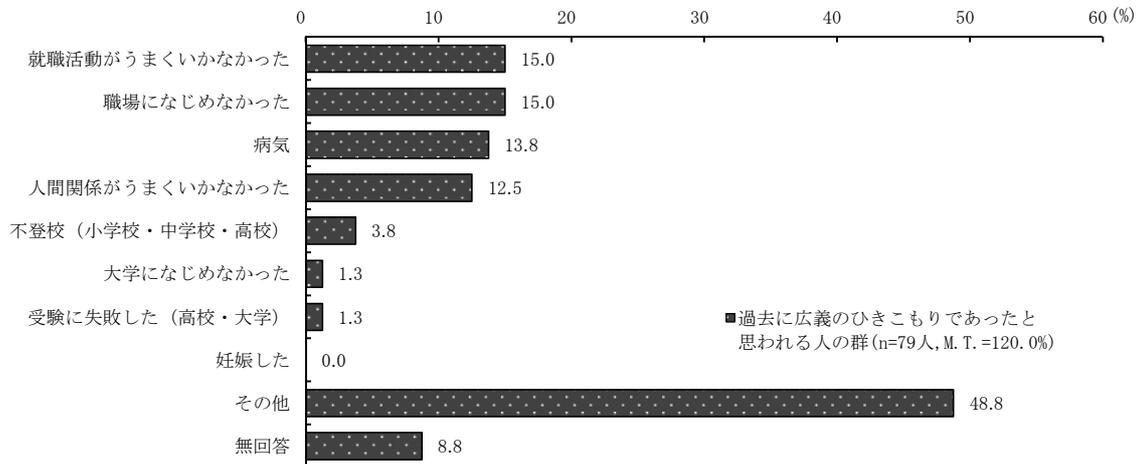
15歳～39歳



過去にひきこもりの状態となったきっかけは、「就職活動がうまくいかなかった」が23.5%であった。

「その他」の回答の中には、「仕事で疲れた」といった回答が多くみられた一方で、「特になし」等明確なきっかけが見当たらない回答もみられた。

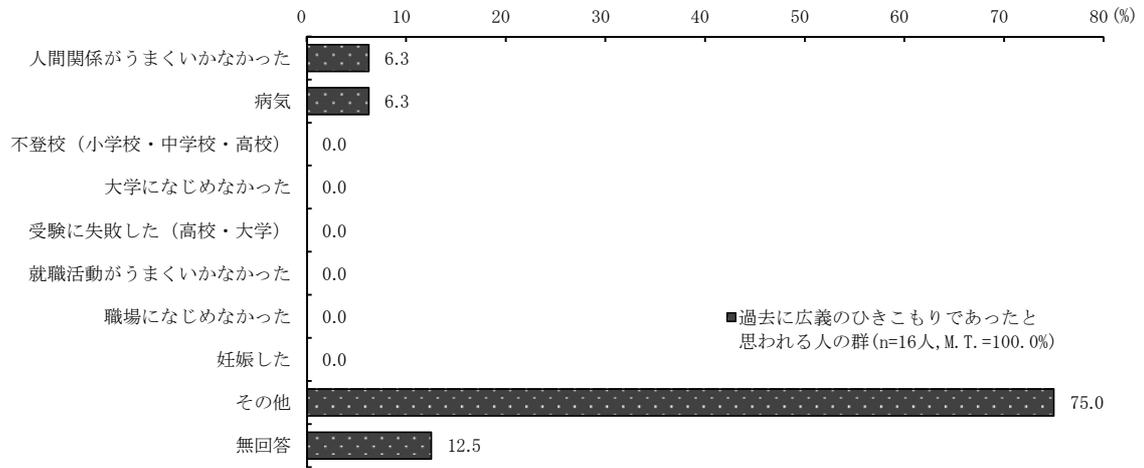
40歳～59歳



40歳～59歳でみると、「就職活動がうまくいかなかった」等回答が分かれた。

「その他」の回答の中には、「退職した」といった回答がみられた一方で、「特になし」等明確なきっかけが見当たらない回答もみられた。

60歳～64歳



Q28 その状態からQ17で回答した現在状況になったきっかけや役立つことはなんだったと思いますか。

以下では回答の一部を抜粋し、きっかけや役立つことを年代別に分類した。なお、回答からは個人を特定できないよう加工している。

<就職・転職>

15歳～39歳

- ・色々な仕事を短期で経験してみることで、少しずつ自分に合う職種がわかるようになり、自分が将来どうなりたいたのかがぼんやり見えてきた。(女性・20歳～24歳)
- ・アルバイトでもなんでもいいからとにかく仕事をする。(男性・30歳～34歳)

40歳～59歳

- ・仕事が決まって働くようになったことがよい方向に進んでいたと思います。(女性・45歳～49歳)
- ・仕事が決まり、他人とかかわることによって自然と立ち直りました。(男性・55歳～59歳)

<人とのつながり(家族・友人・知人)>

15歳～39歳

- ・仕事がうまくいかず辞めてほぼ家にいる状態の時、友人が自分の家に旅行に来たことがありその時に次は自分が働いて遊びに行きたいと思ったのがひとつ。他の友人が人手不足で仕事を紹介してくれてそこから今の仕事が続いている。友人の有難さ、大切さが身に染み込んだ。(女性・20歳～24歳)
- ・友人や家族の助言や支え。外に連れ出してくれる親友がいて、少しずつ回復していった。(男性・25歳～29歳)

40歳～59歳

- ・正直あまり思い出したくないですが、親に助けてもらった事は間違いないです。特に経済的援助がなければ相当厳しかったと思います。(女性・45歳～49歳)
- ・知人を通じて、就職先を紹介してくれた人物に出会えたこと。(男性・50歳～54歳)

<医療機関・相談機関>

15歳～39歳

- ・学校で心の相談室みたいのに行った。親としっかり毎日話した。(女性・15歳～19歳)
- ・専門家によるカウンセリング、通院(精神科)、親との積極的な会話、高校の親身な対応、出来ることが少しずつ増えてくることによる自己肯定感の回復、新しい環境(大学)の存在(男性・20歳～24歳)

40歳～59歳

- ・きちんと休んで積極的に治療を受けたこと。(女性・35歳～39歳)
- ・デイケアへの通所は役に立っていると思う。(男性・55歳～59歳)

<自身の成長、時間の経過、気持ちの変化>

15歳～39歳

- ・ちゃんと外に出て人と話せるようになって普通の生活を取り戻そうと思ったから。変わるきっかけを探していて接客業に目を付けました。大切なのは変わりたいと思う気持ちだと思います。(女性・25歳～29歳)
- ・時間が必要でした。それと少しずつ外に出たり犬の散歩をして近所の人と話したりしているうちにアルバイトをするようになり今の仕事をしています。私の場合は金欠と人と接することを少しずつしていったことで外に出られるようになったと思っています。(女性・30歳～34歳)
- ・自分の人生や生活に対する自覚が出てきた。(男性・35歳～39歳)

- ・資格取得を目指し講座や学校に通うことで自分の可能性を探し見いだす。（女性・35歳～39歳）

40歳～59歳

- ・充分休んだので仕事をして収入を得たいと思った。（女性・40歳～44歳）
- ・やることがないのにあきたので。（女性・40歳～44歳）

<生活のため>

15歳～39歳

- ・貯金が少なくなり新しい仕事を探し、以前より良い職場で働く事が出来ました。友人も増え遊びに出かける頻度が多くなりました。（女性・20歳～24歳）

40歳～59歳

- ・生活費が少なくなってきたので、とにかく働こうと思い、短期のアルバイトから始めてみた。その後、派遣会社から長期の仕事を紹介されて、また仕事をはじめられた。（女性・45歳～49歳）

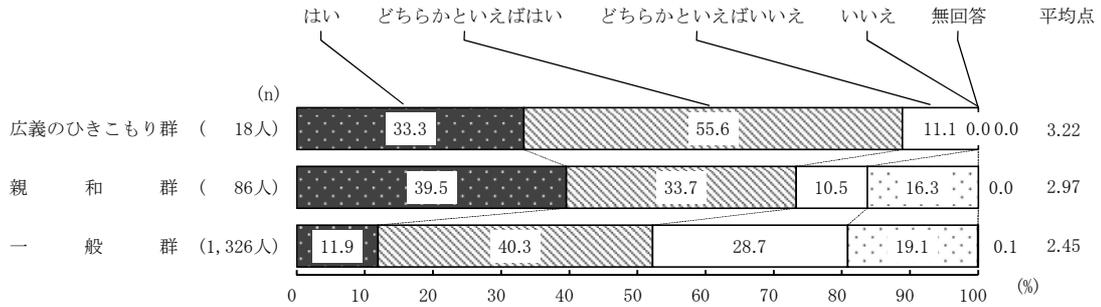
(8) 自分についてにあてはまること

あなた自身にあてはまるかどうか16項目について聞いた。

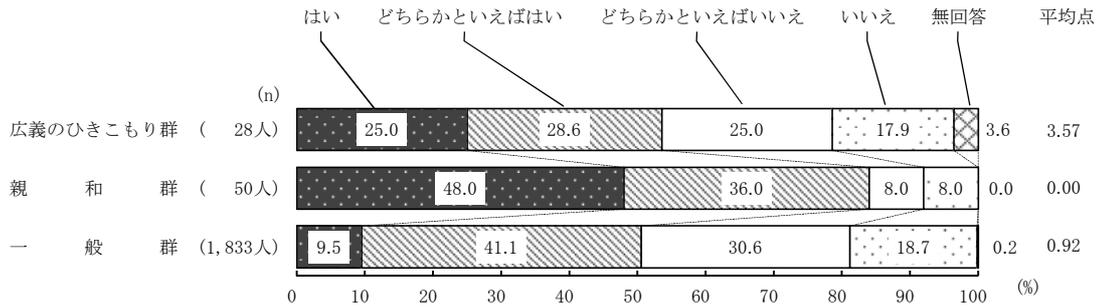
Q29 次にあげられたことについて、あなた自身にあてはまる数字に○をつけてください。

1. 自分の欠点や失敗を少しでも悪く言われると、ひどく動揺(どうよう)する

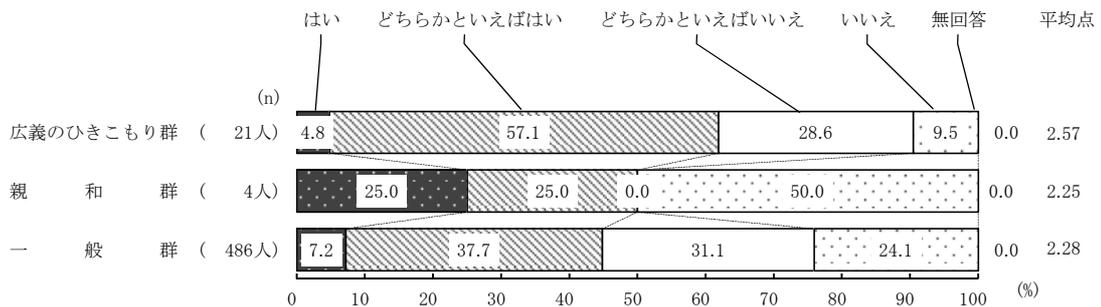
15歳～39歳



40歳～59歳

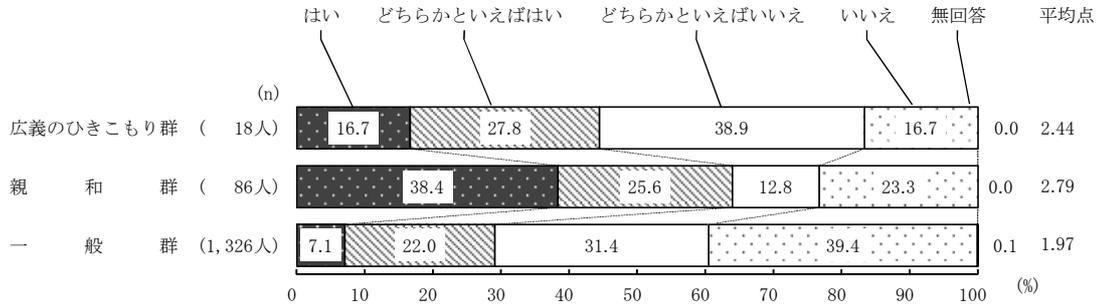


60歳～64歳

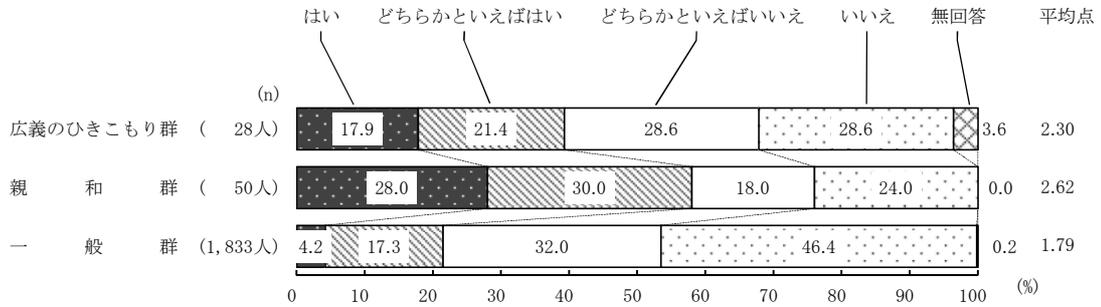


Q29 2. 人といると、馬鹿にされたり軽く扱われはしないかと不安になる

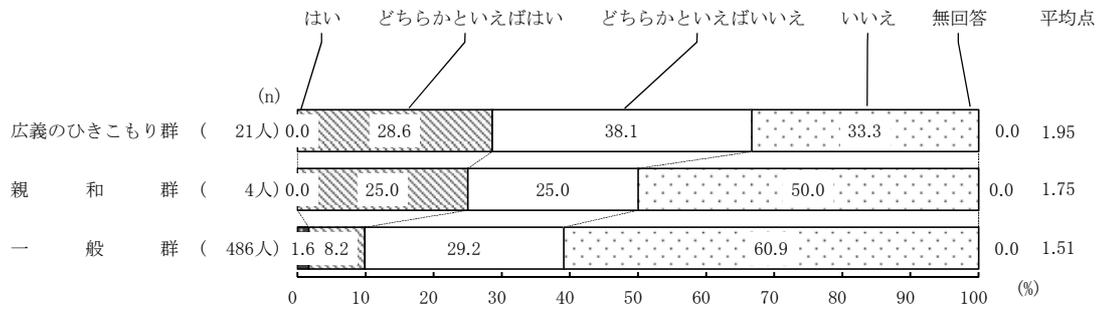
15歳～39歳



40歳～59歳

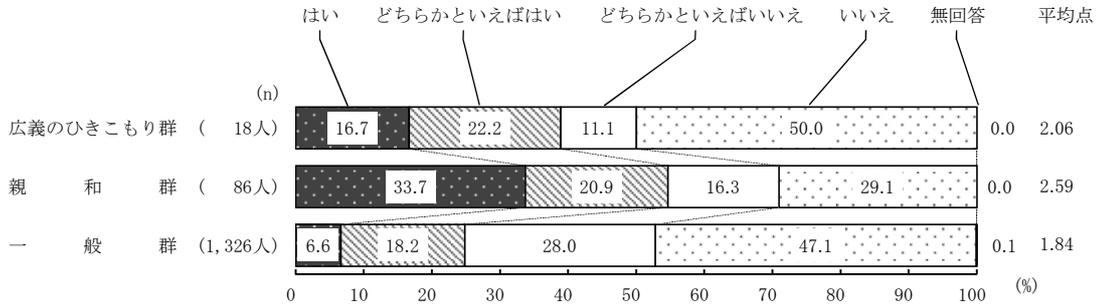


60歳～64歳

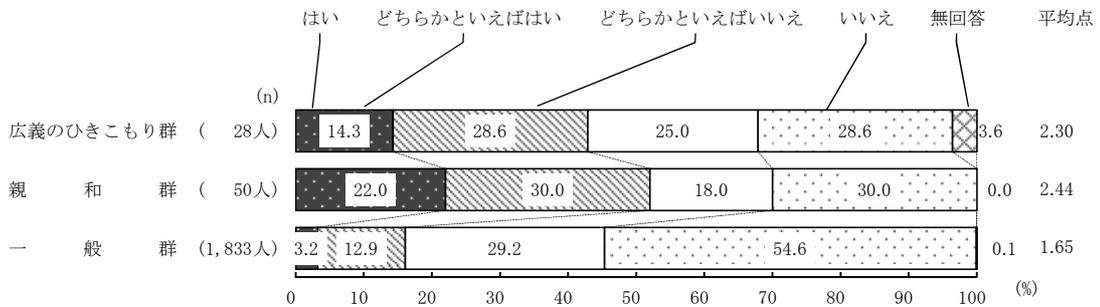


Q29 3. 周りの人に自分が変な人に思われているのではないかと不安になる

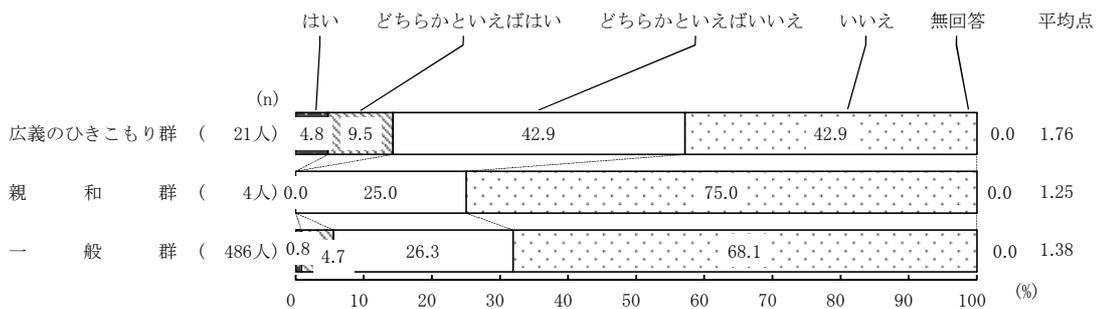
15歳～39歳



40歳～59歳

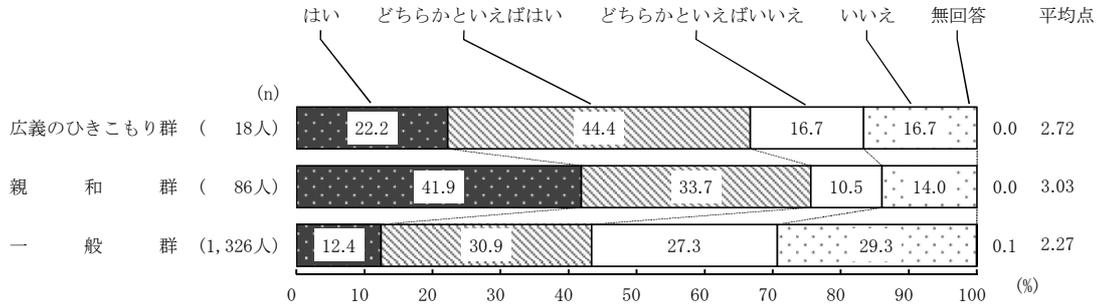


60歳～64歳

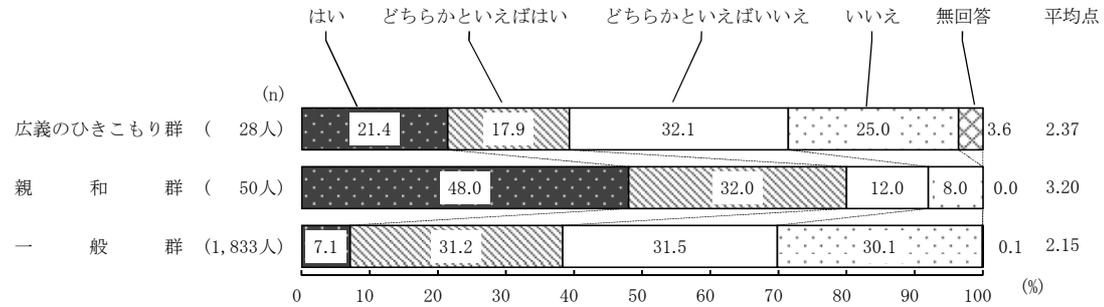


Q29 4. 他人から間違いや欠点を指摘されると、憂うつな気分が続く

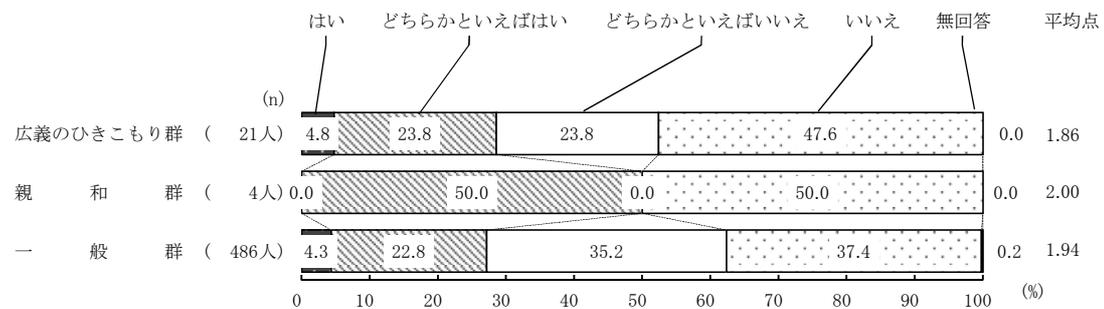
15歳～39歳



40歳～59歳

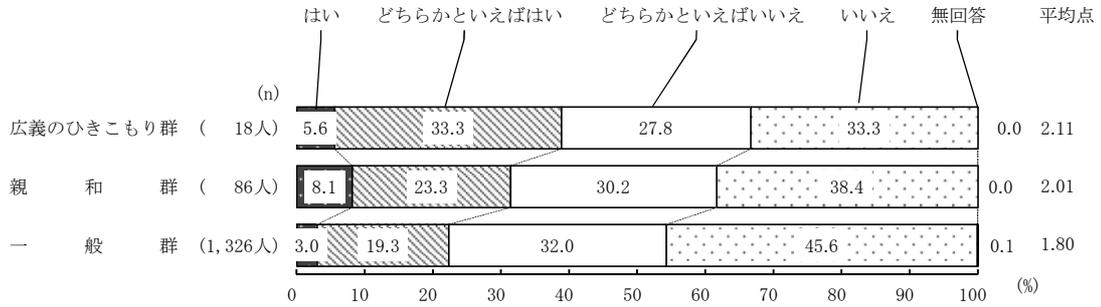


60歳～64歳

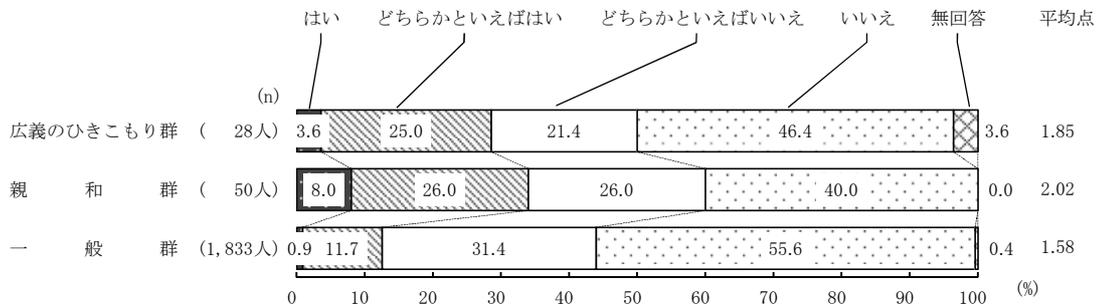


Q29 5. 大事なことを決めるときは、親や教師の言うことに従わないと不安だ

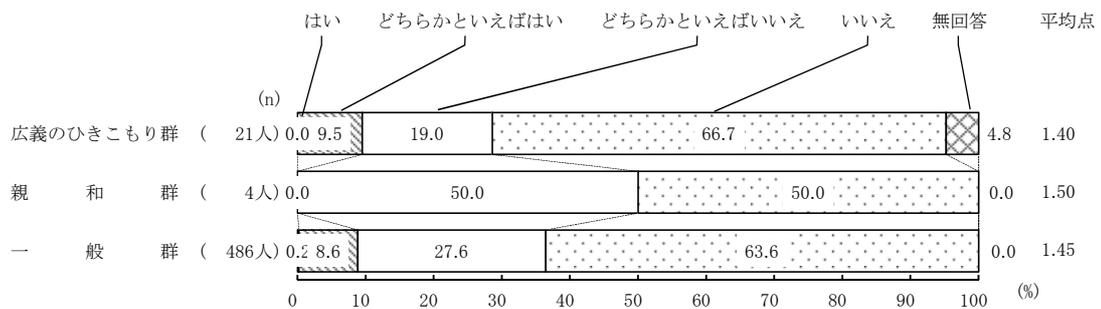
15歳～39歳



40歳～59歳

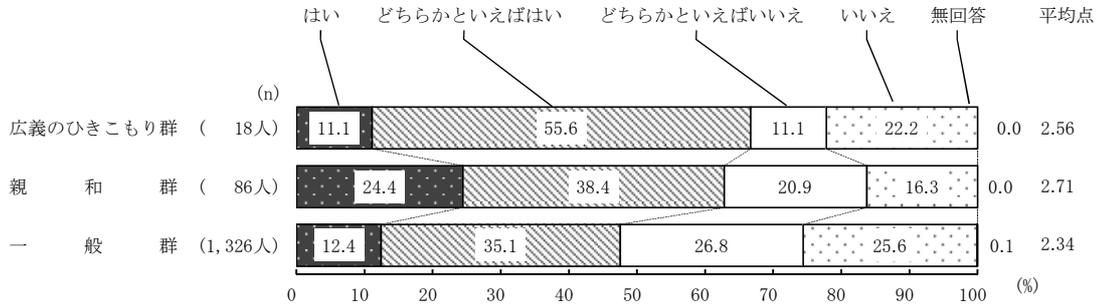


60歳～64歳

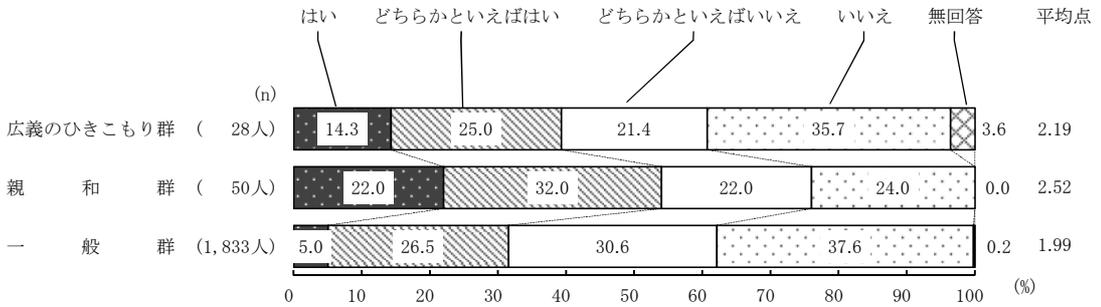


Q29 6. 大事なことを自分ひとりで決めてしまうのは不安だ

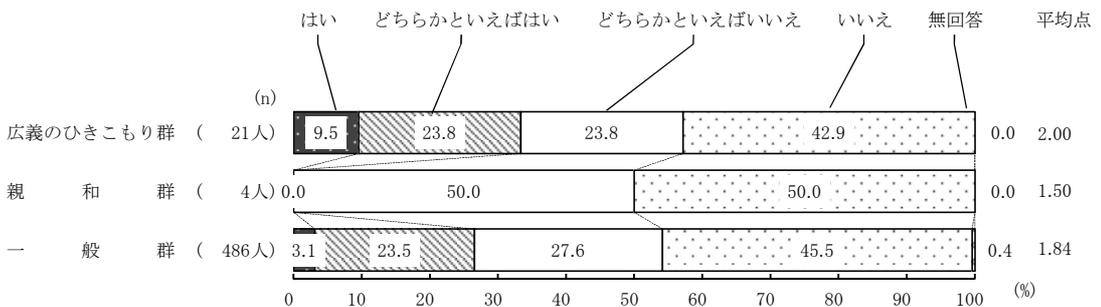
15歳～39歳



40歳～59歳

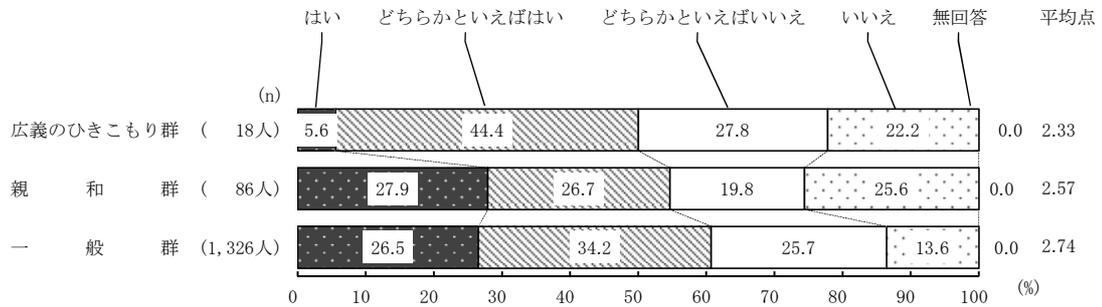


60歳～64歳

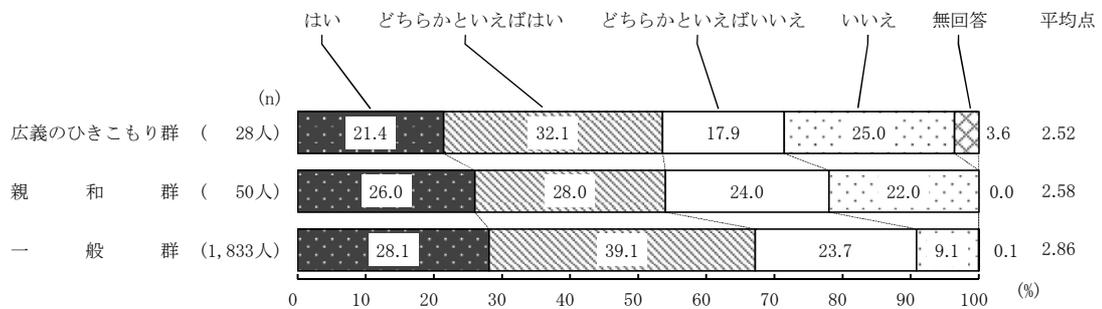


Q29 7. 初対面の人とすぐに会話できる自信がある

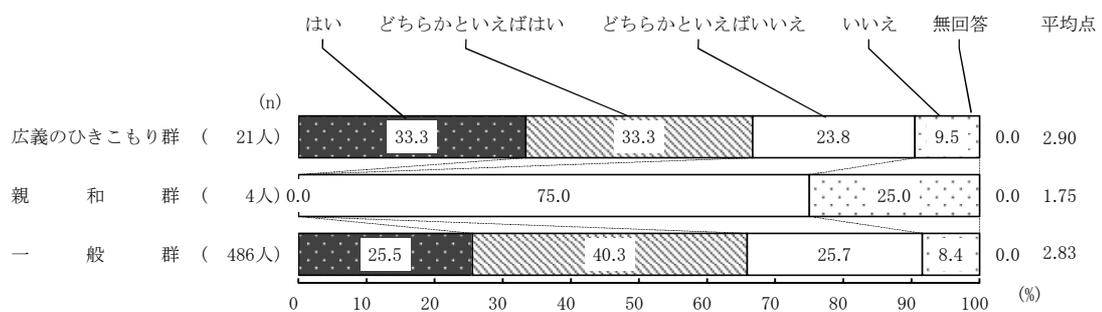
15歳～39歳



40歳～59歳

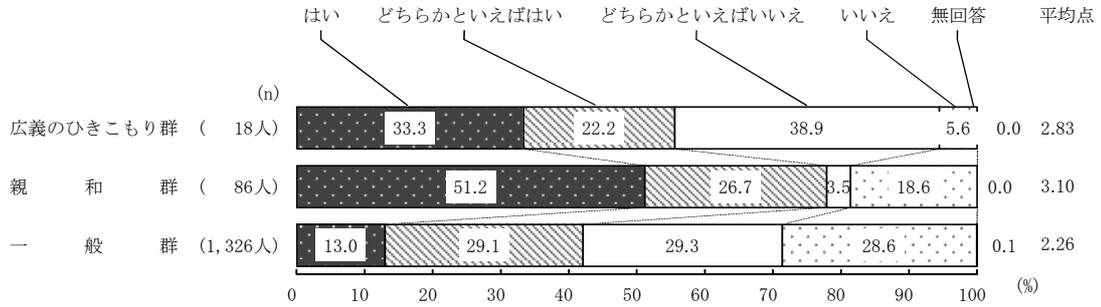


60歳～64歳

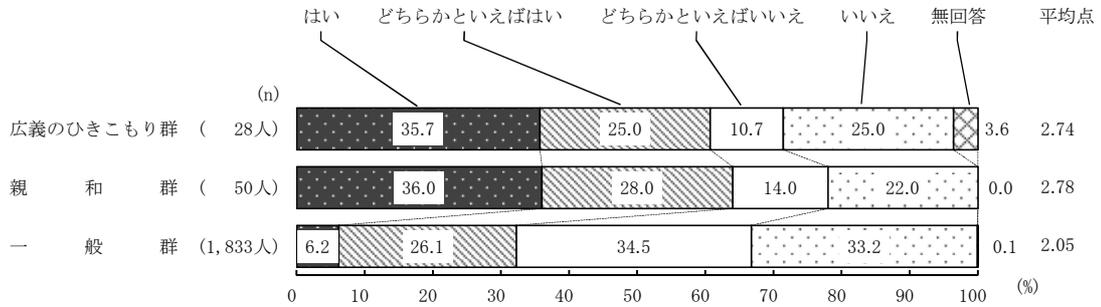


Q29 8. 人とのつきあい方が不器用なのではないかと悩む

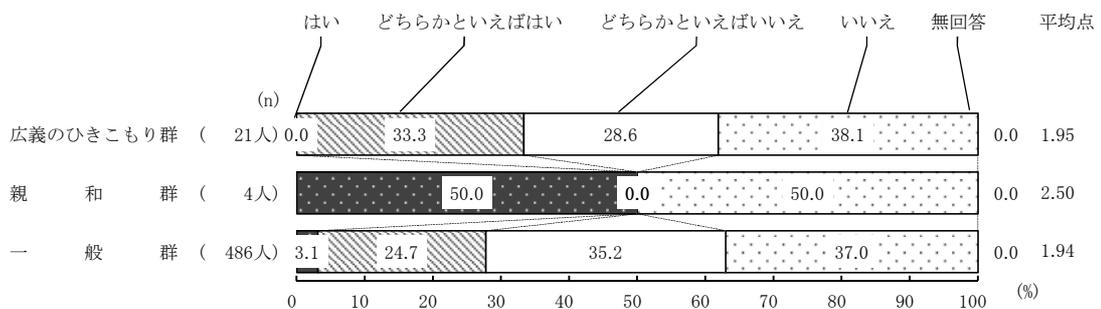
15歳～39歳



40歳～59歳

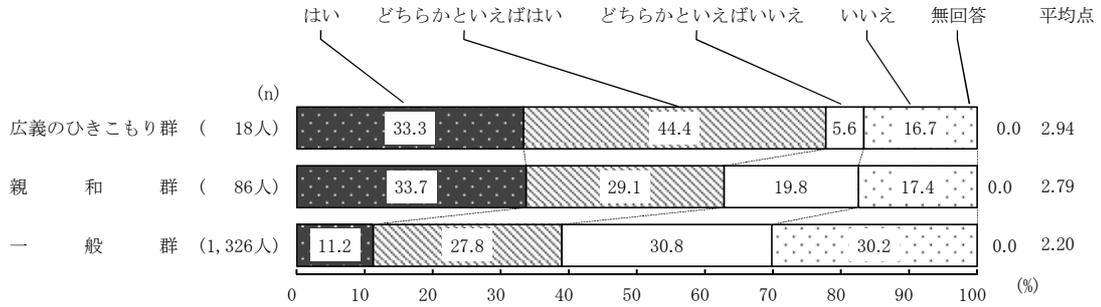


60歳～64歳

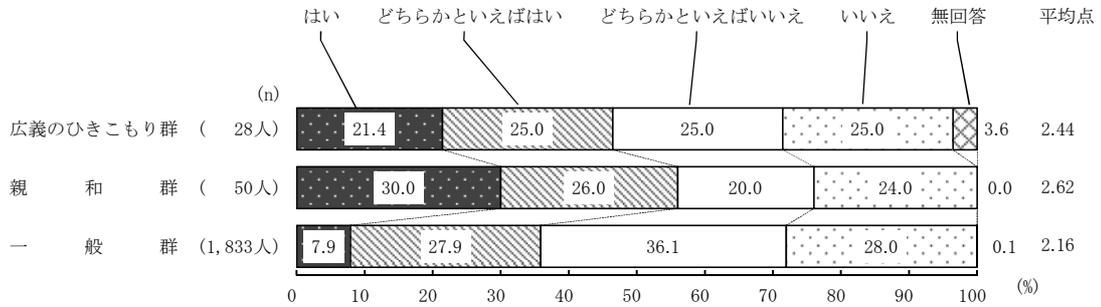


Q29 9. 自分の感情を表に出すのが苦手だ

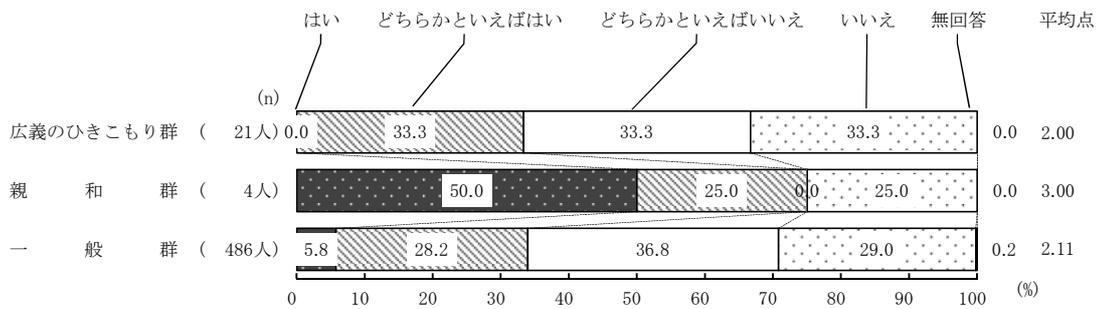
15歳～39歳



40歳～59歳

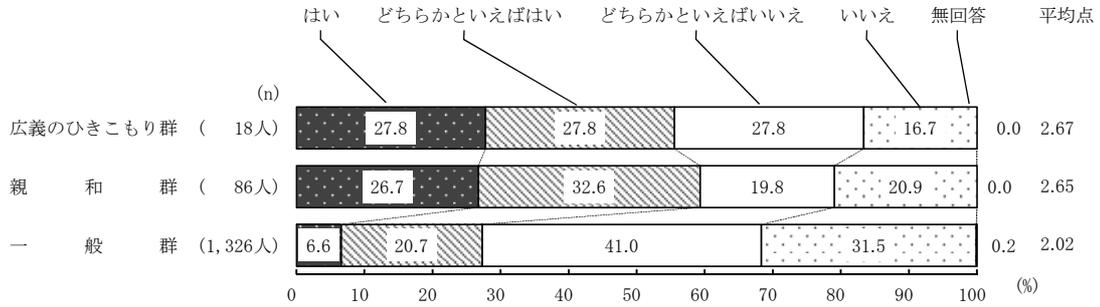


60歳～64歳

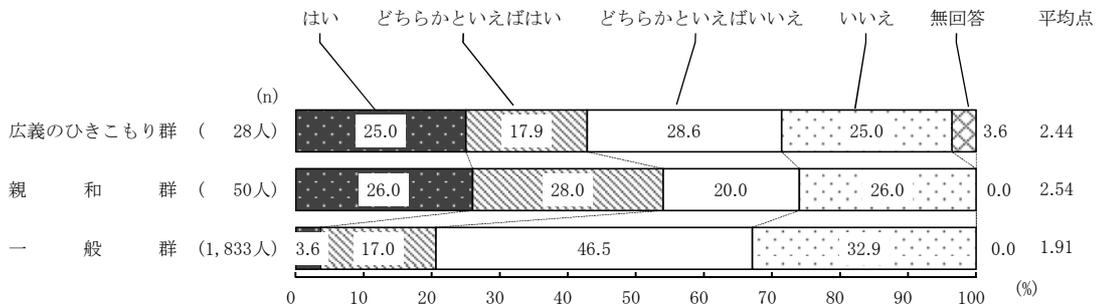


Q29 10. 周りの人ともめごとが起こったとき、どうやって解決したらいいかわからない

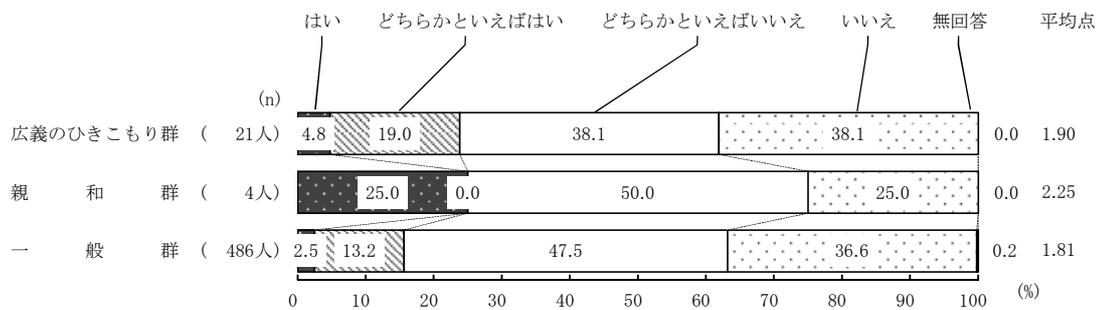
15歳～39歳



40歳～59歳

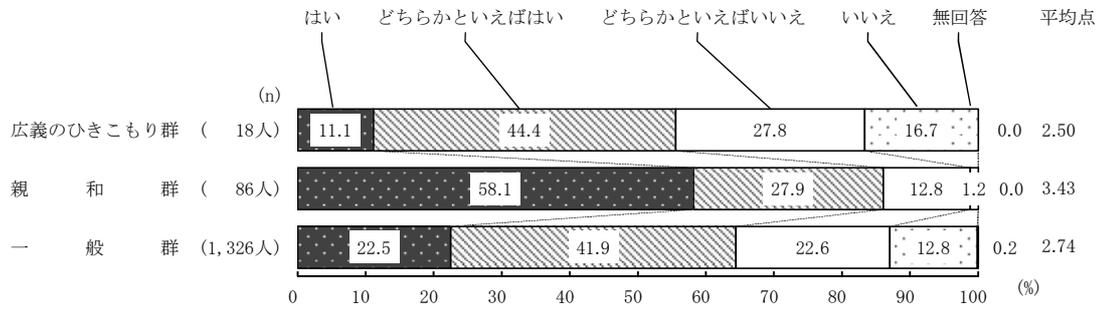


60歳～64歳

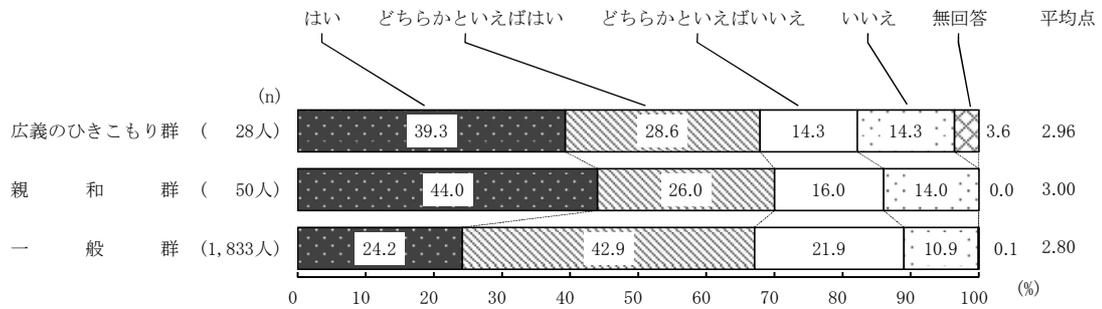


Q29 11. たとえ親であっても自分のやりたいことに口出ししないでほしい

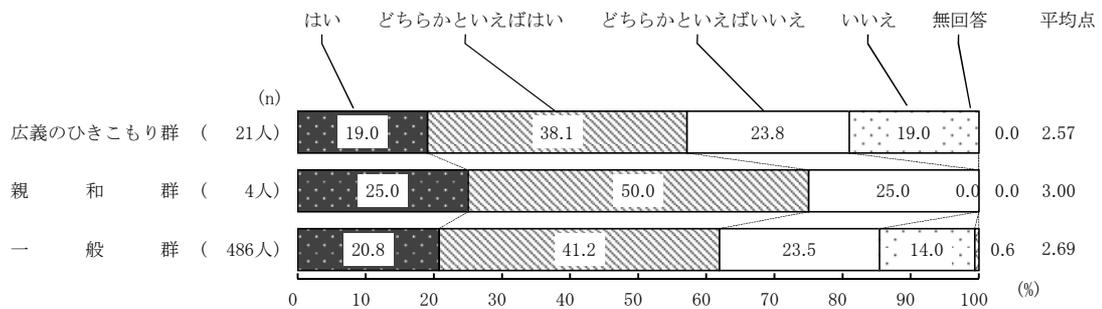
15歳～39歳



40歳～59歳

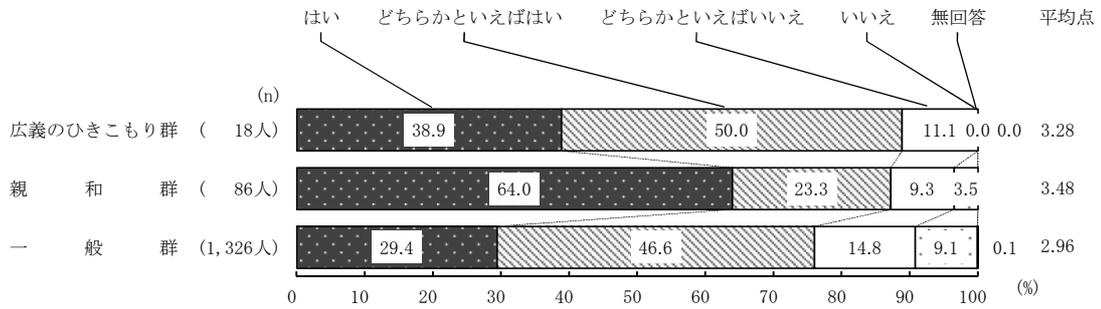


60歳～64歳

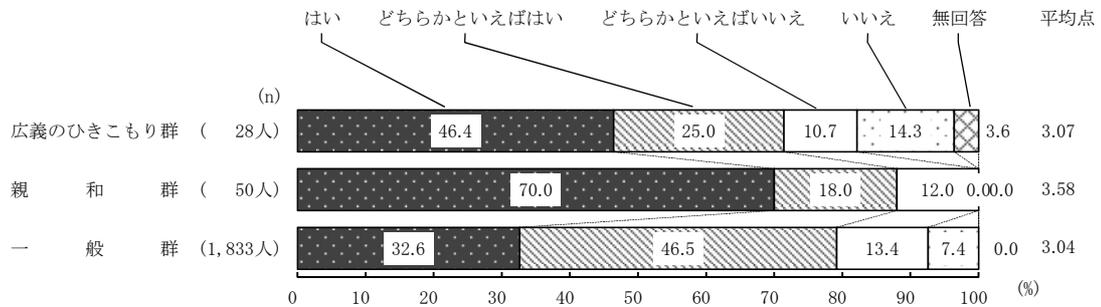


Q29 12. 自分の生活のことで人から干渉されたくない

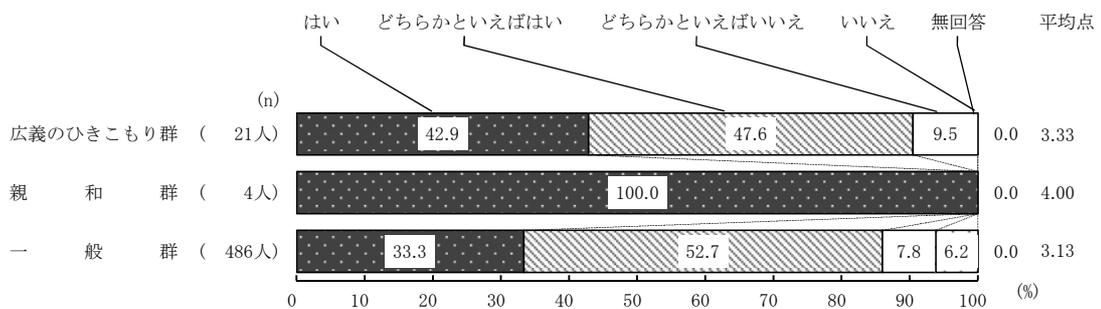
15歳～39歳



40歳～59歳



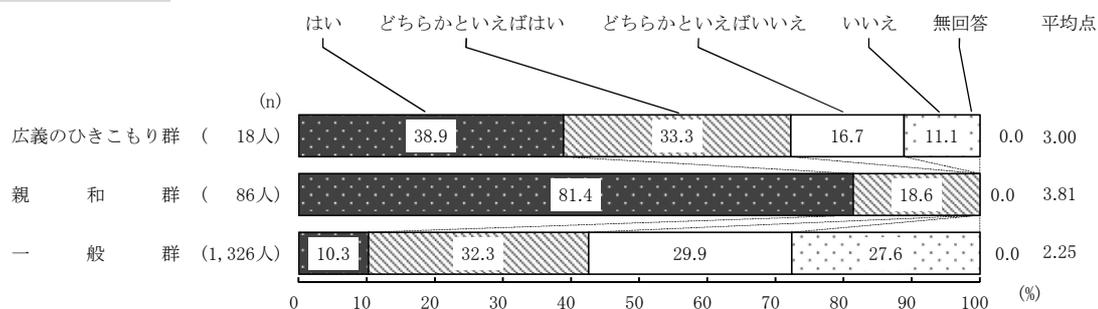
60歳～64歳



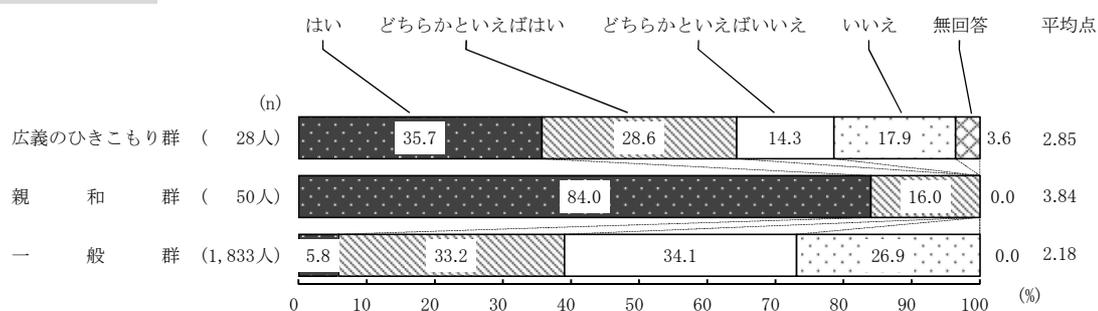
※Q29 13～Q29 16の設問は、親和群を定義するために使用

Q29 13. 家や自室に閉じこもっていて外に出ない人たちの気持ちがわかる

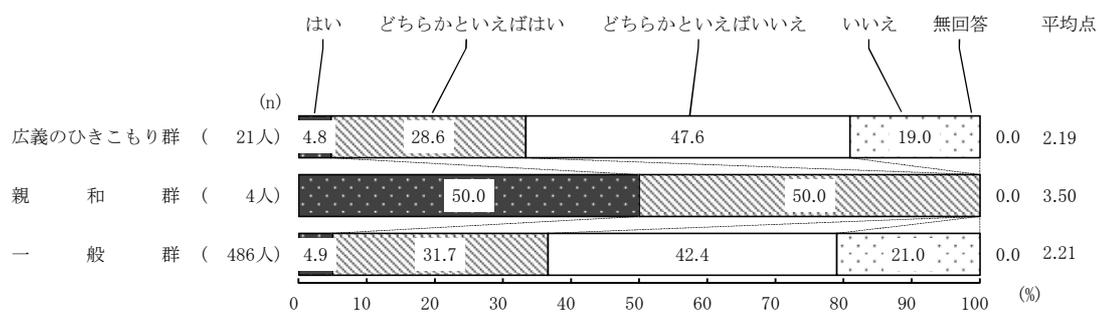
15歳～39歳



40歳～59歳

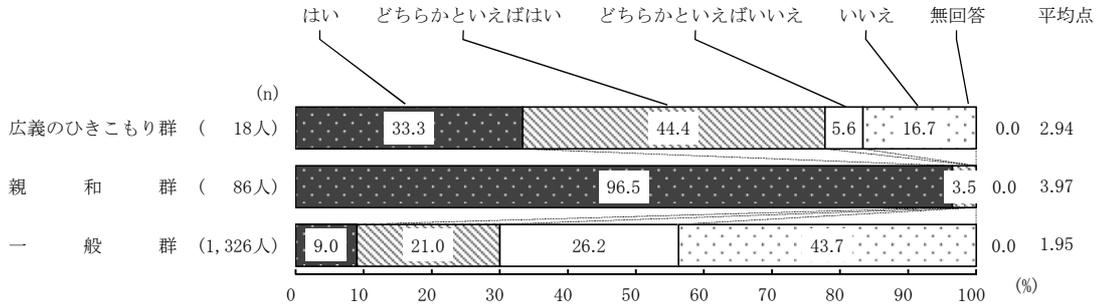


60歳～64歳

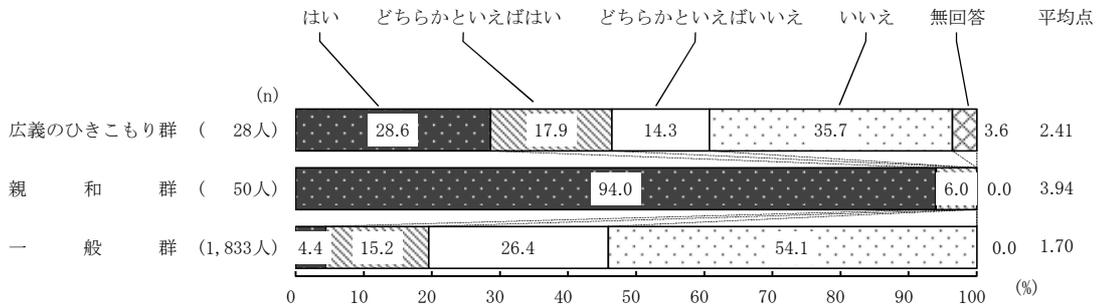


Q29 14. 自分も、家や自室に閉じこもりたいと思うことがある

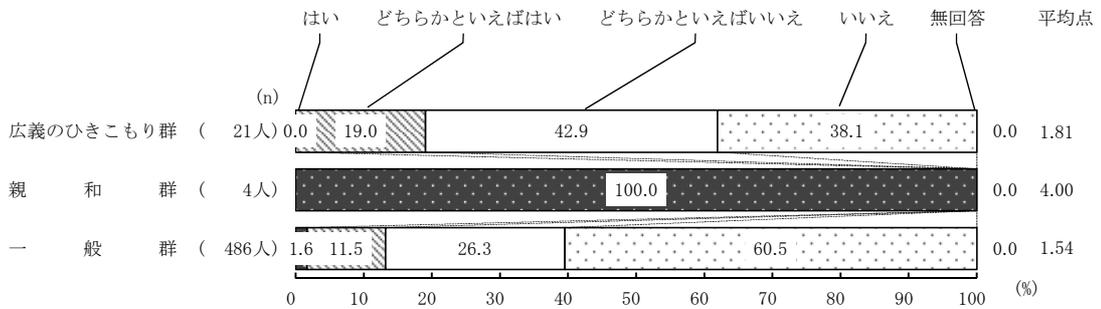
15歳～39歳



40歳～59歳

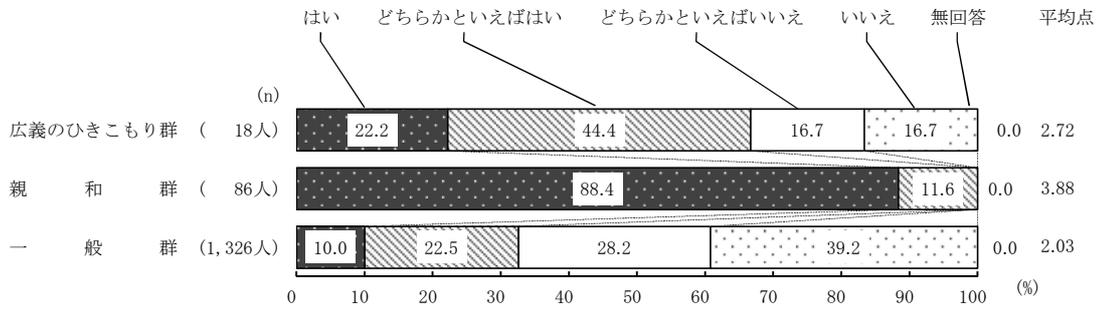


60歳～64歳

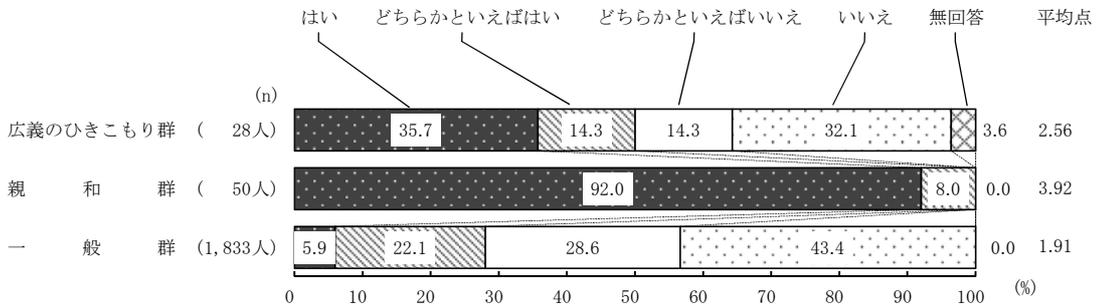


Q29 15. 嫌な出来事があると、外に出たくなくなる

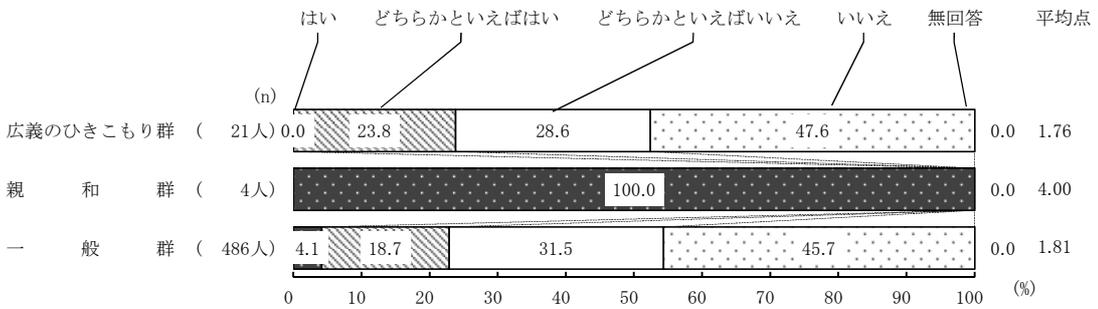
15歳～39歳



40歳～59歳

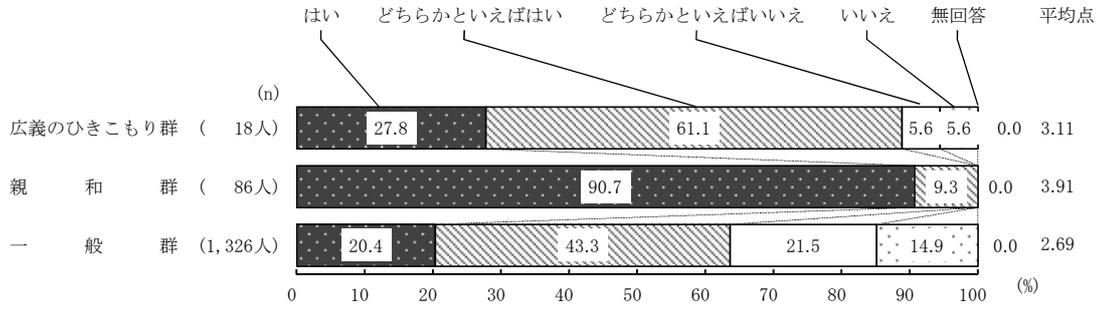


60歳～64歳

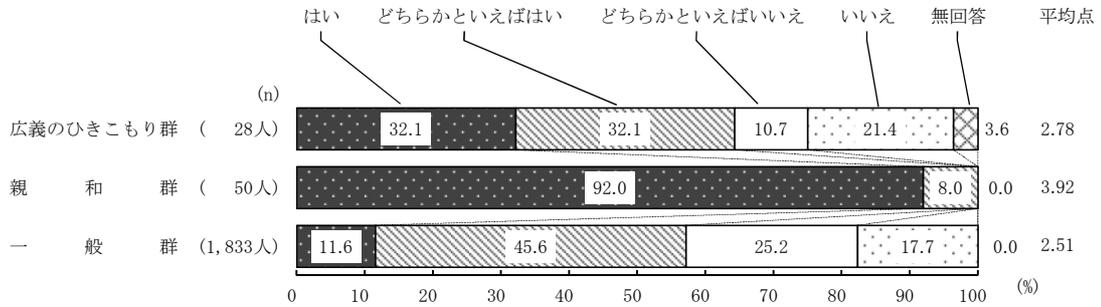


Q29 16. 理由があるなら家や自室に閉じこもるのも仕方がないと思う

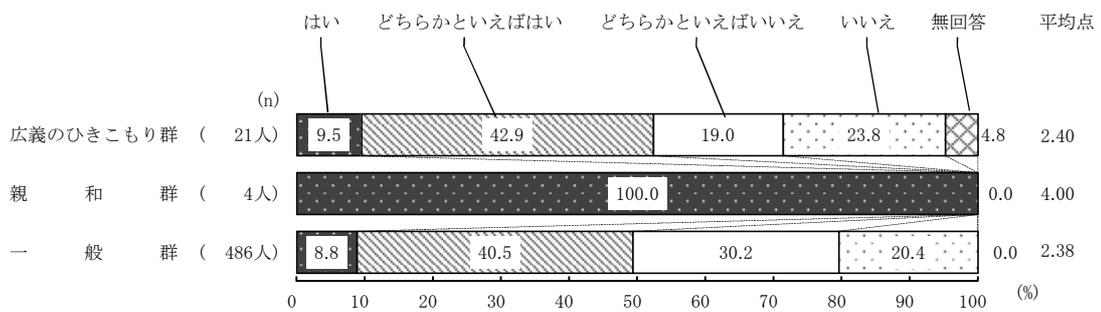
15歳～39歳



40歳～59歳



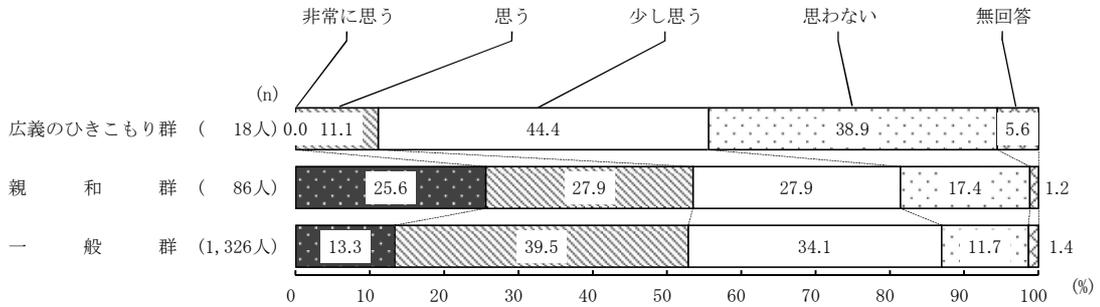
60歳～64歳



(9) 悩み事の相談に関すること

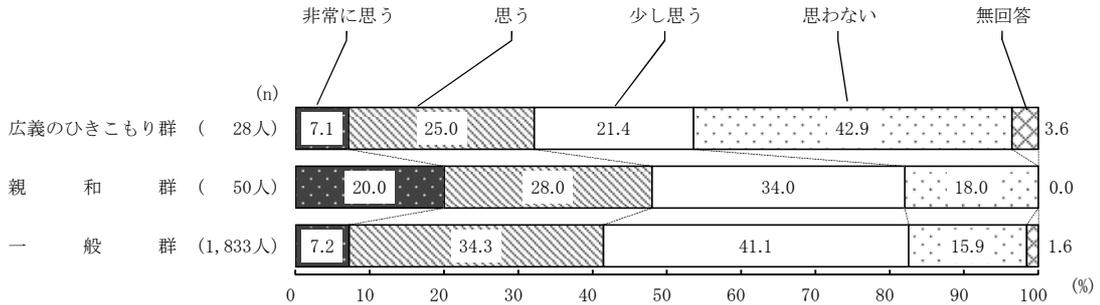
Q30 あなたはふだん悩み事を誰かに相談したいと思いますか。

15歳～39歳



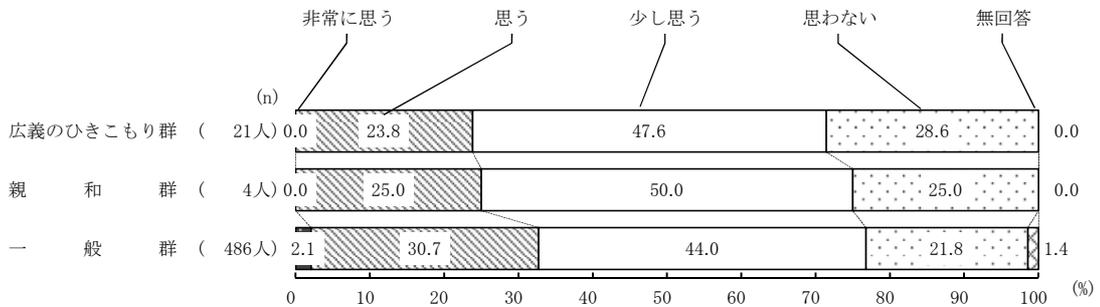
悩みを誰かに相談したいかどうかについて聞いたところ、『思う』（「非常に思う」＋「思う」＋「少し思う」）は、広義のひきこもり群が55.5%、親和群が81.4%、一般群は86.9%であり、広義のひきこもり群が最も少なかった。

40歳～59歳



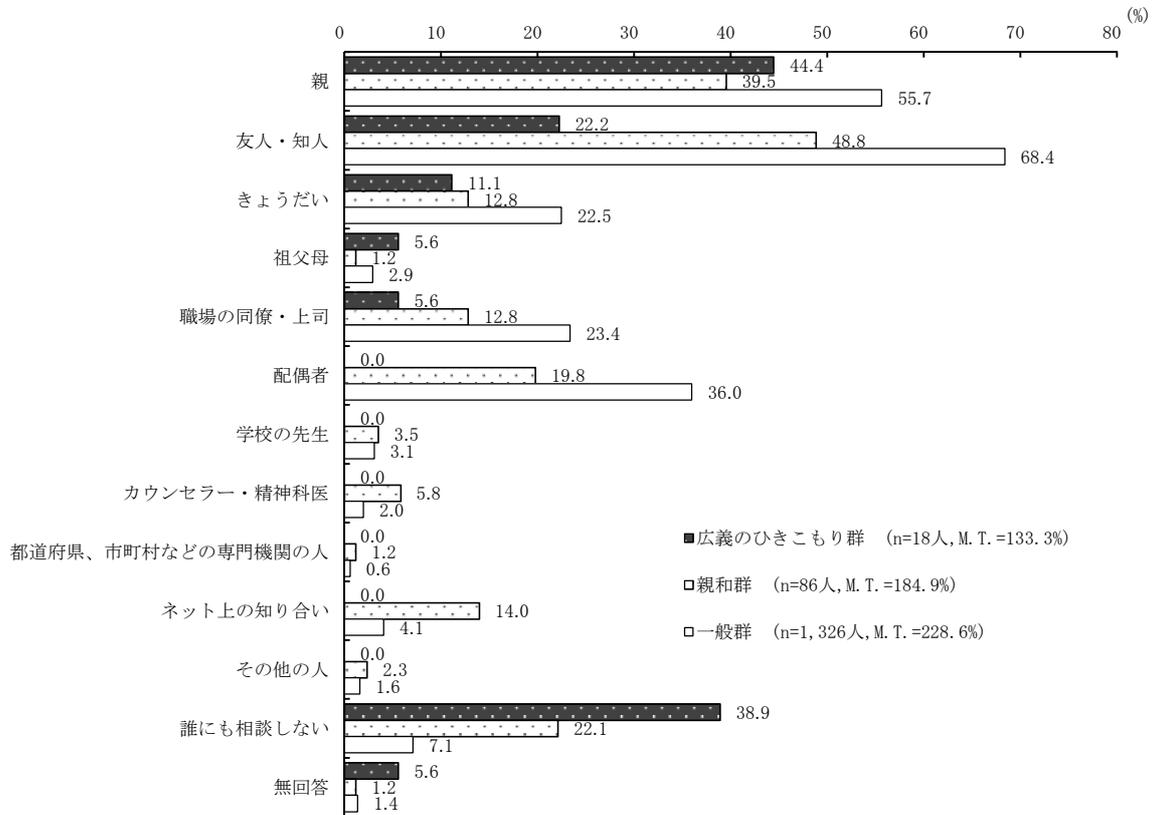
40歳～59歳で見ると、広義のひきこもり群では、「非常に思う」が7.1%、「思う」が25.0%で15歳～39歳の広義のひきこもり群に比べて多い傾向がみられた。

60歳～64歳



Q31 あなたはふだん悩み事を誰に相談しますか。(〇はいくつでも)

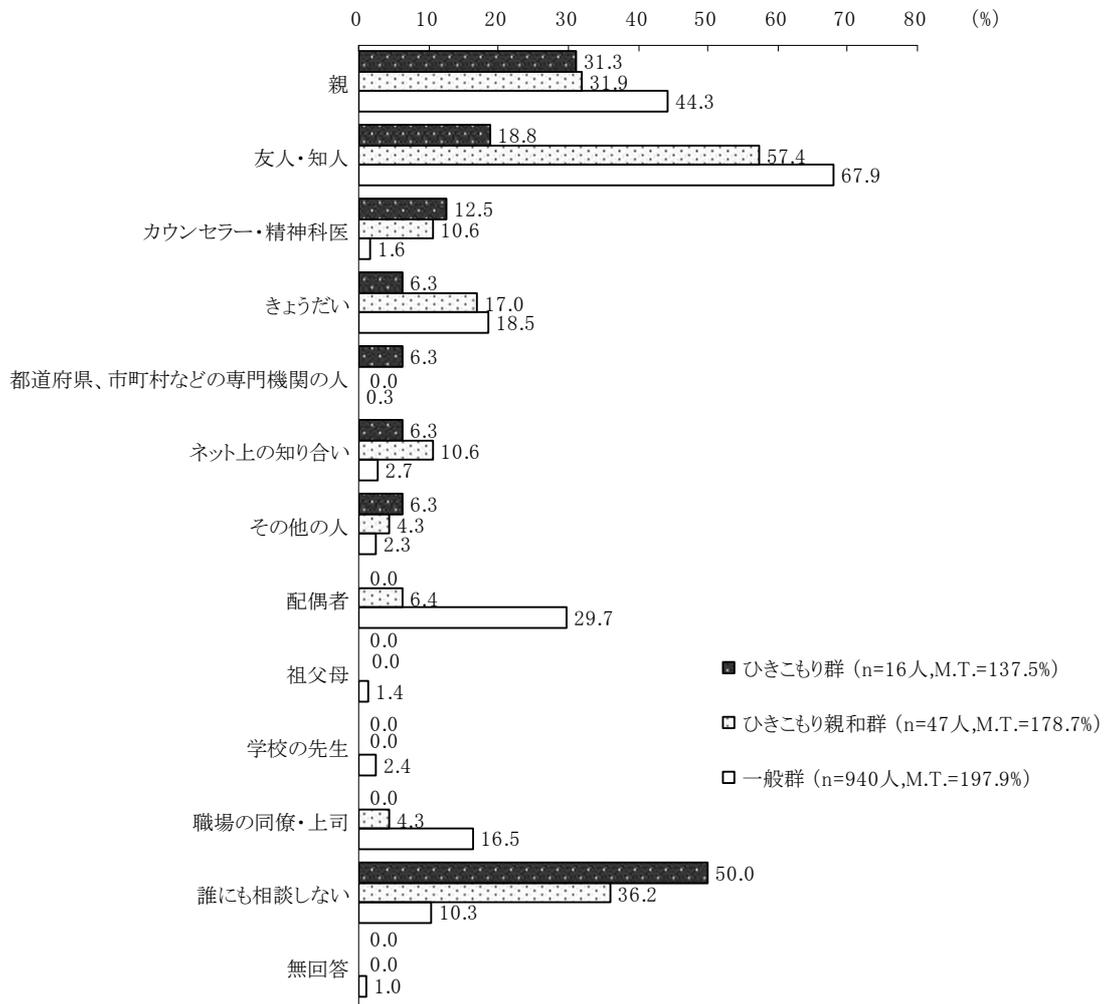
15歳～39歳



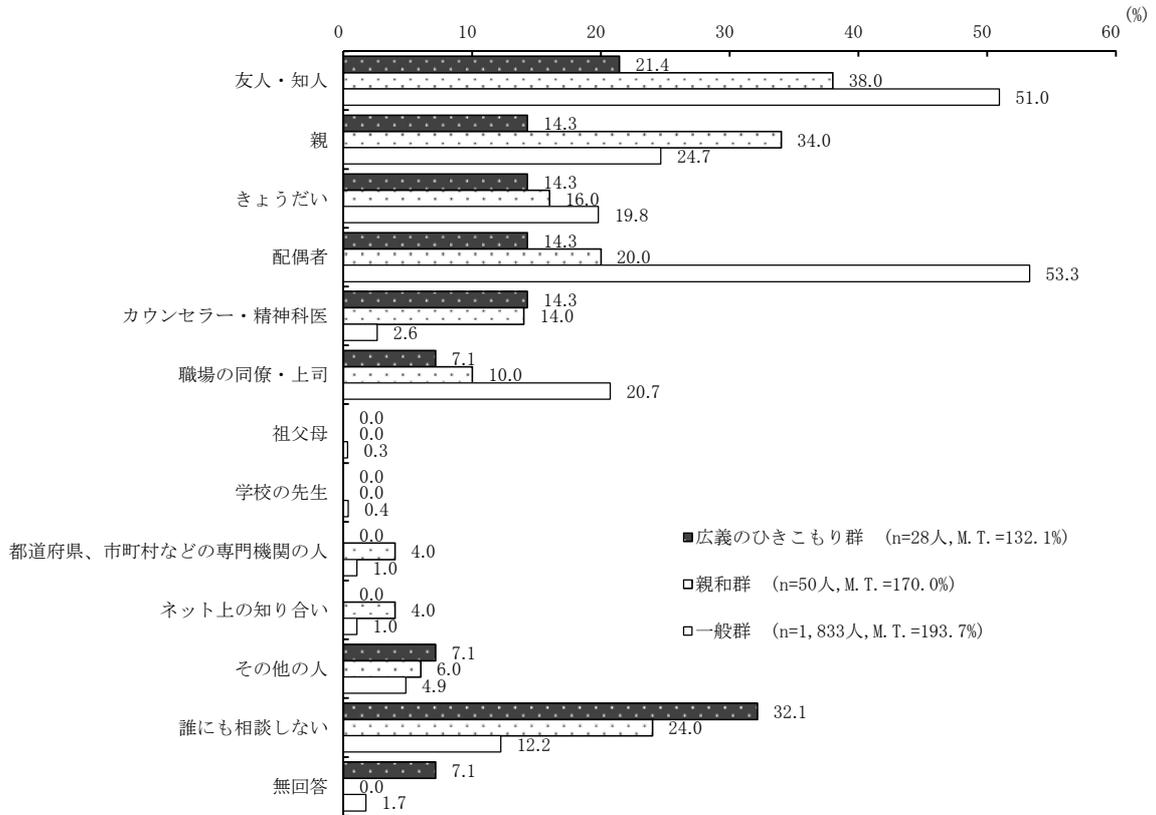
悩みを相談する相手については、広義のひきこもり群では「親」が44.4%で最も多く、ついで「誰にも相談しない」が38.9%であった。「誰にも相談しない」が38.9%で他の2群に比べて多く、「友人・知人」が22.2%、「職場の同僚・上司」が5.6%で他の2群に比べて少ない傾向がみられた。

親和群では、「友人・知人」が48.8%で最も多く、ついで「親」が39.5%であった。「ネット上の知り合い」が14.0%で他の2群に比べて多い傾向がみられた。

【前回調査】

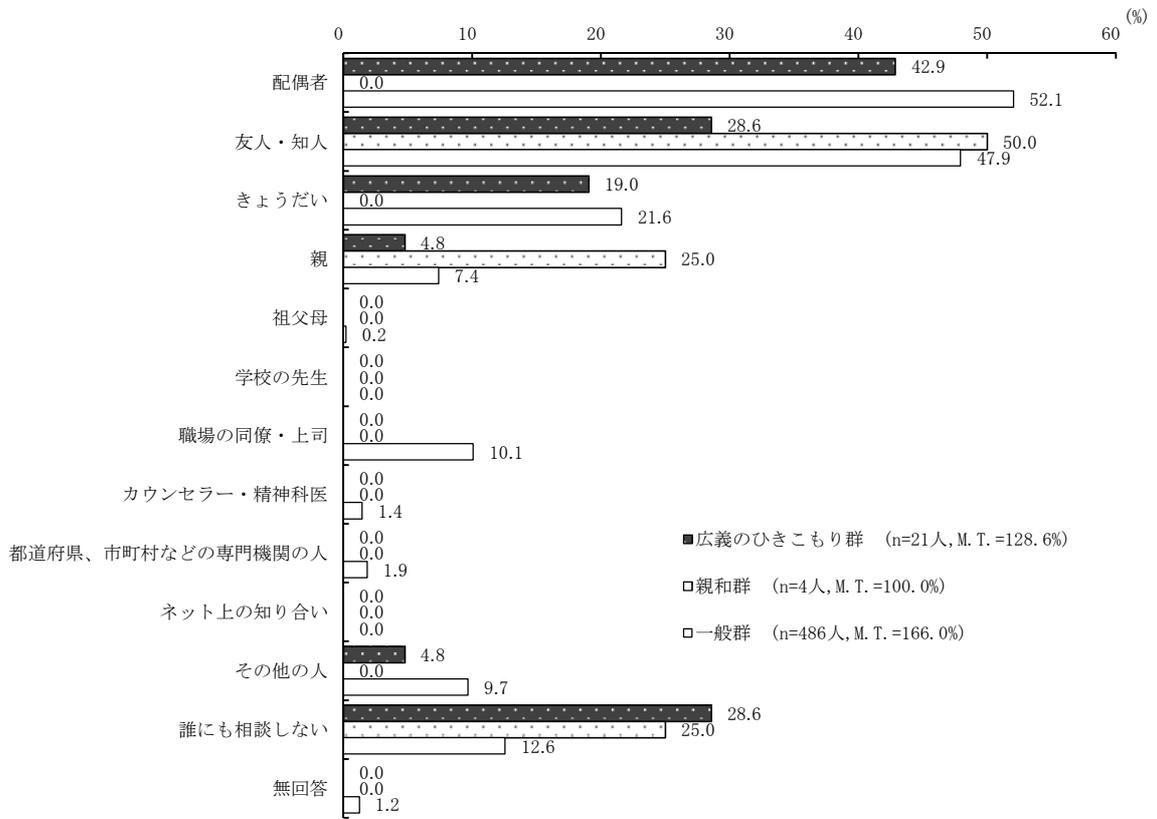


40歳～59歳



40歳～59歳でみると、広義のひきこもり群では、「カウンセラー・精神科医」が14.3%で一般群や15歳～39歳の広義のひきこもり群に比べて多く、「親」が14.3%で一般群や15歳～39歳の広義のひきこもり群に比べて少ない傾向がみられた。

60歳～64歳



II 当事者向けアンケート調査

1 調査の概要

(1) 調査目的

本調査は、ひきこもり状態にある本人及び家族の生活状況や、ひきこもりに関する相談機関等の利用状況等を把握し、より効果的な支援を行うための基礎資料とする。

(2) 調査対象

ひきこもりに関する集団型支援拠点「よりどころ」の利用者（本人及び家族）及び札幌市内のひきこもり支援団体（3団体）による支援を受けている、ひきこもり当事者又はその家族137人。

※家族が回答する場合は、一部、本人の立場で状況や考え等を記入

(3) 調査時期

平成30年9月3日～9月28日

(4) 調査方法

支援団体を通じた直接配布又は郵送配布・郵送回収

(5) 配布数内訳

○ひきこもりに関する集団型支援拠点「よりどころ」

当事者会・・・15人

親の会・・・19人

○札幌市ひきこもり地域支援センター・・・30人

○さっぽろ若者サポートステーション・・・40人

○特定非営利活動法人レター・ポスト・フレンド相談ネットワーク

SANGO（サンゴ）の会・・・20人

全国ひきこもりKHJ親の会家族会連合会北海道「はまなす」・・・13人

(6) 回収結果（率）

92人（67.2%）

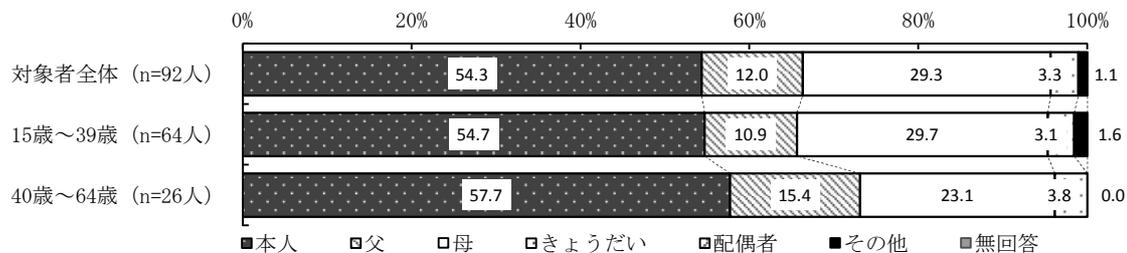
(7) 調査項目

- a. 当事者の基本的属性について（Q1～Q7）
- b. 当事者の学校生活・就労に関すること（Q8～Q10）
- c. ひきこもりの状態に関すること（Q11～Q15）
- d. 相談機関に関すること（Q16）
- e. ひきこもりの状態からの立ち直りに関すること（Q17～Q18）

2 調査の結果

(1) 当事者の基本的属性について

Q1 ひきこもり状態の方（過去にひきこもり状態だった方を含む）本人から見て、どなたがお答えになっていますか。

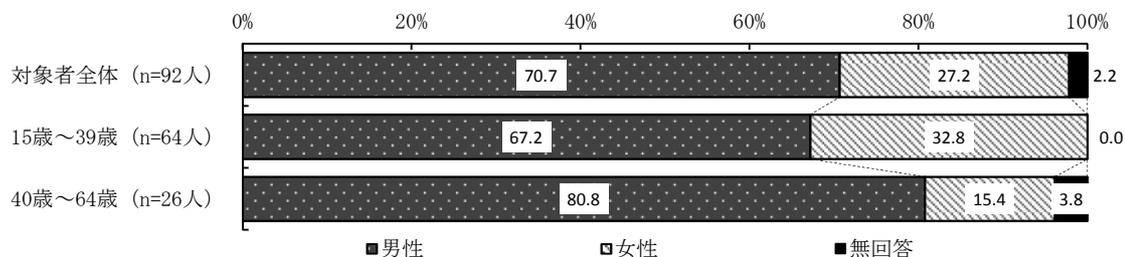


※対象者全体 (n=92人) には、年齢不明を含む。以下同じ。

回答者は、「本人」が54.3%、「父」が12.0%、「母」が29.3%であった。
年齢別による大きな違いはみられなかった。

※以降の設問の「あなた」は、ひきこもり状態の方（過去にひきこもり状態だった方）を表している。

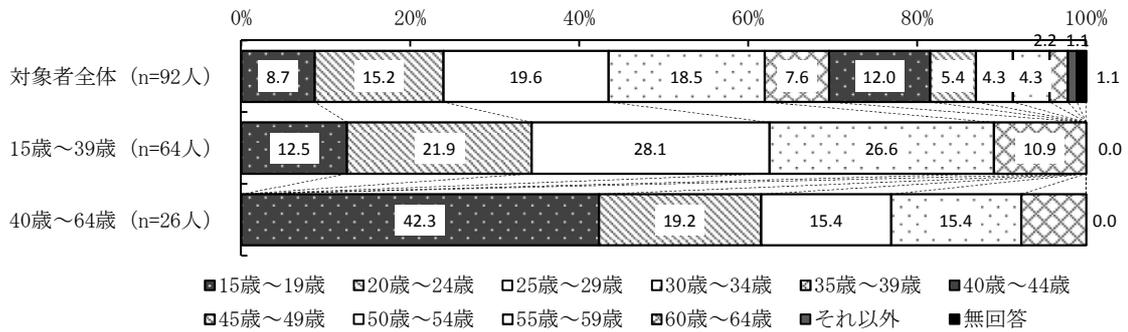
Q2 あなたの性別をお答えください。



ひきこもり状態の方、又は過去にひきこもり状態だった方（以下、「当事者」という。）の性別は、「男性」が70.7%、「女性」が27.2%であった。

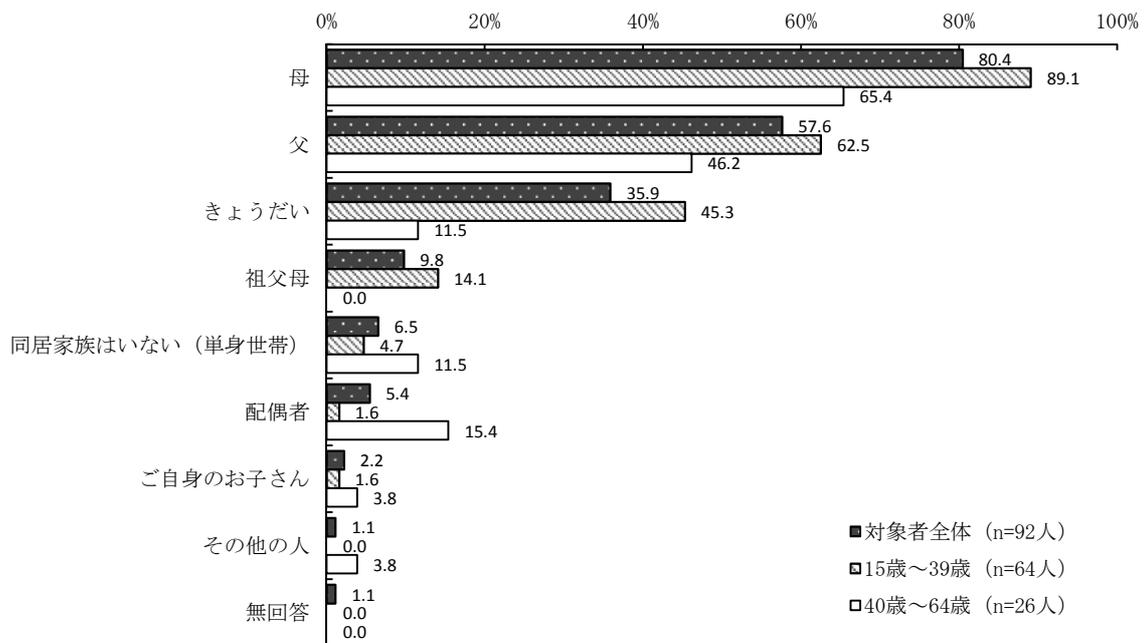
年齢別では、40歳～64歳は「男性」が80.8%であり、多い傾向がみられた。

Q 3 あなたの年齢をお答えください。



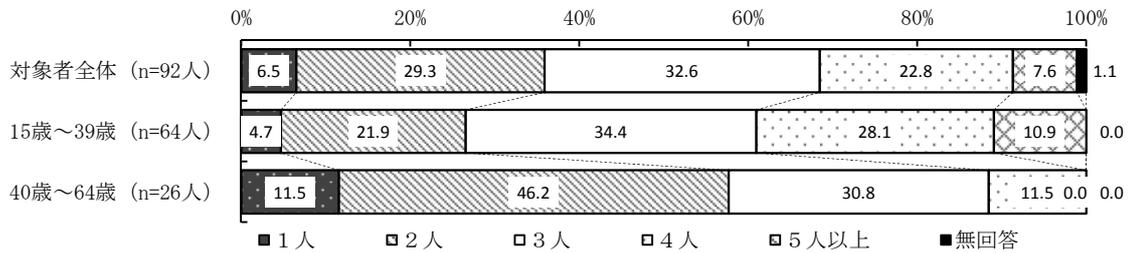
当事者の年齢は、「25歳～29歳」が19.6%で最も多く、ついで「30歳～34歳」が18.5%であった。20歳代が約3割であった。

Q 4 現在あなたと同居しているご家族に○をつけてください。（○はいくつでも）



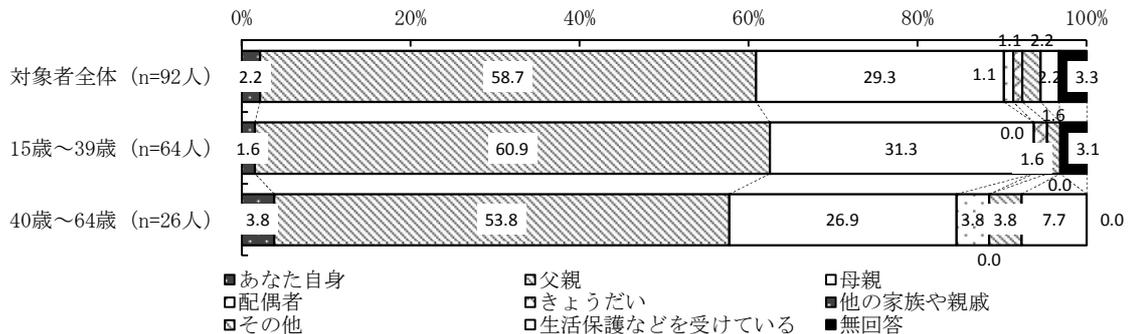
当事者の同居家族は、「母」が80.4%で最も多く、ついで「父」が57.6%であった。年齢別では、15歳～39歳は「兄弟」、「祖父母」が多く、40歳～64歳は「同居家族はいない (単身世帯)」、「配偶者」が多い傾向がみられた。

**Q 5 現在同居している人は合計で何人ですか。あなたも含めた人数を記入してください。
(数字で具体的に)**



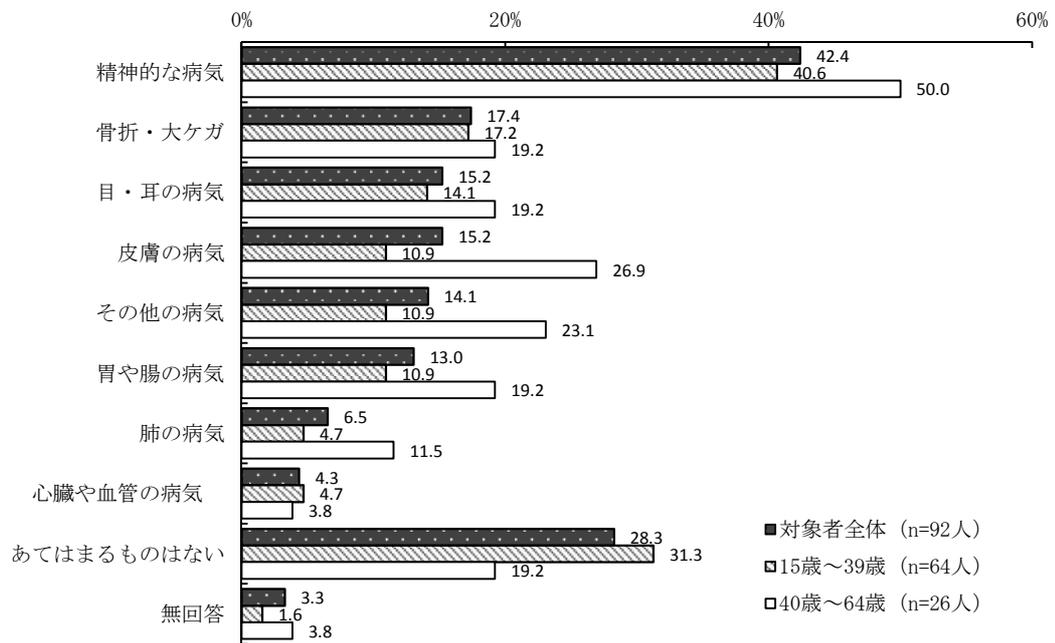
当事者の同居家族人数は、「3人」が32.6%で最も多く、ついで「2人」が29.3%であった。
年齢別では、15歳～39歳は「4人」、「5人以上」が多く、40歳～64歳は「1人」、「2人」が多い傾向がみられた。

Q 6 あなたの家の生計を立てているのは主にどなたですか。生計を立てている方が複数いる場合は、もっとも多く家計を負担している人をお答えください。また、主に仕送りで生計を立てている方は、その仕送りを主にしてくれている人をお答えください。



主な生計維持者は、「父親」が58.7%で最も多く、ついで「母親」が29.3%であった。
年齢別では、40歳～64歳は「生活保護などを受けている」が多い傾向がみられた。

Q 7 これまでに以下の病気やけがで通院や入院をしたことはありますか。通院・入院したことがある病気に○をつけてください。(○はいくつでも)

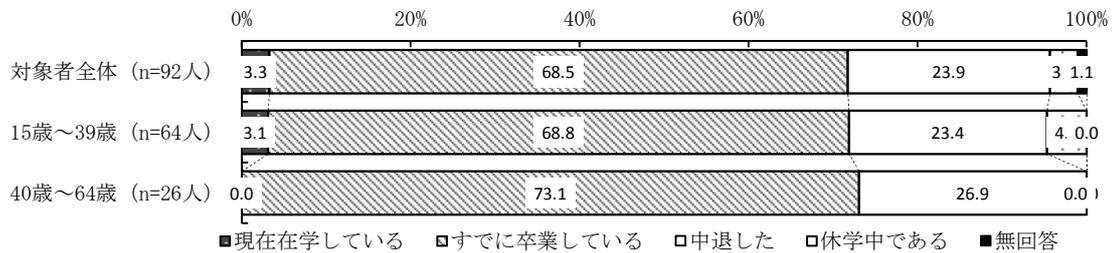


これまで通院・入院経験のある病気やけがについて聞いたところ、「精神的な病気」は42.4%、「あてはまるものはない」は28.3%であった。

年齢別では、40歳～64歳は「心臓や血管の病気」、「あてはまるものはない」を除く全ての項目で多い傾向がみられた。

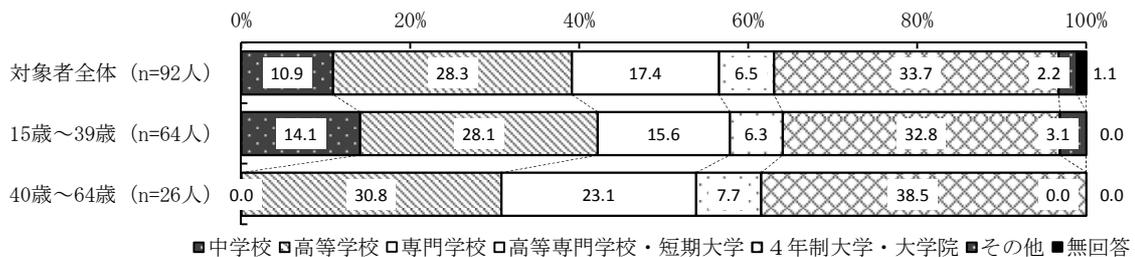
(2) 当事者の学校生活・就労に関すること

Q 8 あなたは現在学校に通っていますか。



現在の通学状況については、「現在在学している」が3.3%、「すでに卒業している」が68.5%、「中退した」は23.9%であった。

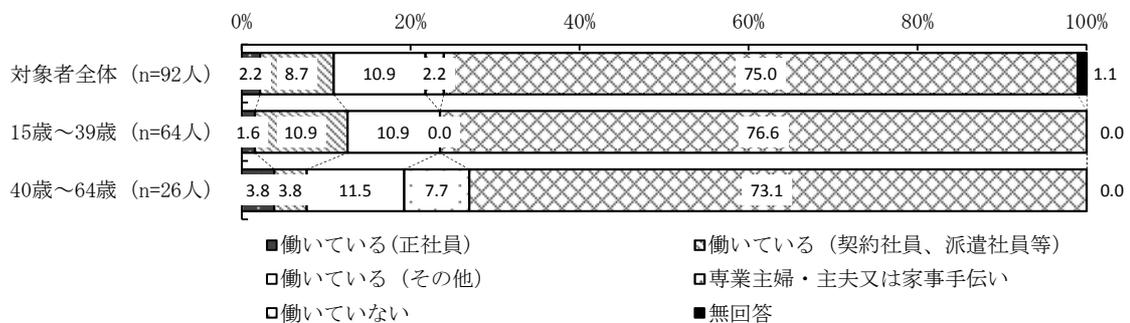
Q 9 あなたが最後に卒業（中退を含む）した、または現在在学している学校はどれですか。



最後に卒業、または現在在学している学校は、「中学校」が10.9%、「高等学校」が28.3%、「4年生大学・大学院」は33.7%であった。

年齢別では、15歳～39歳は「中学校」が多く、40歳～64歳は「高等専門学校・短期大学」が多い傾向がみられた。

Q10 あなたは現在働いていますか。

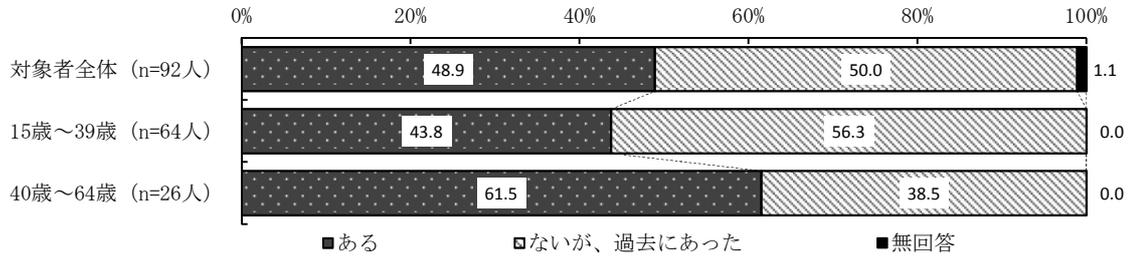


現在の就業状況については、『働いている』（正社員＋契約社員、派遣社員等＋その他）が21.8%、「働いていない」は75.0%であった。

年齢別では、40歳～64歳は「働いている（契約社員、派遣社員等）」が少なく、「専業主婦・主夫又は家事手伝い」が多い傾向がみられた。

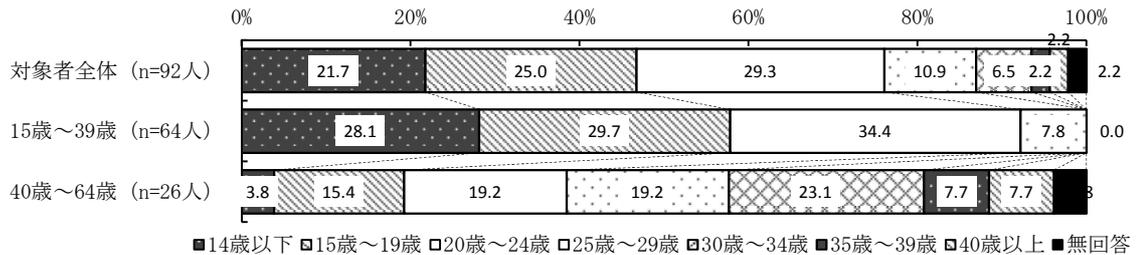
(3) ひきこもりの状態に関すること

Q11 あなたは現在、ひきこもり状態にありますか。



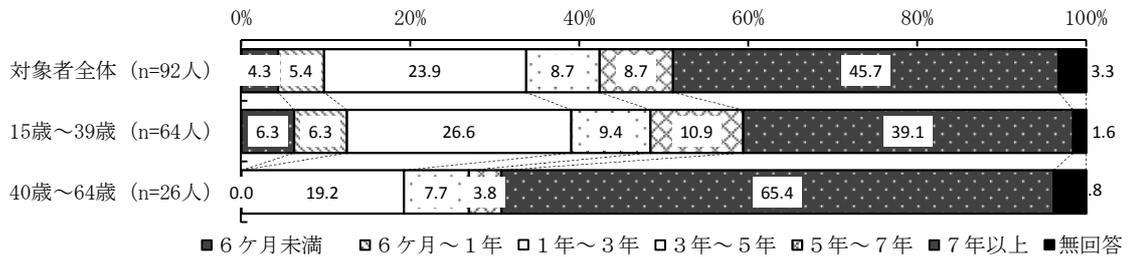
現在のひきこもり状況については、「ある」が48.9%であった。
年齢別では、「ある」が15歳～39歳で43.8%、40歳～64歳で61.5%であった。

Q12 ひきこもり状態になったのは、あなたが何歳の頃ですか。（過去にひきこもり状態だった方は、その状態になったのはあなたが何歳の頃でしたか。）（数字で具体的に）



ひきこもり状況となった年齢は、「20歳～24歳」が29.3%で最も多く、ついで「15歳～19歳」が25.0%であった。
年齢別では、40歳～64歳は「30歳～34歳」が23.1%で最も多く、ついで「20歳～24歳」及び「25歳～30歳」がともに19.2%であった

Q13 ひきこもり状態はどのくらい続いていますか。(過去にひきこもり状態だった方は、その状態はどのくらい続きましたか。)

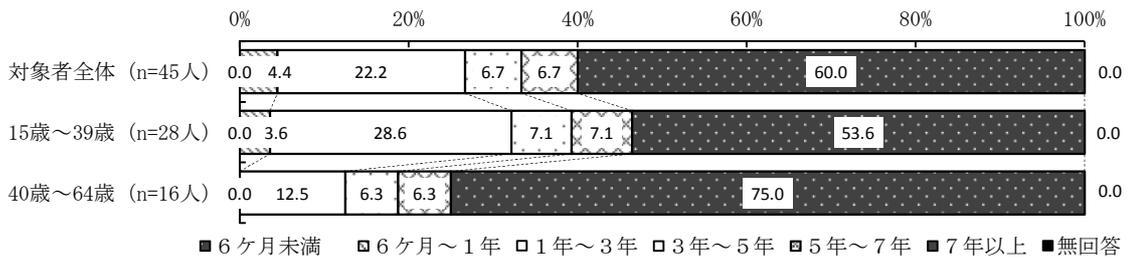


ひきこもり状況の期間は、「7年以上」が45.7%で最も多く、ついで「1年～3年」が23.9%であった。

「7年以上」の回答者の具体的な年数をみると、15歳～39歳で15年以上、40～64歳で20年以上と回答している回答者が一定数いた。

年齢別では、15歳～39歳は1年未満が約1割いる一方で、40歳～64歳は全て1年以上であり、「7年以上」が65.4%であった。

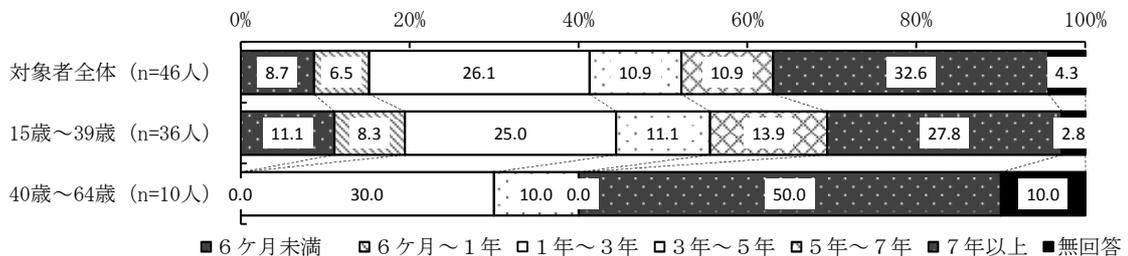
Q13【再集計】 Q11で現在のひきこもり状況について「ある」の回答者



Q11で、現在のひきこもり状況について「ある」の回答者でみると、「7年以上」が60.0%で最も多かった。また、「6ヶ月未満」の回答は無かった。

年齢別では、40歳～64歳は「7年以上」が75.0%であった。

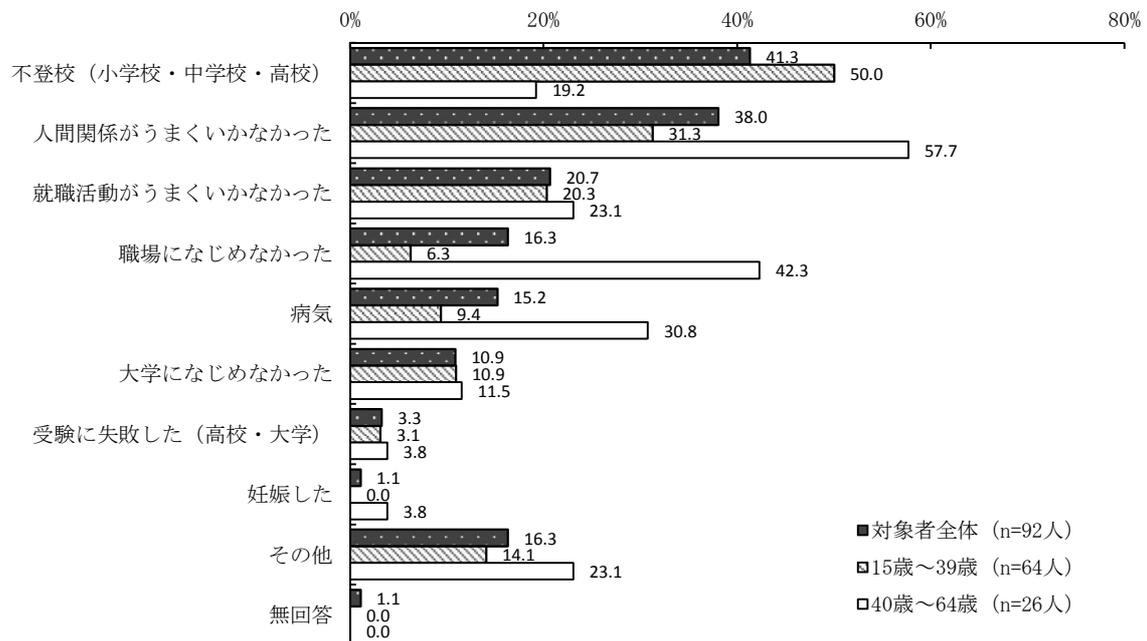
Q13【再集計】 Q11で現在のひきこもり状況について「ないが、過去にあった」の回答者



Q11で、現在のひきこもり状況について「ないが、過去にあった」の回答者でみると、「7年以上」が32.6%で最も多かった。

年齢別では、15歳～39歳は1年未満が約2割であった。

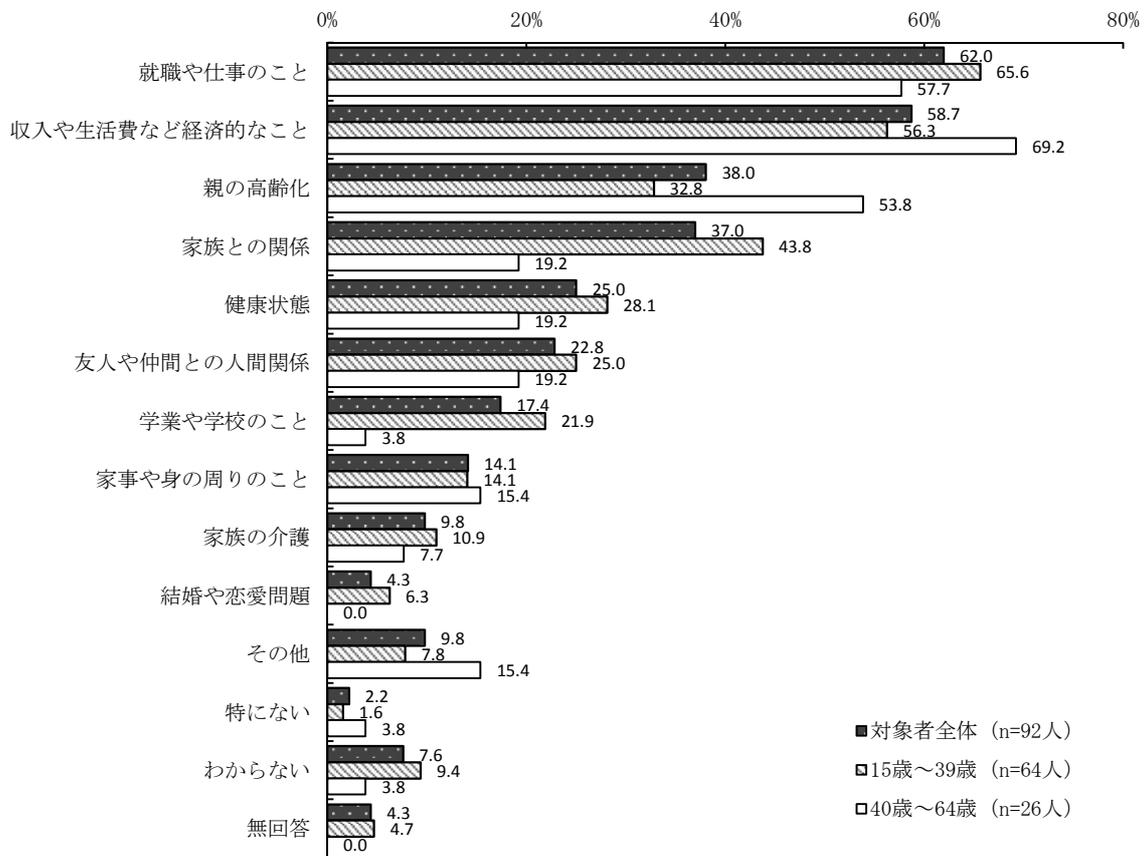
Q14 ひきこもり状態になったきっかけは何ですか。(過去にひきこもり状態だった方は、その状態になったきっかけは何でしたか。)(〇はいくつでも)



ひきこもり状況になったきっかけについては、「不登校 (小学校・中学校・高校)」が41.3%で最も多く、ついで「人間関係がうまくいかなかった」が38.0%であった。

年齢別では、15歳～39歳は「不登校 (小学校・中学校・高校)」が50.0%で最も多く、40歳～64歳は「人間関係がうまくいかなかった」が57.7%で最も多かった。

Q15 現在あなたが抱えている不安や危機感として、どのようなものがありますか。（過去にひきこもり状態だった方は、ひきこもっているときに抱えていた不安や危機感としてどのようなものがありましたか。）（〇はいくつでも）

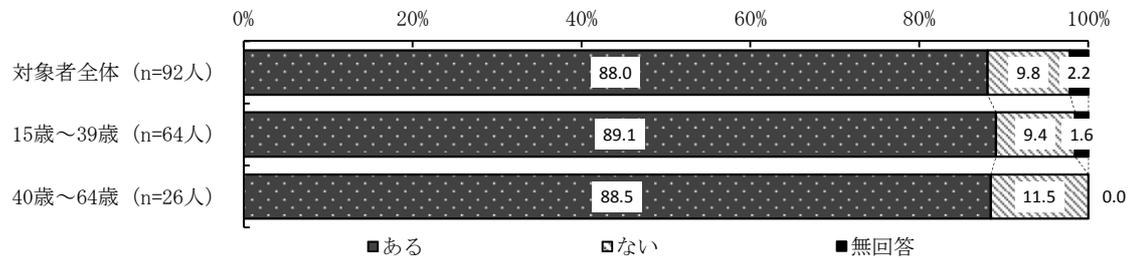


ひきこもり状態時に抱えている不安や危機感については、「就職や仕事のこと」が62.0%で最も多く、ついで「収入や生活費など経済的なこと」が58.7%であった。「特にない」は2.2%であった。

年齢別では、15歳～39歳は「就職や仕事のこと」が65.6%で最も多く、40歳～64歳は「収入や生活費など経済的なこと」が69.2%で最も多かった。

(4) 相談機関に関すること

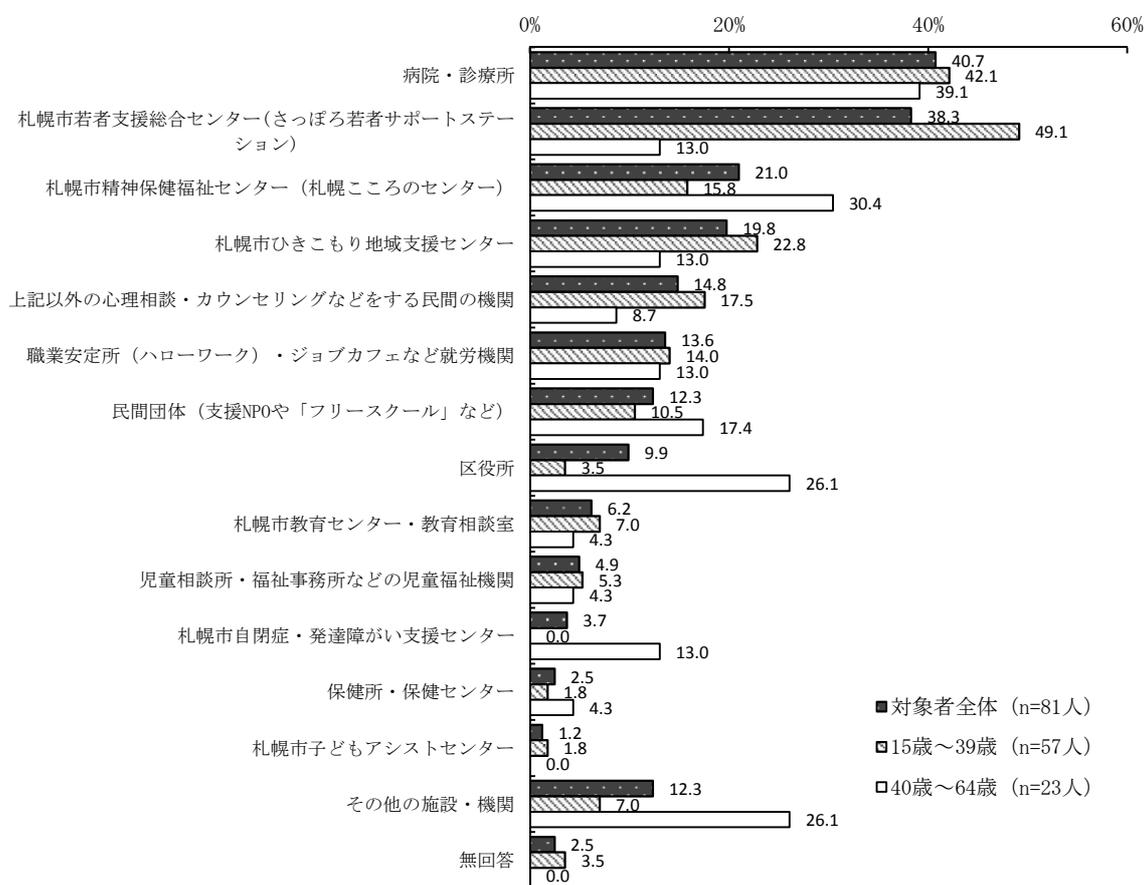
Q16 現在の状況について、関係機関に相談したことはありますか。(過去にひきこもり状態だった方は、当時の状況について、関係機関に相談したことはありましたか。)



ひきこもり状況時における関係機関への相談有無は、「ある」が88.0%、「ない」は9.8%であった。

※Q16_1は、Q16で「ある」の回答者のみ回答

Q16_1 どのような関係機関に相談しましたか。相談したことがある機関に○をつけてください。（○はいくつでも）

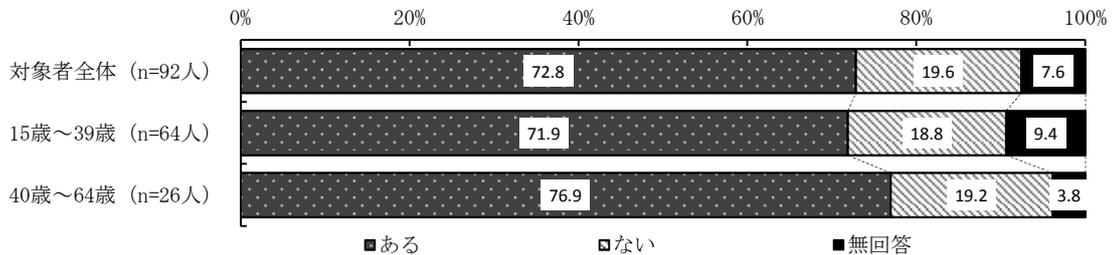


相談したことがある関係機関は、「病院・診療所」が40.7%で最も多く、ついで「札幌市若者支援総合センター(さっぽろ若者サポートステーション)」が38.3%であった。

年齢別では、15歳～39歳は「札幌市若者支援総合センター(さっぽろ若者サポートステーション)」が49.1%で最も多く、40歳～64歳は「病院・診療所」が39.1%で最も多かった。

(5) ひきこもりの状態からの立ち直りに関すること

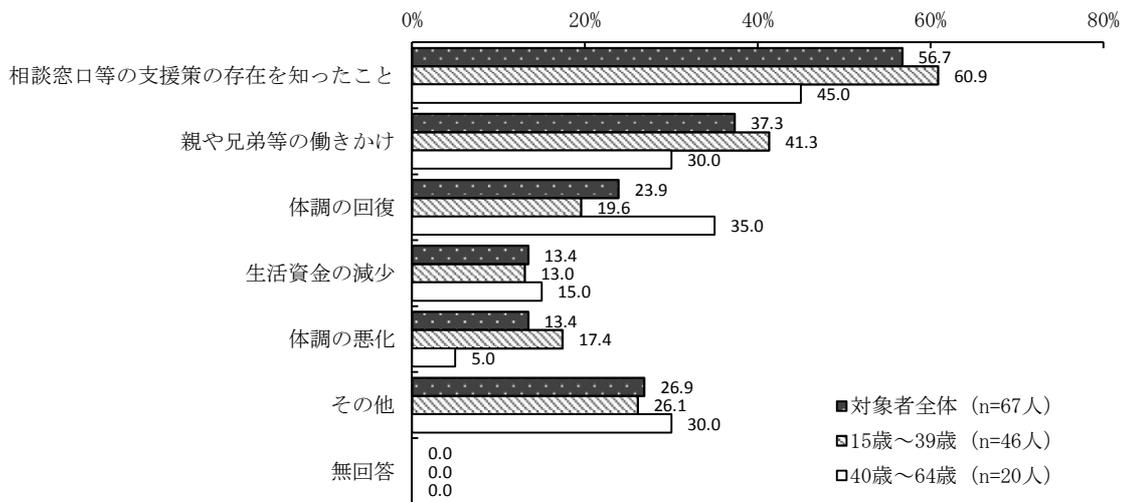
Q17 ひきこもり状態を変えるために何か行っていることはありますか。(過去にひきこもり状態だった方は、その状態を変えるために何か行っていたことはありましたか。)



ひきこもり状態等を変えるために行っていることについては、「ある」が72.8%、「ない」は19.6%であった。

※Q17_1～Q17_2は、Q17で「ある」の回答者のみ回答

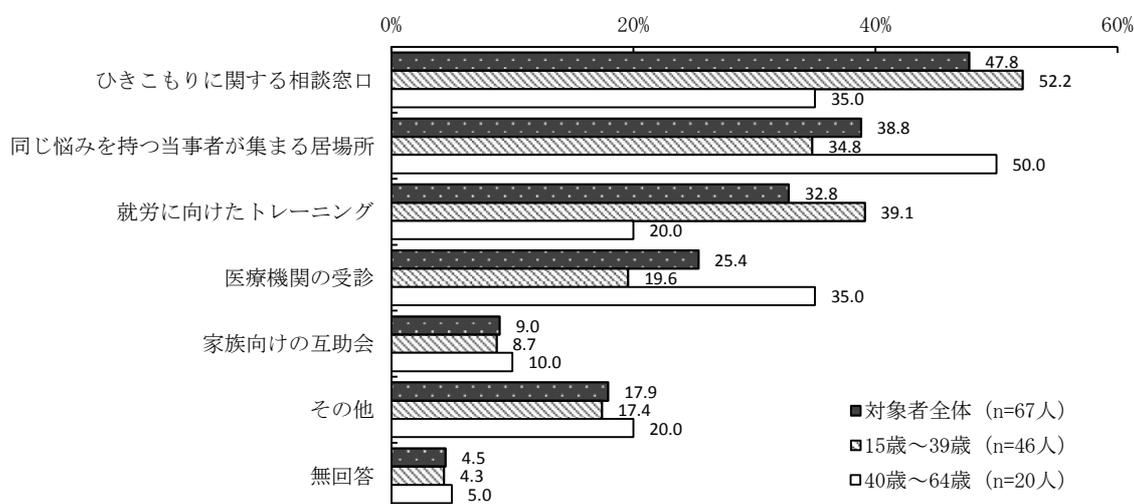
Q17_1 その行動を起こしたきっかけはなんですか。(〇はいくつでも)



ひきこもり状態等を変えるための行動を起こしたきっかけは、「相談窓口等の支援策の存在を知ったこと」が56.7%で最も多く、ついで「親や兄弟等の働きかけ」が37.3%であった。

年齢別では、15歳～39歳、40歳～64歳ともに「相談窓口等の支援策の存在を知ったこと」が最も多かったが、40歳～64歳は15歳～39歳に比べて「体調の回復」が多い傾向がみられた。

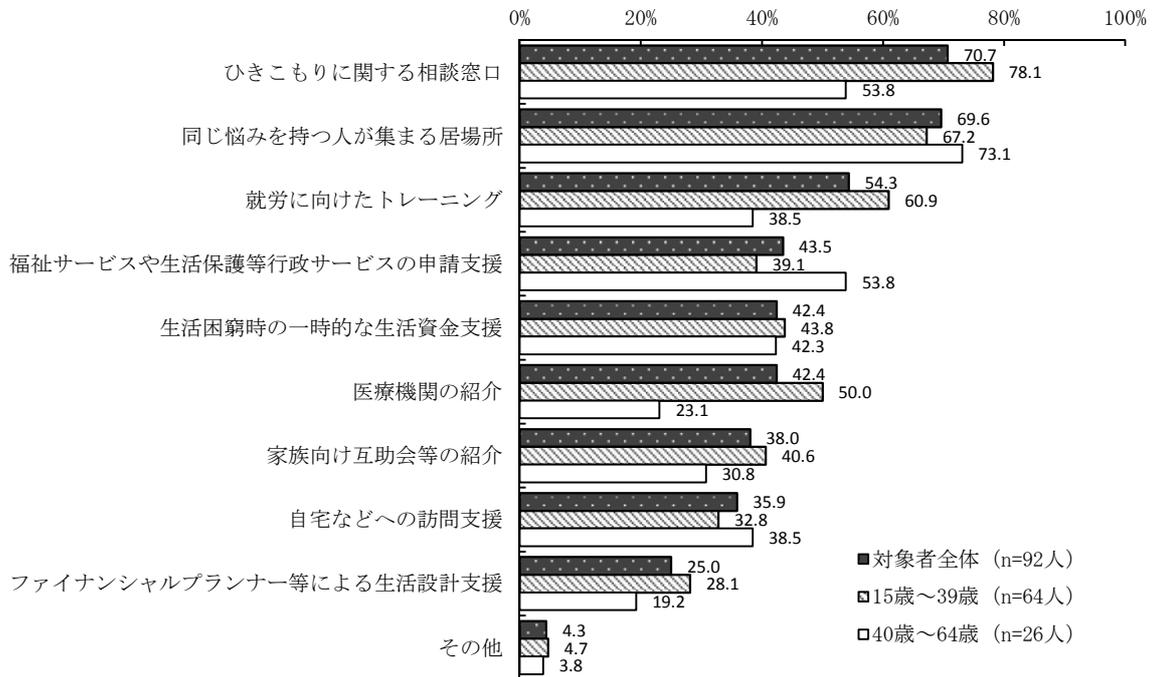
Q17_2 ひきこもり状態を変えるために役立っていることはありますか。（過去にひきこもり状態だった方は、その状態を変えるために役立つことはありましたか。）
（〇はいくつでも）



ひきこもり状態等を変えるために役立っていることは、「ひきこもりに関する相談窓口」が47.8%で最も多く、ついで「同じ悩みを持つ当事者が集まる居場所」が38.8%であった。

年齢別では、15歳～39歳は、「ひきこもりに関する相談窓口」や「就労に向けたトレーニング」に多い傾向がみられ、40歳～59歳は「同じ悩みを持つ当事者が集まる居場所」や「医療機関の受診」に多い傾向がみられた。

Q18 ひきこもりで悩む方々に対して、どのような支援等があると良いと思いますか。
(〇はいくつでも)



ひきこもりで悩む方々に対する支援等については、「ひきこもりに関する相談窓口」が70.7%で最も多く、ついで「同じ悩みを持つ人が集まる居場所」が69.6%であった。

年齢別では、15歳～39歳は、「ひきこもりに関する相談窓口」が78.1%、「就労に向けたトレーニング」が60.9%で多い傾向がみられ、40歳～64歳は「福祉サービスや生活保護等行政サービスの申請支援」が53.8%で多い傾向がみられた。

III 民生委員・児童委員向けアンケート調査

1 調査の概要

(1) 調査の目的

本調査は、市内で活躍されている民生委員・児童委員を対象に、担当する地区において現在把握されている「ひきこもり」に該当する方の情報を調査し、札幌市における特徴的な傾向を把握することで、より効果的な支援を行うための基礎資料とする。

(2) 調査対象

年齢がおおむね15歳から64歳までの方で次のいずれかに該当する方を「ひきこもり等の状態にある方」とした。

- ① 社会参加（仕事・学校・家庭以外の人との交流など）ができない状態が6ヶ月以上続いていて、自宅に引きこもっている状態の方
- ② 社会参加ができない状態であるが、時々買い物や自分の趣味のために外出することもある方

※ただし、重度の障害や疾病のため外出できない方を除く。

(3) 調査時期

平成30年7月17日～8月31日

(4) 調査方法

市内の担当地区を持つ民生委員、児童委員2,640人に対するアンケート調査

(5) 回収結果（率）

1,682人（63.7%）

(6) 調査項目

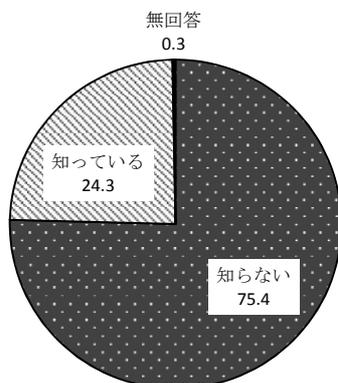
- a. ひきこもり等の状態該当者について（問1～問3）
- b. ひきこもり等の方への支援策（問4）
- c. 自由意見（問5）

2 調査の結果

(1) ひきこもり等の状態該当者について

a. 該当者の有無

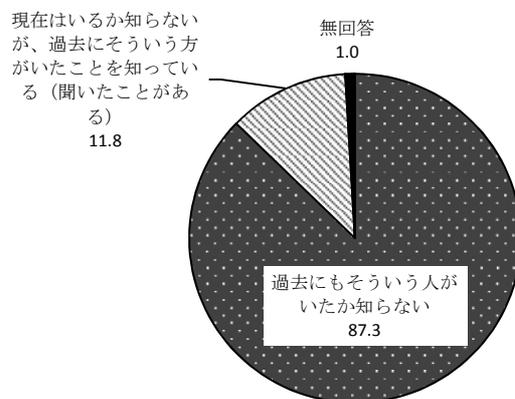
①現在の該当者



n=1,668人

回答者が担当している地域内で、現在、ひきこもり等の状態にある方を知っているかについては、「知っている」が24.3%、「知らない」が75.4%であった。

②過去の該当者（※「①現在の該当者」で「知らない」に回答した者のみ回答）

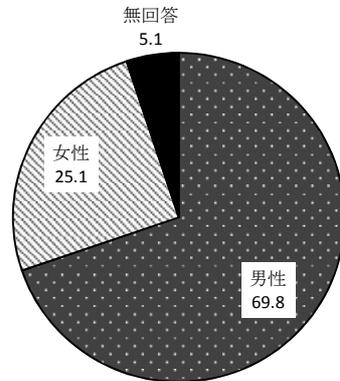


n=1,258人

回答者が担当している地域内で、過去、ひきこもり等の状態にある方を知っているかについては、「現在はいるか知らないが、過去にそういう方がいたことを知っている（聞いたことがある）」が11.8%、「過去にもそういう人がいたか知らない」が87.3%であった。

※「b. 該当者の性別」～「h. 支援の状況」の「n」は該当者数を示す。
 ※本調査で把握できた該当者の総数は、569人であった。

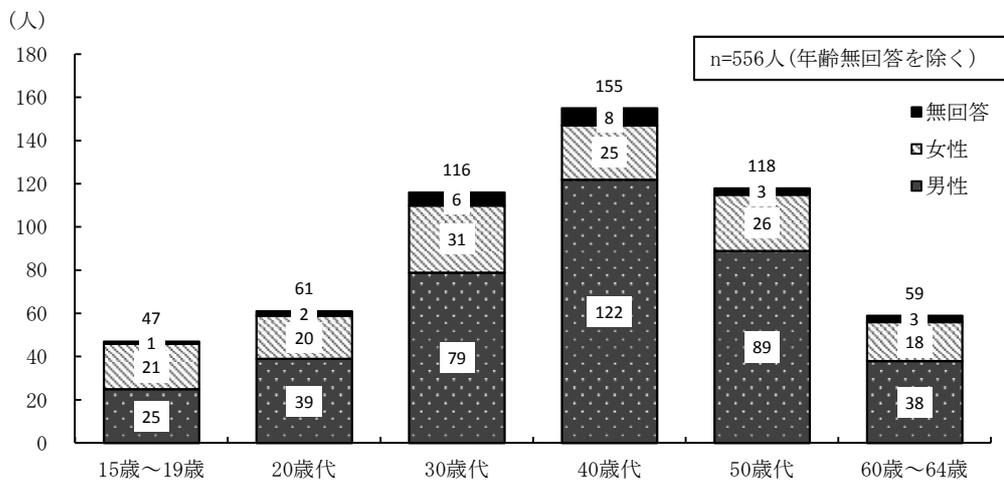
b. 該当者の性別



n=569人

該当者の性別は、「男性」が69.8%、「女性」が25.1%であった。

c. 該当者の年代別性別状況

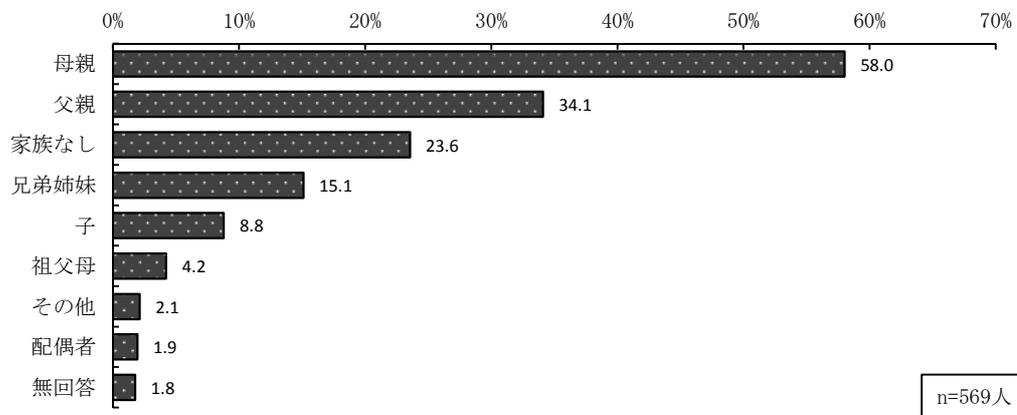


年代別の該当者数は、40歳代が155人(27.9%)で最も多く、以下、50歳代が118人(21.2%)、30歳代が116人(20.9%)であった。

また、15歳～39歳は224人(40.3%)、40歳～64歳は332人(59.7%)であった。
 年代別性別状況をみると、各年代とも男性が女性を上回っている。

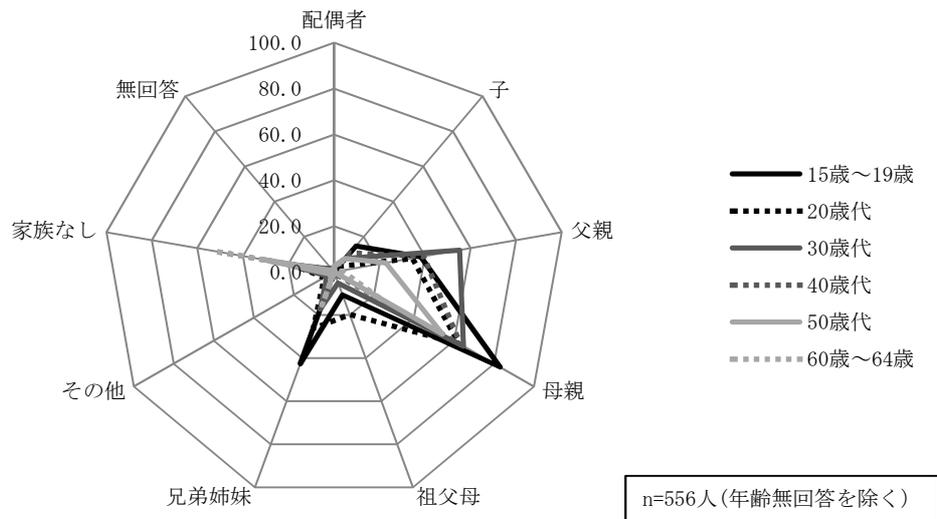
d. 家族構成（複数回答）

①全体



該当者の同居家族は、「母親」が58.0%で最も多く、ついで「父親」が34.1%であった。また「家族なし」は23.6%であった。

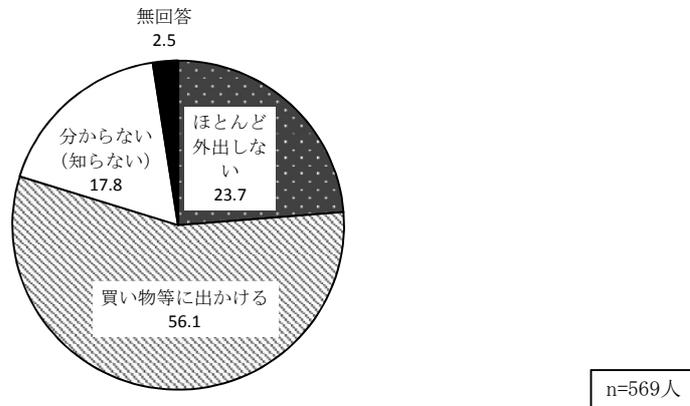
②年代別



年代別では、各年代ともに「母親」が多い傾向がみられているが、60歳～64歳では「家族なし」も多い傾向がみられた。

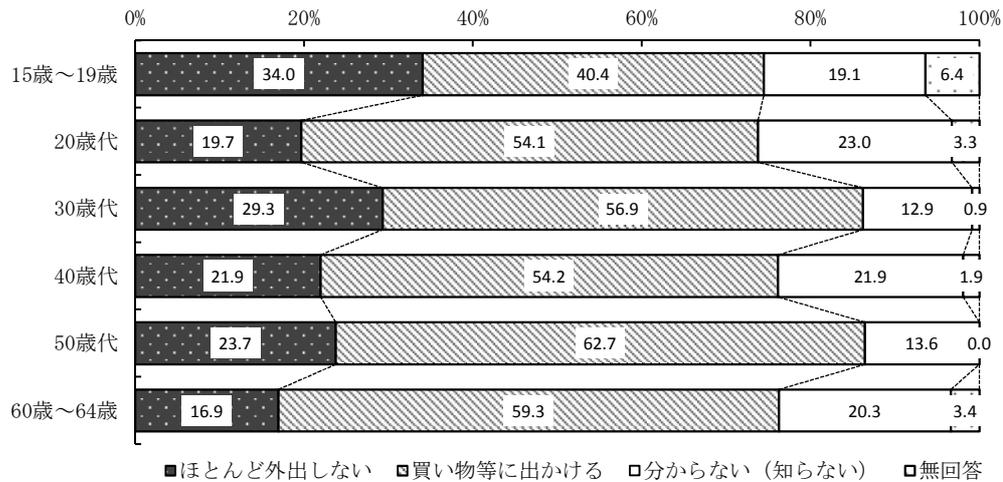
e. 該当者の状況

①全体



該当者の外出状況は、「ほとんど外出しない」が23.7%、「買い物等に出かける」が56.1%であった。

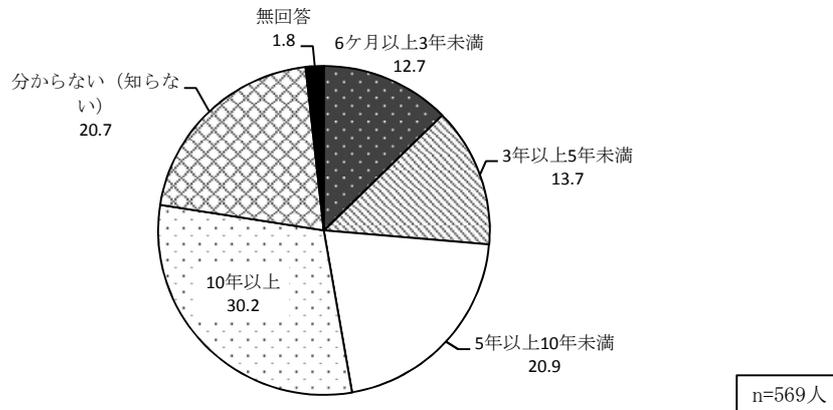
②年代別



年代別では、「ほとんど外出しない」は15～19歳で34.0%と多い傾向がみられ、「買い物等に出かける」は50歳代で62.7%と多い傾向がみられた。

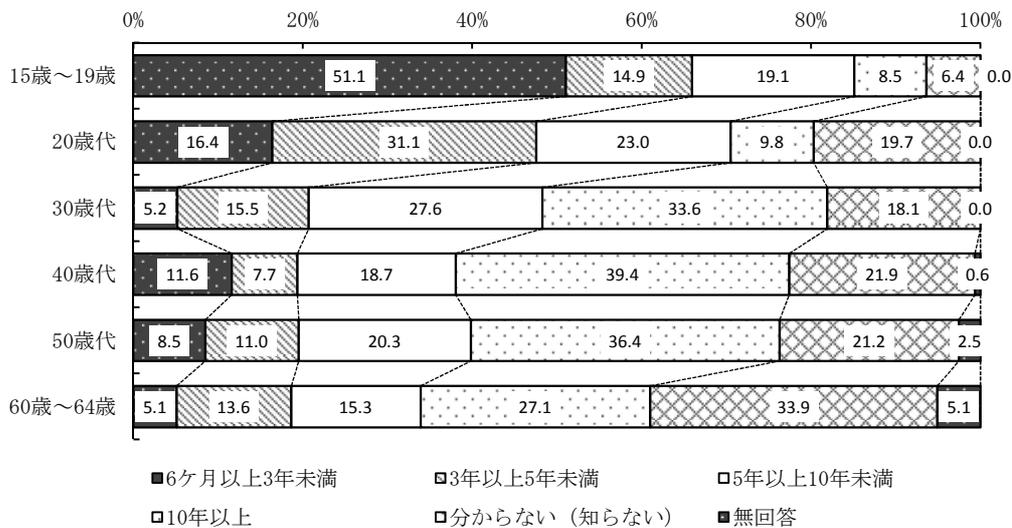
f. ひきこもり等の状態にある期間

①全体



該当者のひきこもりの状態にある期間は、「10年以上」が30.2%で最も多く、ついで「5年以上10年未満」が20.9%であり、5年以上が半数を占めた。

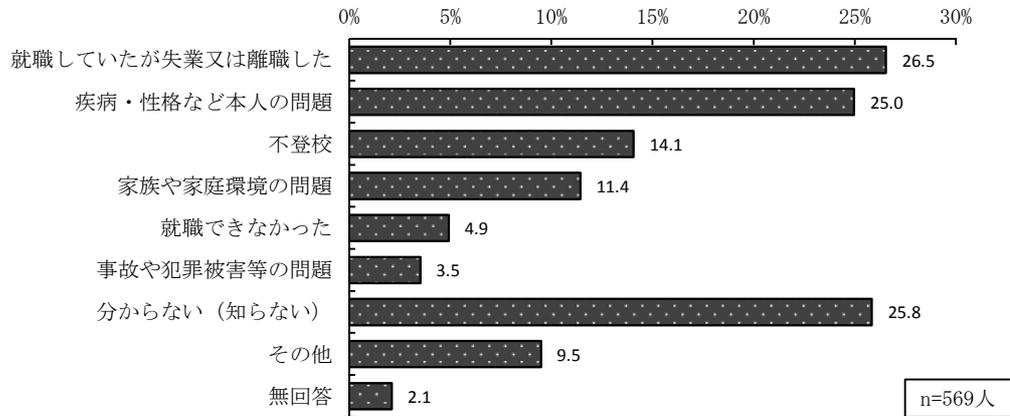
②年代別



年代別では、15歳～19歳は「6ヶ月以上3年未満」、20歳代は「3年以上5年未満」、30歳代以上は「10年以上」がそれぞれ最も多かった。

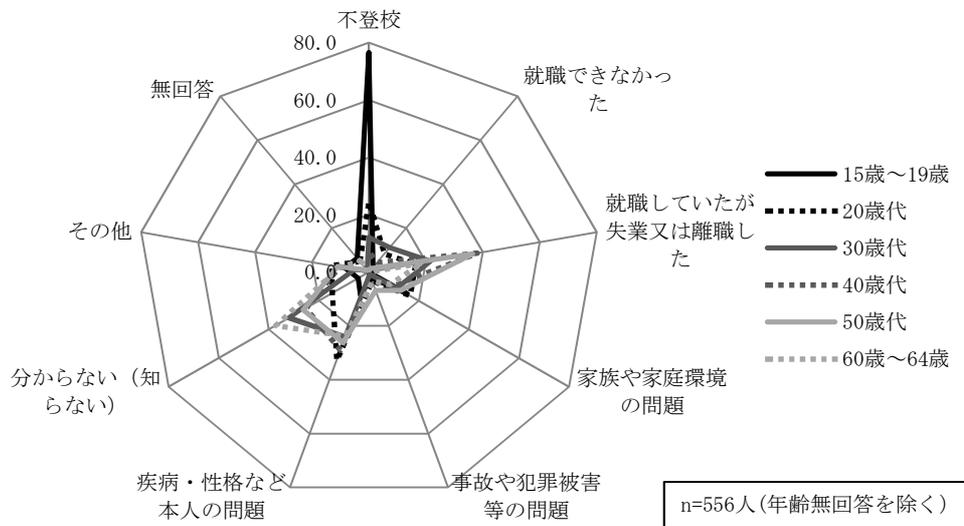
g. ひきこもり等に至った経緯（複数回答）

①全体



ひきこもり等に至った経緯は、「就職していたが失業又は離職した」が26.5%で最も多く、ついで「疫病・性格など本人の問題」が25.0%であった。

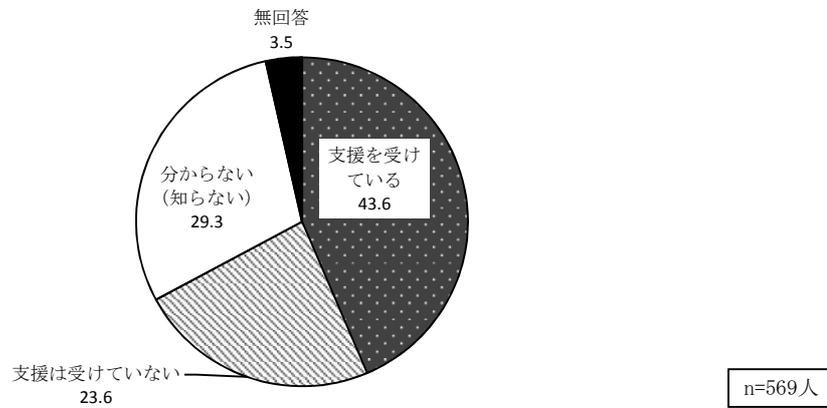
②年代別



年代別では、15歳～19歳では「不登校」が最も多く、それ以外の年代では、「就職していたが失業又は離職した」及び「疫病・性格など本人の問題」に多い傾向がみられた。

h. 支援の状況（複数回答）

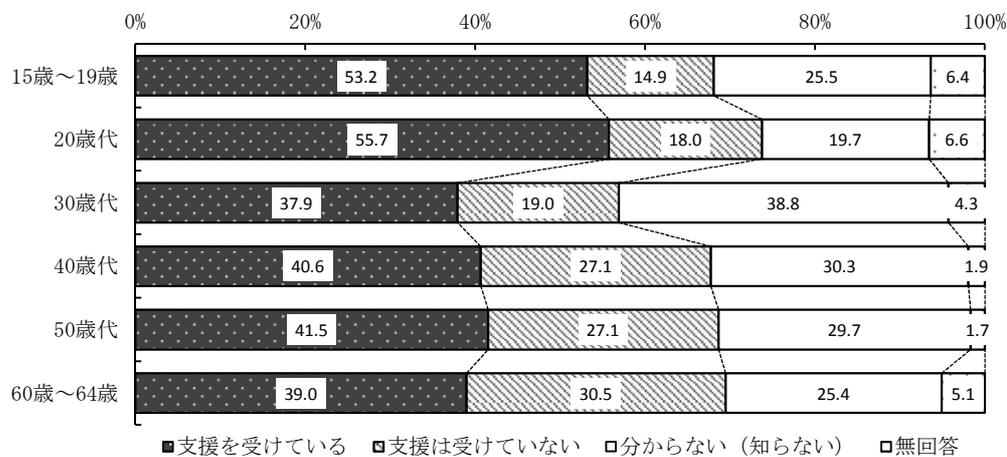
①全体



該当者への支援状況については、「支援を受けている※」が43.6%、「支援は受けていない」は23.6%であった。

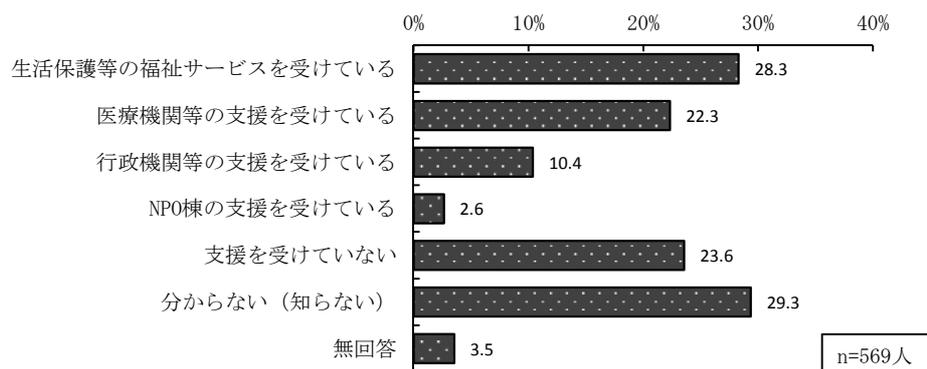
※「生活保護等の福祉サービスを受けている」、「医療機関等の支援を受けている（通院しているなど）」、「行政機関等の支援を受けている（保健所や市役所へ相談しているなど）」もしくは「NPO等の支援を受けている（NPOが主催するイベント等に参加しているなど）」のいずれか、もしくは複数に回答

②年代別



年代別では、15歳～19歳及び20歳代では「支援を受けている」が5割を超えている一方で、30歳代以上は「支援を受けている」が4割前後であった。

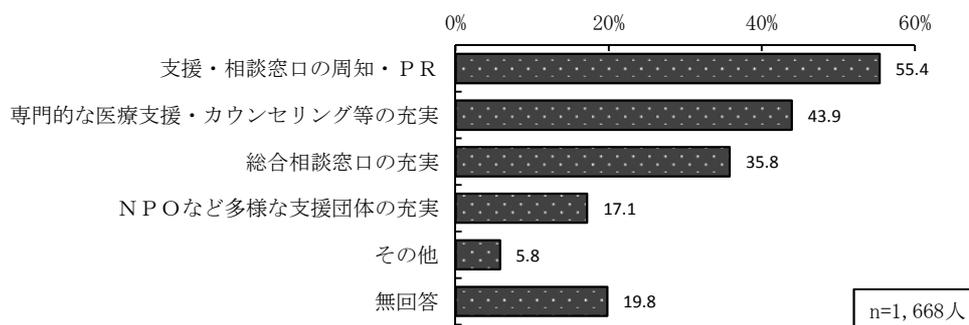
③具体的な支援の状況（複数回答）



該当者への具体的な支援状況については、「生活保護等の福祉サービスを受けている」が28.3%で最も多く、ついで「医療機関等の支援を受けている」が22.3%であった。

(2) ひきこもり等の方への支援策

a. 必要と思う支援策（複数回答）



※「n」本調査有効回答数

回答者にひきこもり等の方へ必要な支援策をうかがったところ、「支援・相談窓口の周知・PR」が55.4%で最も多く、ついで「専門的な医療支援・カウンセリング等の充実」が43.9%であった。

IV 今後の支援に向けた3調査結果の比較

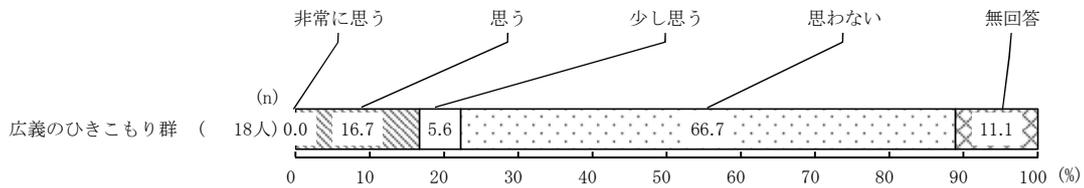
1 関係機関への相談意向

無作為アンケートで、現在の状態について関係機関に相談したいか聞いたところ、15歳～39歳で『思う（「非常に思う」＋「思う」＋「少し思う」）』が22.3%と相談意向が少ない傾向がみられた。一方で、40歳～59歳では『思う』が50.0%であり、半数は相談意向がある傾向がみられた。

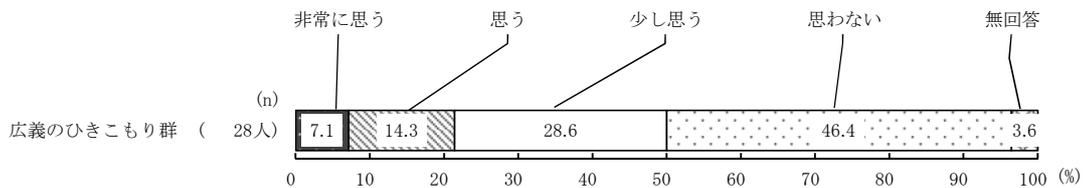
当事者アンケートでは、ひきこもり状態等を変えるために役立っていることとして「ひきこもりに関する相談窓口」が47.8%で最も多く、民生委員等アンケートでは、ひきこもり等の方へ必要な支援策で「支援・相談窓口の周知・PR」が55.4%で最も多かったことから、相談窓口の周知・PRが重要であることがうかがえる。

①無作為アンケート（Q21（現在の状態について関係機関への相談意向）再掲）

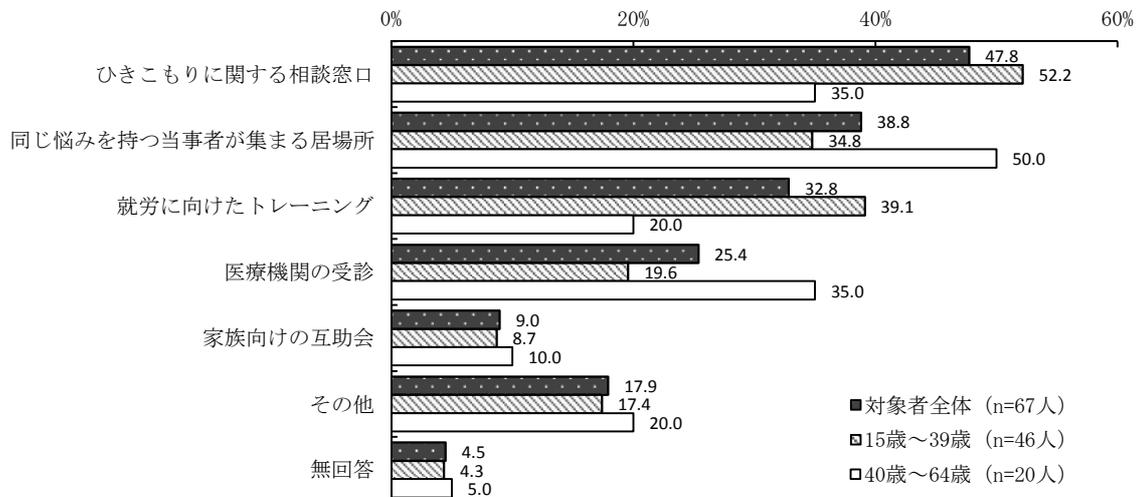
15歳～39歳



40歳～59歳



②当事者アンケート（Q17_2（ひきこもり状態等を変えるために役立っていること）再掲）



③民生委員等アンケート（（2）ひきこもり等の方への支援策 再掲）

